

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第129集

# 上ノ村遺跡 V

波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ



2012. 3

高 知 県 教 育 委 員 会  
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター



かみ の むら い せき  
上ノ村遺跡 V

波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ

2012. 3

高 知 県 教 育 委 員 会  
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター



# 序

水と山林に恵まれた本県では、四国山地に源を発する幾つもの河川が生活と歴史の舞台を形作っています。上ノ村遺跡は、県内の主要な河川の1つである仁淀川流域で計画された、波介川河口導流事業に伴う発掘調査で明らかになった遺跡で、これまでに縄文晩期から現代に及ぶ多くの遺構・遺物が出土しています。

この度刊行する本書『上ノ村遺跡Ⅴ』は、平成18年度に調査を行った第1地点第2区の成果をまとめたものです。同区の内容は古代～中世を中心としており、重なって検出された掘立柱建物群や区画溝の跡からは、当地における集落と土地利用の変遷を知ることができます。また、中世において近畿や東海地方、さらには中国製の貿易陶磁器が多量に出土し、他地域との盛んな交易や海上交通が行われていたことがわかってきました。当遺跡は、太平洋を介して行われた中世土佐の、そのような活動の要となる港津遺跡と考えられます。

近代以降、交通・流通網が陸上交通中心となる中で、本県のような地勢の地域が周縁視される場合もありますが、そのような視点とは異なる郷土の歴史が、私たちの前に立ち上がろうとしています。このように埋蔵文化財は、文書に残されない祖先達の歴史が刻まれた文化的遺産といえます。今後とも埋蔵文化財の保護、調査についてご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、協力を頂いた新居地区の皆様、国交省高知河川国道事務所、発掘作業に携わられた現場作業員の方々に厚く御礼申し上げます。

平成24年3月

財団法人高知県文化財団 埋蔵文化財センター  
所長 森田 尚宏



# 例 言

1. 本書は、(財)高知県文化財団が高知県教育委員会の委託を受けて平成18年度に実施した上ノ<sup>かみの</sup>村遺跡<sup>むら</sup>の発掘調査報告書である。
2. 調査は波介川河口導流事業に伴うもので、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターが調査機関となり実施した。
3. 調査地は土佐市新居上ノ村字土居屋敷5100-1他に所在する。
4. 調査面積  
2,010m<sup>2</sup> (延べ)
5. 調査期間  
平成18年9月～平成18年10月
6. 調査体制  
総括 高知県文化財団埋蔵文化財センター所長 川島博海  
総務 同次長 森田尚宏 同総務課長 戸梶友昭 同主任 池野かおり  
調査総括 同調査課長 廣田佳久  
調査担当 同調査第三班長 出原恵三 同専門調査員 野田秀夫  
技術補助員 片岡和美 測量補助員 岡林真史
7. 本書の執筆・編集は調査第三班長 池澤俊幸が行い、職員、補助員、整理作業員の補助を得た。
8. 発掘調査に際して国土交通省高知河川国道事務所、土佐市の協力を得た。また、出土遺物に関して中世土器研究会の諸氏より協力と教示を頂いた。記して感謝申し上げます。
9. 整理・報告書作成作業には岡林真史、片岡和美、入野三千子、岡崎千枝、門田美知子、志磨村美保、高橋加奈、高橋由香、竹村加奈子、竹村延子、土居初子、藤原ゆみ、山中美代子、吉本由佳が携った。発掘調査及び報告書作成に関して埋蔵文化財センター諸氏から協力や教示を得た。
10. 出土遺物には「06-8TK」と注記して高知県立埋蔵文化財センターで保管している。

## 凡 例

遺構略号はSD(溝跡)、SK(土坑)、SX(性格不明遺構)、P(ピット)、SB(掘立柱建物跡)とした。図表中土質の「粘」=粘土質、「シ」=シルト。

遺物実測図の縮尺は1/3を基本に、大型・小型品は適切な縮尺とし、スケール又は注記を添えた。方位Nは世界測地系による方眼北である。

遺構番号は発掘調査時のものを可能な限り使用した。調査や整理の進行に伴う修正や変更のため、欠番がある。





# 本文目次

第Ⅰ章 序章	1
発掘調査成果の概要	1
第Ⅱ章 調査の概要	3
1 調査区の概要	3
2 基本層準	3
第Ⅲ章 遺構と遺物	9
A. 上面	9
1. 中世前期	9
2. 中世後期	21
B. 下面	29
1. 古墳時代	29
2. 古代	29
第Ⅳ章 まとめ	62
A. 出土遺物	62
1. 古代	62
2. 中世	63
(1) SX1出土遺物	63
(2) 瓦器	63
(3) 東播系須恵器	64
(4) その他の搬入品	64
(5) 小結	64
B. 1-2区の建物跡等について	66
C. 上ノ村遺跡における古代・中世遺構の概要	66
1. 中世	66
(1) 敷地区画	66
(2) 区画群の変遷について	68
(3) 企画方位	69
2. 古代	69
第Ⅴ章 附編	71
A. 他区出土の遺物	71
B. 試掘確認調査	72

# 挿 図 目 次

図1	上ノ村遺跡位置図	vi
図2	上ノ村遺跡・北ノ丸遺跡 調査全区の概要	2
図3	遺構配置図 北半(上面)	4
図4	遺構配置図 南半(上面)	5
図5	遺構配置図 北半(下面)	6
図6	遺構配置図 南半(下面)	7
図7	1-2区西壁 基本層準概要図	8
図8	SX1遺構・出土瓦器実測図1	10
図9	SX1出土瓦器実測図2	11
図10	SX1出土瓦器実測図3	12
図11	SX1出土瓦器・土師質土器実測図	13
図12	SX1出土土師質土器実測図	14
図13	SX1出土土器・磁器実測図	15
図14	中世前期土坑・溝跡・出土遺物実測図	17
図15	集石2・土器集中1・出土遺物実測図	18
図16	常滑1・2・3平面・断面図	19
図17	常滑1・2・3出土遺物実測図	20
図18	集石1	21
図19	中世前期ピット	22
図20	中世前期ピット出土遺物実測図1	23
図21	中世前期ピット出土遺物実測図2	24
図22	SK1平面・出土遺物実測図	25
図23	SK4・5・出土遺物実測図	26
図24	中世後期ピット・出土遺物実測図	27
図25	古代土坑(調査区北半)・出土遺物実測図	28
図26	古代土坑(調査区南半)・出土遺物実測図	30
図27	古代溝跡・出土遺物実測図	32
図28	SD28(集中)出土遺物実測図1	33
図29	SD28(集中)出土遺物実測図2	34
図30	古代ピット・出土遺物実測図	36
図31	包含層出土遺物実測図1(瓦器)	37
図32	包含層出土遺物実測図2(瓦器)	38
図33	包含層出土遺物実測図3(中世須恵器等)	39
図34	包含層出土遺物実測図4	40
図35	包含層出土遺物実測図5(貿易陶磁器)	41
図36	包含層出土遺物実測図6	42

図37	包含層出土遺物実測図7(中世後期・古代等)	43
図38	包含層2出土遺物実測図1	44
図39	包含層2出土遺物実測図2	45
図40	中近世ピット・出土遺物実測図	46
図41	1-6・7区出土遺物	71
図42	試掘確認調査区平面図	72
図43	試掘確認調査区西壁土層図	73
図44	石積み護岸遺構	74

## 付 図

1	上ノ村遺跡 1-2 区 上面 遺構埋土及び出土遺物 (S = 1/200)
2	上ノ村遺跡 1-2 区 下面 遺構埋土及び出土遺物 (S = 1/200)
3	上ノ村遺跡 1・3 地点検出遺構図 (上面) (S = 1/500)
4	上ノ村遺跡 1・3 地点検出遺構図 (中面) (S = 1/500)
5	上ノ村遺跡 1・2・3 地点検出遺構図 (中面) (S = 1/1200)
6	上ノ村遺跡 1 地点検出遺構図 (下面・古代) (S = 1/500)

## 表 目 次

表1	調査区一覧	3
表2	古代溝跡間隔	31
表3	遺構計測表	47
表4	遺物観察表	49
表5	土佐の古代～中世土器編年と畿内等編年・年代	62
表6	抽出遺物資料(古代)	63
表7	抽出搬入品(中世)	65
表8	中世区画 軸方位一覧	67
表9	古代遺構 軸方位一覧	69
表10	遺物観察表(附編)	71

# 写真目次

- 図版 1 空撮
- 図版 2 空撮
- 図版 3 上面完掘状態
- 図版 4 下面遺構検出状況・下面完掘状態
- 図版 5 下面完掘状態
- 図版 6 下面南区完掘状態・SX1 遺物出土状況
- 図版 7 SX1 遺物出土状況
- 図版 8 SX1 遺物出土状況
- 図版 9 SX1 遺物出土状況・SX1 セクション a 遺物出土状況
- 図版 10 SX1 セクション a 遺物出土状況・SX1 セクション b 遺物出土状況
- 図版 11 SX1 セクション b・P19 セクション
- 図版 12 土器集中 1 出土状況・集石 2 出土状況
- 図版 13 常滑群出土状況・常滑 1 出土状況
- 図版 14 常滑 2 出土状況・常滑 3 出土状況
- 図版 15 集石 1 出土状況・P454 196 出土状況
- 図版 16 P470 192・191 出土状況・SK1 セクション
- 図版 17 SK4 掘削状況・SK5 掘削状況
- 図版 18 P214 220 出土状況・P239 210 出土状況
- 図版 19 土器集中 4 出土状況・SK14 遺物出土状況
- 図版 20 SK8 遺物出土状況・SD28 上層土器集中出土状況
- 図版 21 SD28 土器集中出土状況
- 図版 22 SD28 遺物出土状況
- 図版 23 P539 257 出土状況・SD12 240・P352 遺物出土状況
- 図版 24 352 出土状況・303 出土状況・260 出土状況・271 出土状況
- 図版 25 310・353 等出土状況・381 出土状況・385 出土状況
- 図版 26 383 出土状況・417 出土状況・445 出土状況・432 出土状況
- 図版 27 395・399・400 出土状況・325 出土状況
- 図版 28 冠水状況・試掘区 石積み遺構等
- 図版 29 試掘区 石積み遺構
- 図版 30 試掘区 石積み遺構セクション・試掘区 北壁セクション
- 図版 31～42 SX1
- 図版 43 SX1 (120～127)・SK3 (128)・SK16 (129)
- 図版 44 SK20 (130)・SD1 (131～133)・集中 (134～139)
- 図版 45 SX1 (143)・集中 (140～145)・常滑 (147)
- 図版 46 SX1 (146)・常滑 (148～150)・ピット (151, 152)

- 図版 47～50 ピット
- 図版 51 ピット (191～199)・SK1 (200)
- 図版 52 SK1 (201, 202)・SK4 (203～207)・SK5 (208, 209)
- 図版 53 ピット
- 図版 54 集中 4
- 図版 55 SK13・SK14
- 図版 56 SK8・10・11・SD11・12・14
- 図版 57 SD28
- 図版 58～60 SD28 集中
- 図版 61 SD28 集中・ピット(ピット)
- 図版 62～64 包含層
- 図版 65 包含層・西壁
- 図版 66～82 包含層
- 図版 83 包含層・包含層 2
- 図版 84～90 包含層 2
- 図版 91 1-6・7 区出土遺物



図1 上ノ村遺跡位置図

# 第 I 章 序章

## 発掘調査成果の概要

地理・歴史的環境や調査の経緯については、当遺跡の既刊各刊に記したので本書では重複を避け、調査域全体の概要を記す。

川側の丘陵裾部である第3地点では、無刻突帯を有する縄文晩期土器がまとまって出土しており、その分布や展開に関する新たな知見となった。玉類の出土数は四国最多級で、その他石器はサヌカイトや姫島産黒曜石製のものを含む。

弥生時代の住居跡等は1地点で検出された。特に1-7区では中期後半の遺構等から鉄器及び鉄関連遺物が集中的に出土しており、時期、数量の両面において四国でも注目される事例である。それらが凹線文と共に画期的に出現することも重要である。

北西の谷部にある北ノ丸遺跡では古墳時代後期～古代の木製品が種々出土し、古墳後期の琴や衣笠の鏡板、儀杖とみられるものを含む。

古代の遺物は全域的に出土したが、建物や溝跡は第1地点に集中している。施釉陶器等が多数出土しており、第IV章で述べる。

中世は当遺跡の最盛期で、多量の遺物が全域的に出土する。遺構も複数時期のものが重複して検出され、1地点では区画溝と掘立柱建物群、薬研掘りの大溝、井戸跡等が存在する。河岸直近の県教委試掘区まで（第V章）、遺構・遺物が検出された。

第2地点では中世後期を中心とする遺構面に加えて、近世前期の石積み護岸遺構が244mにわたって検出された。各部分で構築法の違いがみられ、県下で知られる他の石積み・石垣遺構との比較資料となる。また、「太閤堤」との類似性も指摘される。同護岸遺構と一部交錯・重複して検出された近代頃の石積み堤防遺構では、地中基礎部分に木組みを使用し、全体に川原石を充填している。通常裾部に配置される「木柵」と同様の手法を地中基礎に使用した他例はみられず、伝統的治土木技術に関する貴重な資料である。

第6地点には新居城跡があり、豎堀の存在は知られていた。試掘調査の結果、斜面より東播系須恵器捏鉢が出土し、報告されている。なお、豎堀は工区外に保存された。

同地点では、小銃掩体と交通壕からなる陣地跡が発見された。周辺地区での聞き取りによって、構築した部隊、及び地区での滞在状況や詳細な時期が明らかとなった。地域における旧軍の具体的な活動と遺構を関連させて把握できる貴重な資料となる。記録が僅少で、体験者からの聞き取りも永遠に不可能となっていく戦時資料の保存と記録は、喫緊の課題である。

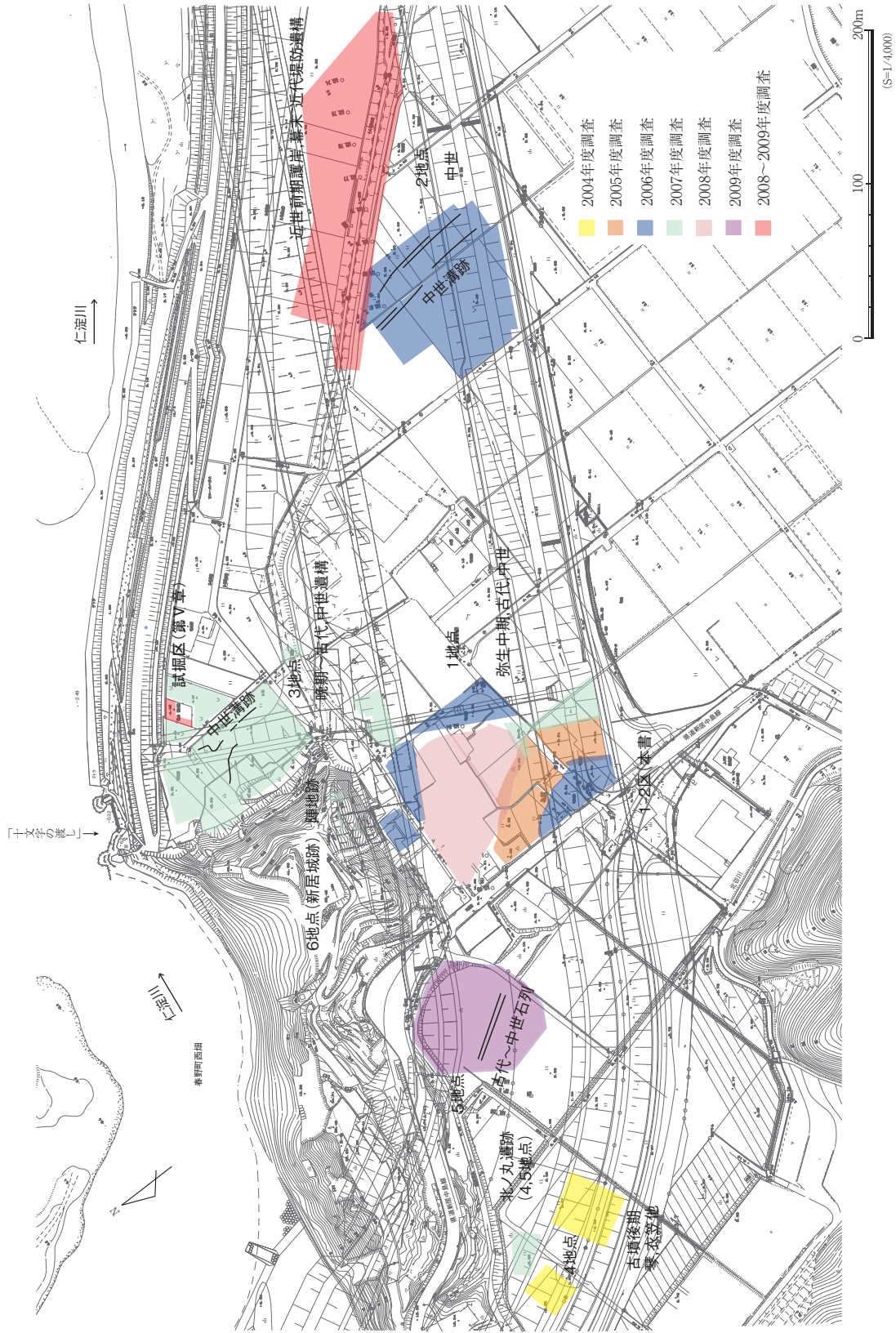


図2 上ノ村遺跡・北ノ丸遺跡 調査全区の概要



## 第Ⅱ章 調査の概要

### 1 調査区の概要

本書で報告する調査第1地点第2区（以下1-2区）の全容は図3～6のとおりである。中央部に遺構が検出されない部分があり，以北を1-2 N，以南を1-2 Sと呼称した。

なお，当調査区の北～東に隣接するNW・NE・S区は，「上ノ村遺跡Ⅰ」で報告されている。

### 2 基本層準

調査区西壁の土層を示す。傾斜は比較的平坦で，堆積は複雑でない。遺構検出面は上・下の2面が認識された。遺物包含層は上から包含層「1」，同「2」として取り上げ，必要なものは観察表にも反映させた。

調査区名	調査 平面積	調査面	調査延べ 面積	調査期間	報告書名
上ノ村遺跡1地点 (S区西側・NW・NE区)	2,490㎡	2面	4,980㎡	2005年8月～2005年12月	上ノ村遺跡Ⅰ
同1地点1区	850㎡	一部 2面	1,150㎡	2006年4月～2006年8月	上ノ村遺跡Ⅳ
同1地点2区	1,005㎡	2面	2,010㎡	2006年9月～2006年10月	上ノ村遺跡Ⅴ
同1地点3A区	540㎡	3面	1,620㎡	2006年11月～2007年3月	上ノ村遺跡Ⅳ
同1地点3B区	300㎡	2面	600㎡	2006年12月～2007年3月	上ノ村遺跡Ⅳ
同1地点3区拡張区	500㎡	2面	1000㎡	2007年4月～2007年7月	上ノ村遺跡Ⅳ
同1地点4区(S区東側)	950㎡	2面	1,900㎡	2007年4月～2007年6月	上ノ村遺跡Ⅳ
同1地点5区	1,150㎡	1面	1,150㎡	2007年11月～2008年3月	上ノ村遺跡Ⅳ
同1地点5区	1,270㎡	3面	3,800㎡	2008年4月～2008年7月	上ノ村遺跡Ⅳ
同1地点6区	1,400㎡	4面	5,600㎡	2008年7月～2009年3月	上ノ村遺跡Ⅳ
同1地点7区	1,530㎡	3面	4,600㎡	2008年9月～2009年3月	上ノ村遺跡Ⅳ
同2地点(1～3区 中世)	5,900㎡	1面	5,900㎡	2006年10月～2007年3月	上ノ村遺跡Ⅱ
同2地点 (3～5区, 堤防・護岸)	7,100㎡	2面	13,100㎡	2008年6月～2009年9月	上ノ村遺跡Ⅵ
同3地点(1～5区, 拡張区)	5,280㎡	1～3面	11,730㎡	2007年6月～2008年2月	上ノ村遺跡Ⅲ・Ⅱ
同6地点	400㎡	1面	400㎡	2007年8月～2007年11月	上ノ村遺跡Ⅱ
北ノ丸遺跡4地点(N・S区)	1,500㎡	2面	3,000㎡	2004年10月～2004年12月	北ノ丸遺跡Ⅰ
同4地点	400㎡	1面	400㎡	2007年9月～2007年11月	北ノ丸遺跡Ⅱ
同5地点	3,500㎡	1面	3,500㎡	2009年4月～2009年9月	北ノ丸遺跡Ⅱ
旧堤試掘	150㎡	1面	150㎡	2007年10月	
計	36,215㎡		66,590㎡		

表1 調査区一覧



图3 遺構配置図 北半(上面)



図4 遺構配置図 南半(上面)



图5 遺構配置図 北半 (下面)

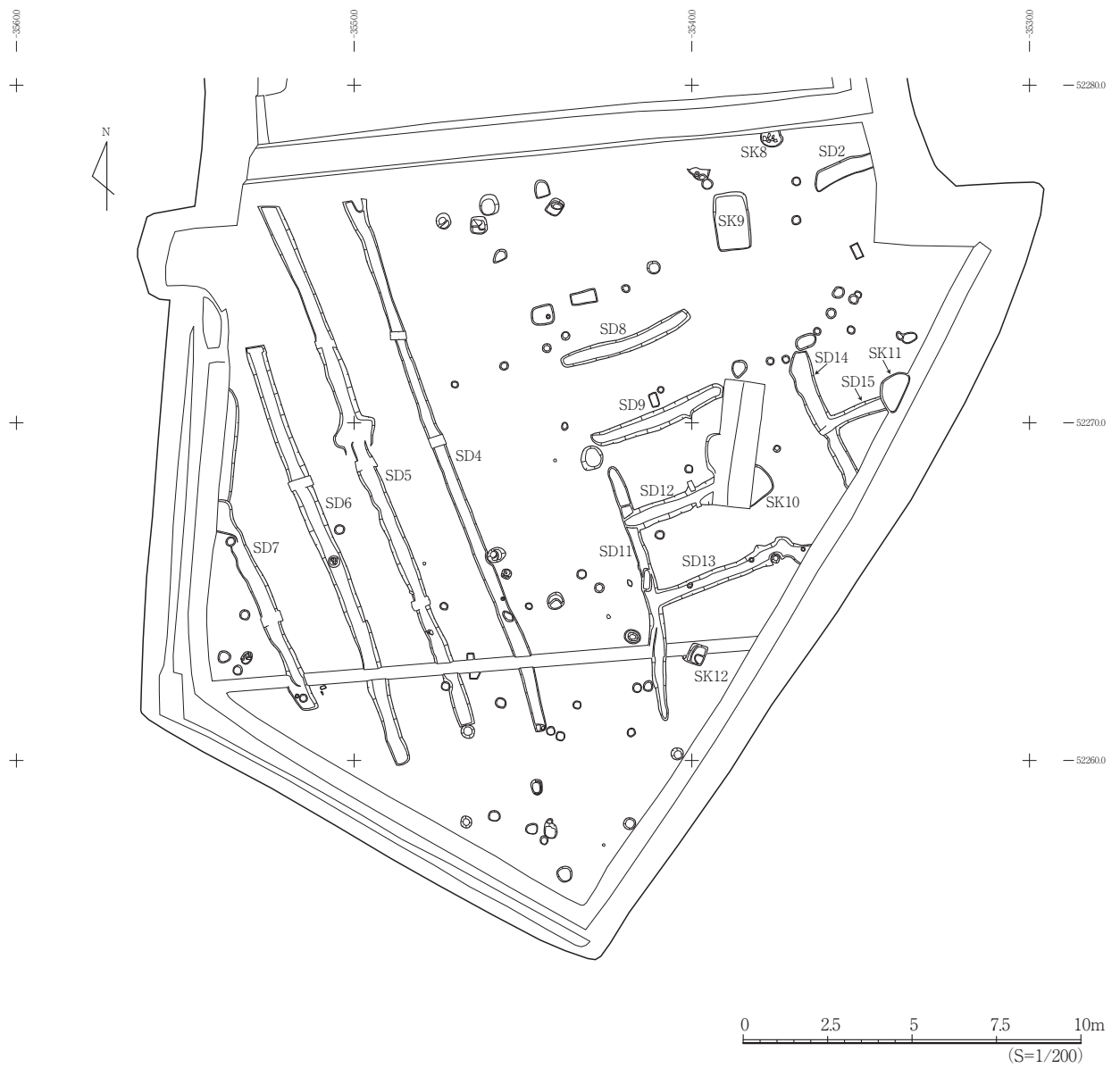
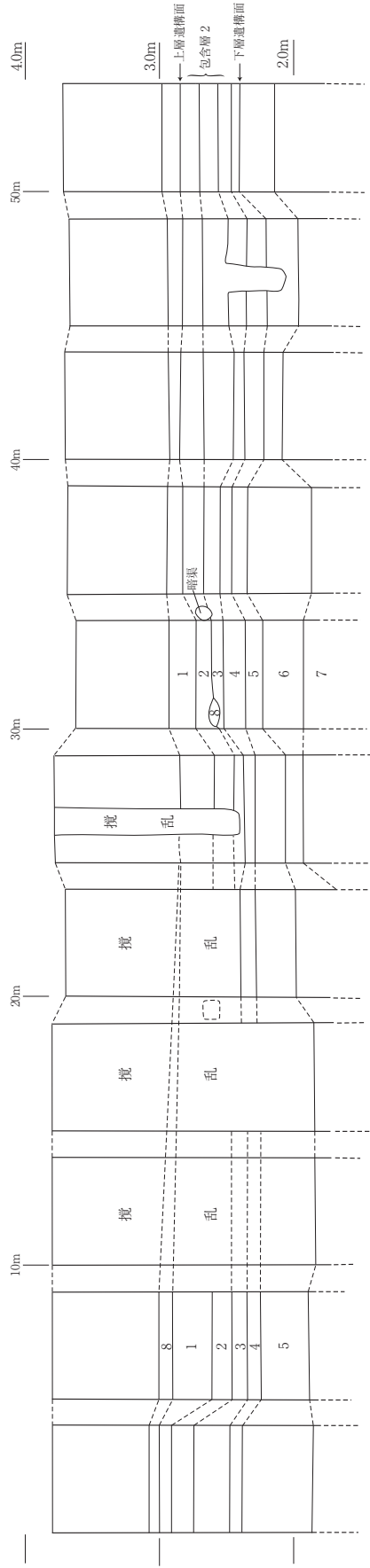


図6 遺構配置図 南半(下面)



1.0m  
(高さ・S=1/50)

0 5m  
(S=1/250)

- 1層：10YR 4/2 灰黄褐。褐色混，シルト。
- 2層：10YR 6/2 灰黄褐。褐色混，シルト。
- 3層：10YR 5/3 鈍い黄褐。暗褐混，砂質シルト。
- 4層：10YR 4/4 褐。暗褐混，粘土質シルト。
- 5層：7.5YR 4/3 褐。暗褐混，粘土質シルト。
- 6層：10YR 3/4 暗褐。黄褐混，シルト質粘土。
- 7層：10YR 2/3 黒褐。粘土。
- 8層：10YR 4/3 鈍い黄褐。灰白混，シルト。

図7 1-2区西壁基本層準概要図

## 第Ⅲ章 遺構と遺物

遺構検出面は2面認識でき、且つ概ね中世と古代に分かれる傾向を示すため、上面と下面に分けて記す。また、出土遺物からも検討を加え、適宜文中や表3、付図1・2に記した。SK16、SD1やピットの一部に、検出面は下面だが中世の遺物が出土したものがある。

### A. 上面

#### 1. 中世前期

遺物で指標としたものは主に瓦器、東播系須恵器捏鉢、劃花文・櫛描文や鎬蓮弁文の青磁、紀伊型土釜等である。

#### 性格不明遺構

##### SX1

北部で検出した遺構で、深さは30cm余りだが平面規模が比較的大きく、相当部分が調査区外にあるとみられる。東辺は約N-0.5°-Wを測る。当区の遺構出土遺物が多くはない中で、比較的まとまった量の遺物が出土した。遺物は床面及びやや浮いた位置で検出され、数10cm大の砂岩角石を主体とした石群も出土した。

出土遺物は別表のとおりで、瓦器の調整について、確認できるものは全て内面にミガキ或は暗文を施し、外面には一切施さない。ミガキ密度や法量も概ね近似しており、発色等は瓦器として違和感のない状態である。暗文を観察できるものでは平行暗文が多く、連結輪状は少ない。平行暗文はミガキに先行しており、体部をめぐるミガキより細く鋭い。連結輪状暗文では体部ミガキを切るものがある。使用痕跡に関して、内面の摩耗したものは少ないが、存在する。皿に、ミガキを施したものがある。その他、青磁碗太宰府I-4類2点や白磁碗Ⅷ類、東播系須恵器碗があり、瓦器や土師質土器との時期的齟齬はない。土師質土器小皿を含め、明確な灯明痕は認められない。

#### 土坑

##### SK3

調査区北端で検出した残深5cmの遺構で、青磁碗片が出土した。

##### SK16

「下面」で検出されたが、東播系須恵器捏鉢が出土している。浅いピット状である。

##### SK20

SK2と切り合う残深11cmの遺構で、青磁鎬蓮弁文碗が出土している。

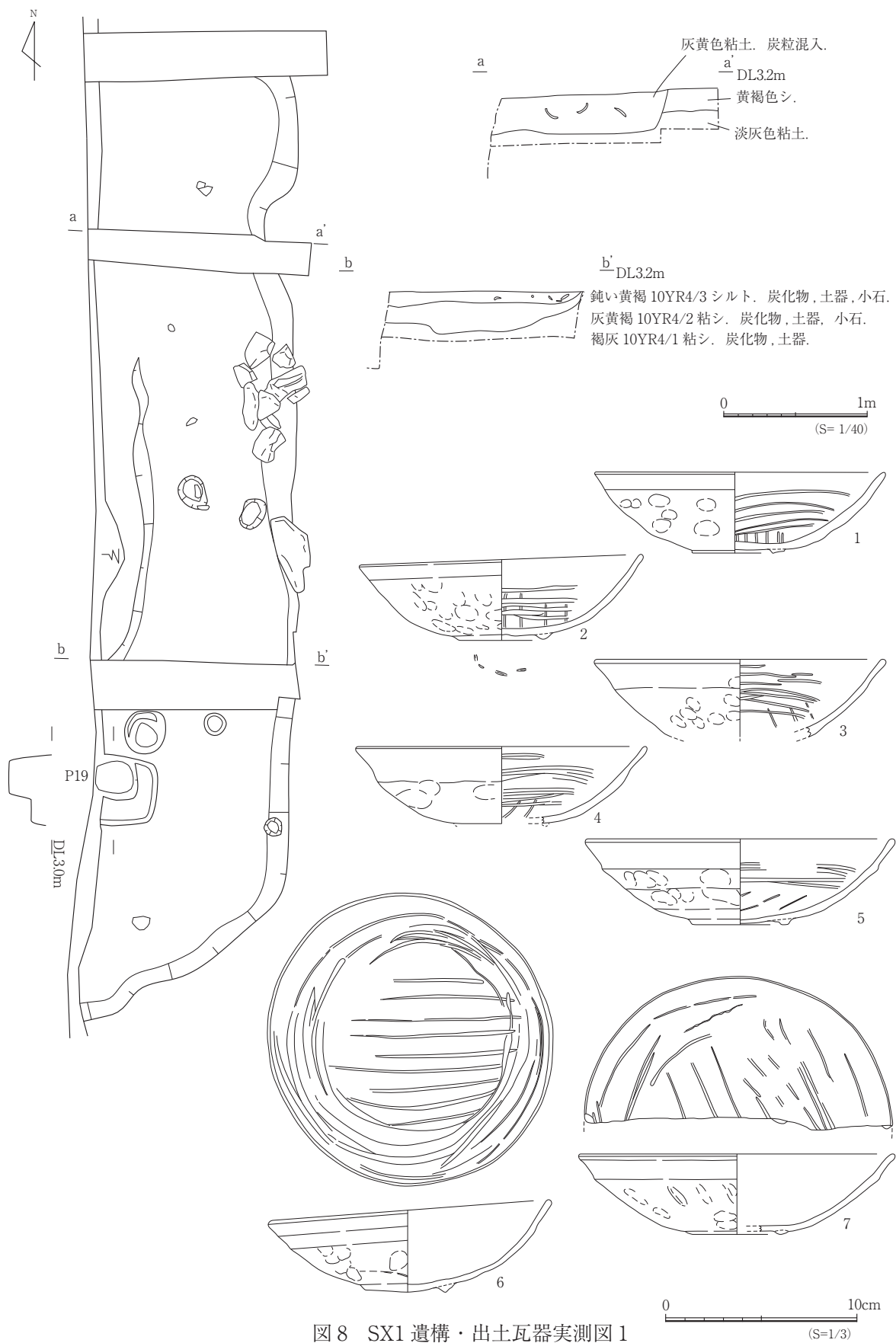


図8 SX1 遺構・出土瓦器実測図1



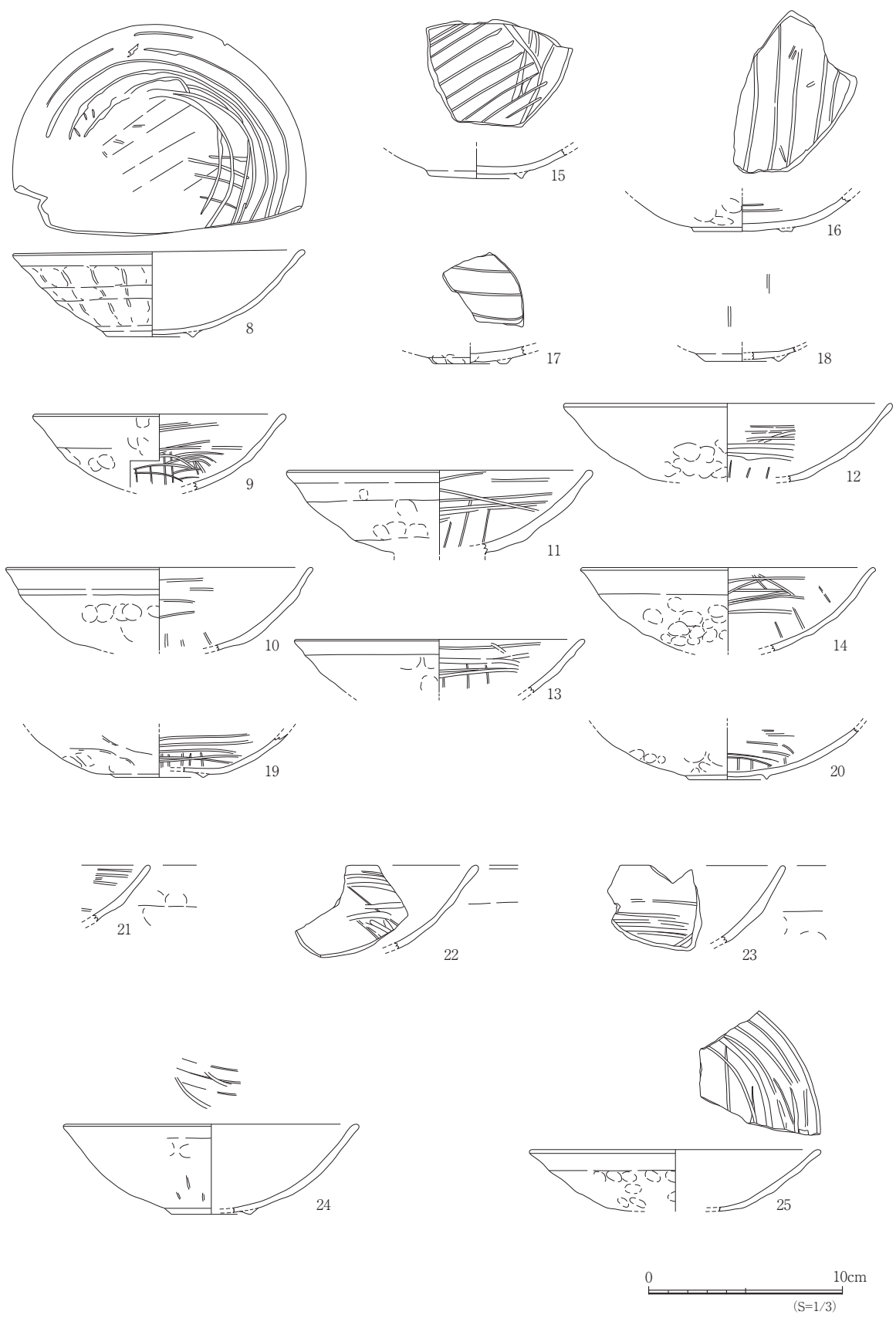
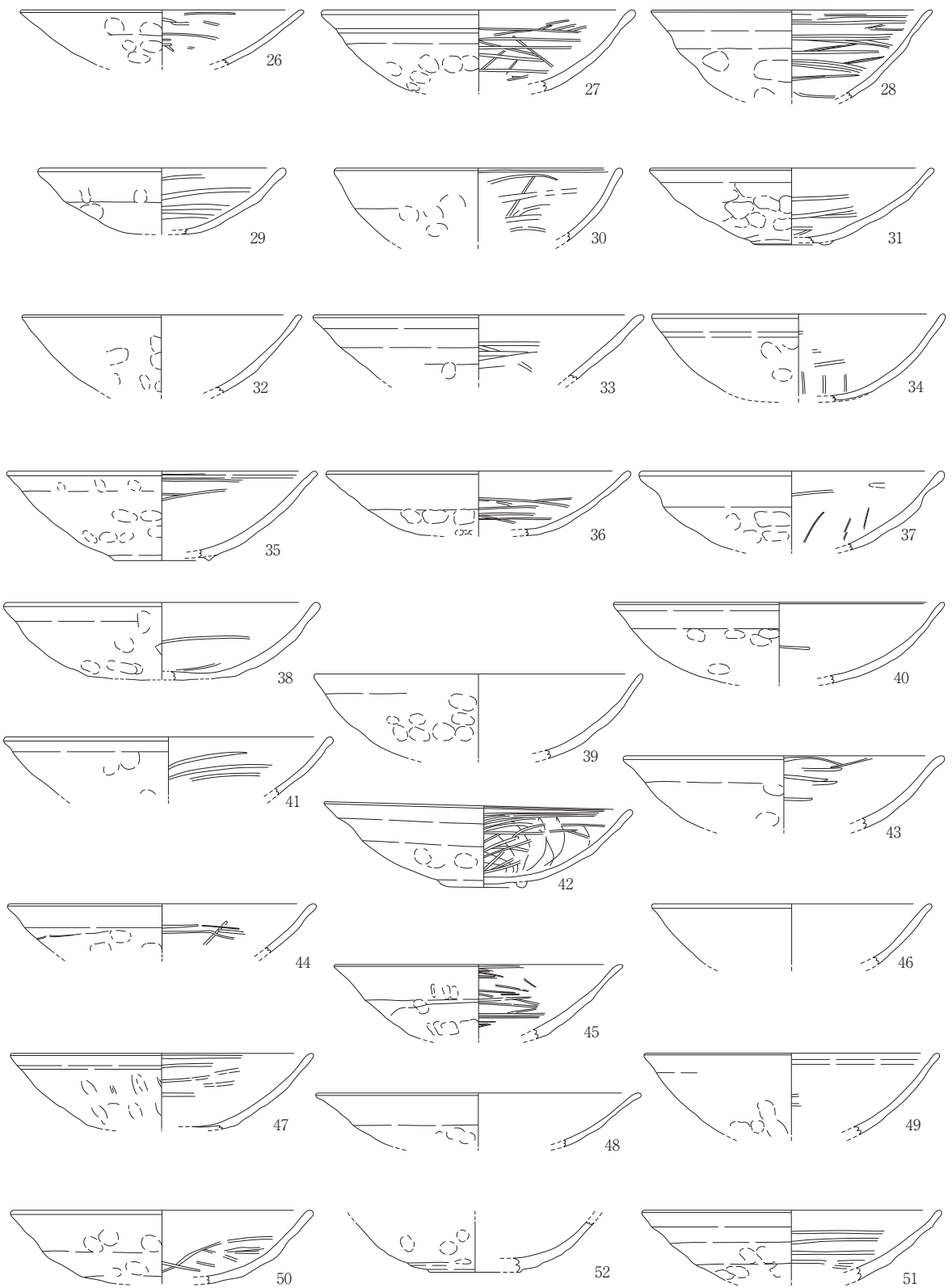


图9 SX1 出土瓦器实测图2



0 10cm  
(S=1/3)

图 10 SX1 出土瓦器实测图 3

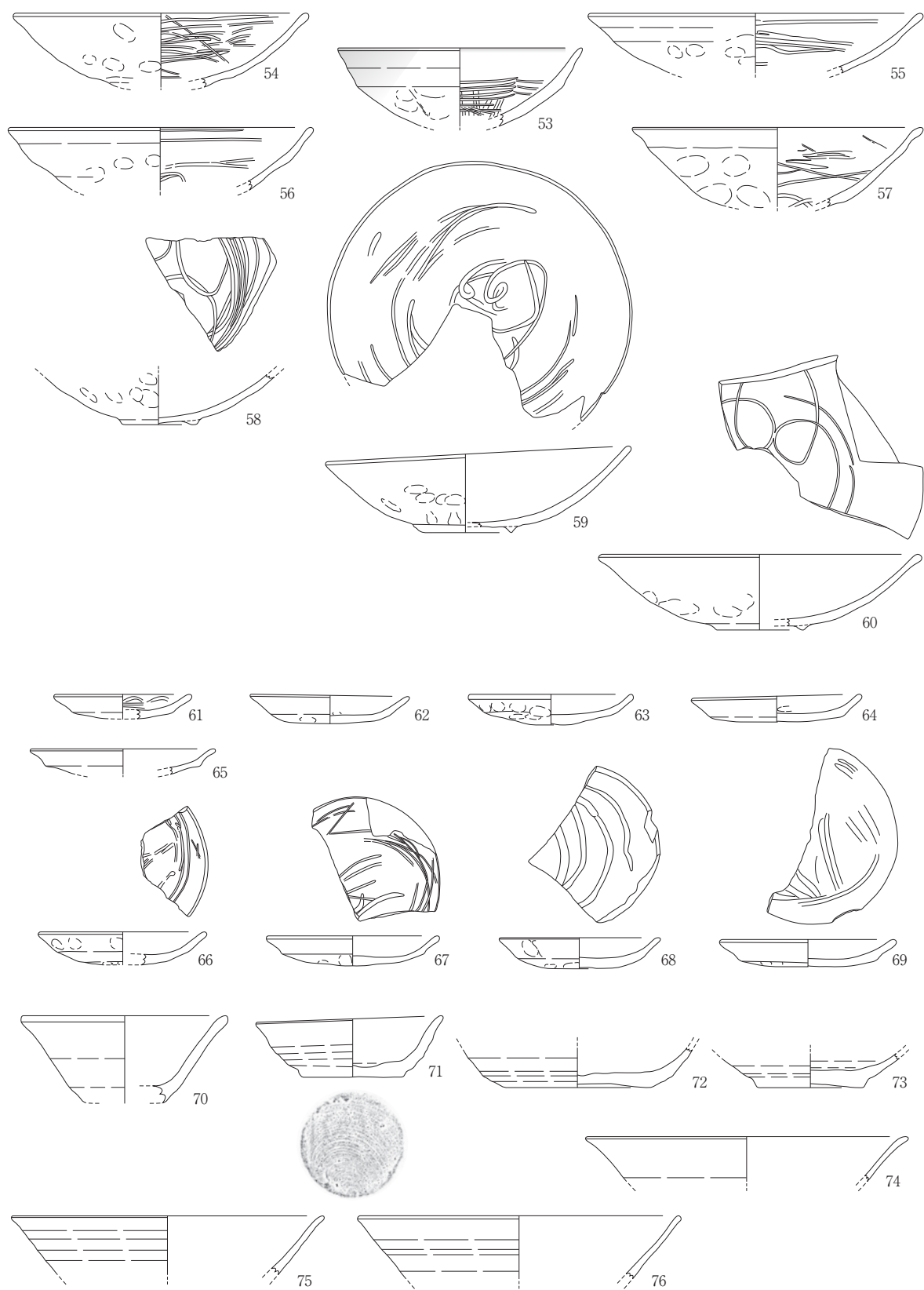


图 11 SX1 出土瓦器・土師質土器実測図

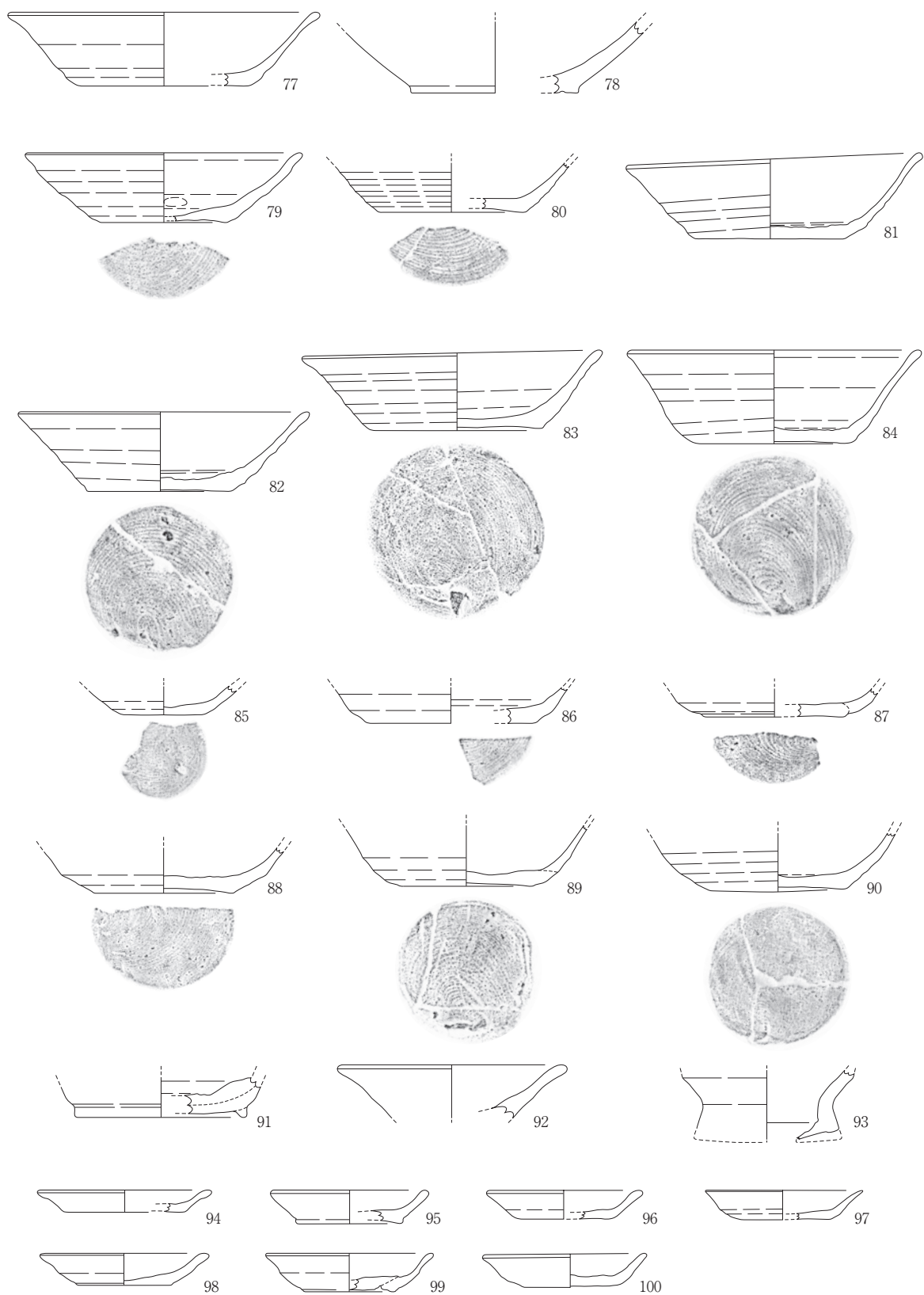


图 12 SX1 出土土師質土器実測図

0 10cm  
(S=1/3)

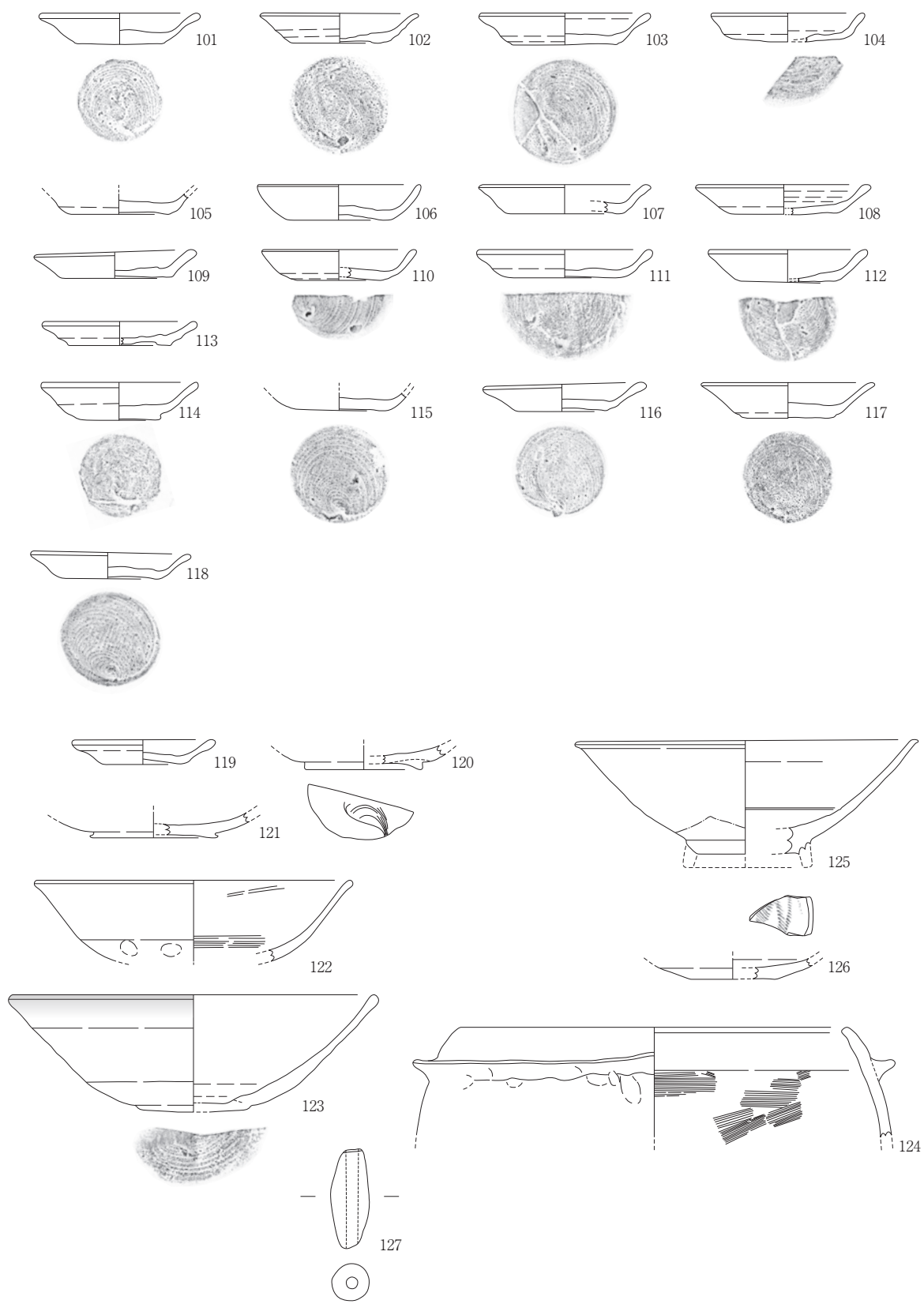


图 13 SX1 出土土器·磁器实测图

## 溝跡

### SD1

調査区中央南寄りに位置する東西溝で、方位は W-5°-S を測る。出土遺物に瓦器椀 1 点を含む。

### 集中1・集石2

遺構が分布しない調査区中央部の南寄りで検出した。

集中1は瓦質の鍋、ほぼ完形の羽釜、土師質土器皿・杯、青磁碗片、刀子他の遺物が約 1.5 × 2.0 m の範囲で検出された。羽釜の直下は浅いピットであった。

集石2は20～30cm大の砂岩角石を主体とし、北部では石列状に配されている。赤変したのものもあり、被熱の可能性はある。

集中1及び集石2は遺棄時の状態を一定保っているとみられ、他遺構が検出されない地点で近接していることから、関連している蓋然性が強い。

### 常滑1・2・3

南部で検出した大甕の各々一部で、常滑1は体部下半の一部であるが複数片が接合した。同2は底部が割れたものであった。同3には瓦器皿と土師質土器杯を伴う。常滑1・2は、取り上げ後に重複或は接してピットが検出された。

### 集石1

調査区南部で遺構が検出される部分の北縁に位置する。10数～30cm大の川原石及び砂岩角石を配し、平面形は矩形を呈する。伴う出土遺物はない。

### ピット

出土遺物等より当該期に比定できるピットが北部を中心に所在するが、中世後期のピットと混在しており、現地での観察や付図1の整理結果をみても、建物跡として明示できない。ピットからの出土遺物は少なく、慎重にならざるを得ない結果であった。中世後期の項及び第IV章で再述する。

個別的には P19・134・394・470 では土器や銭の埋納がみられる他、P49・50・574 も同様の可能性がある。

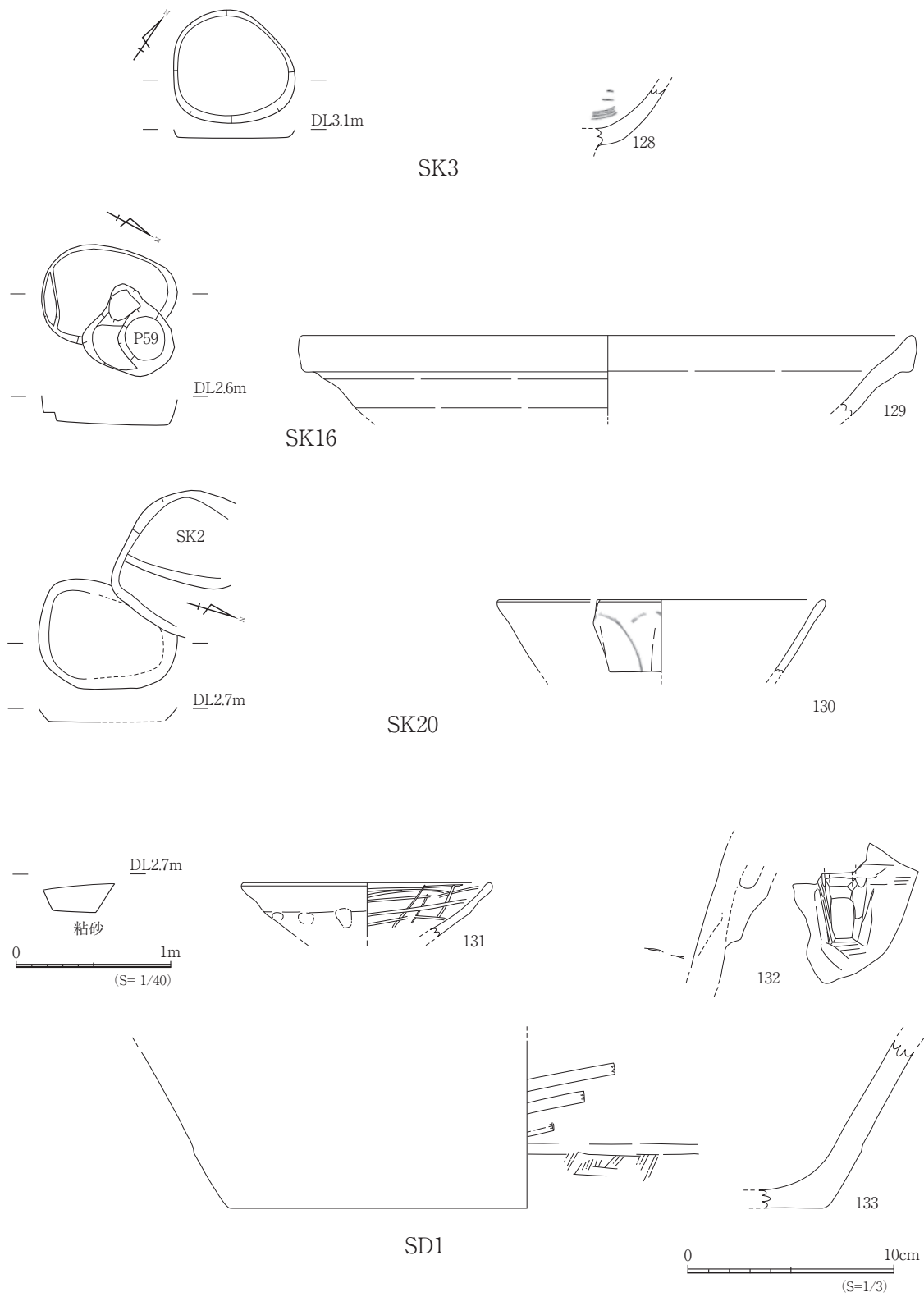


图 14 中世前期土坑·沟迹·出土遗物实测图

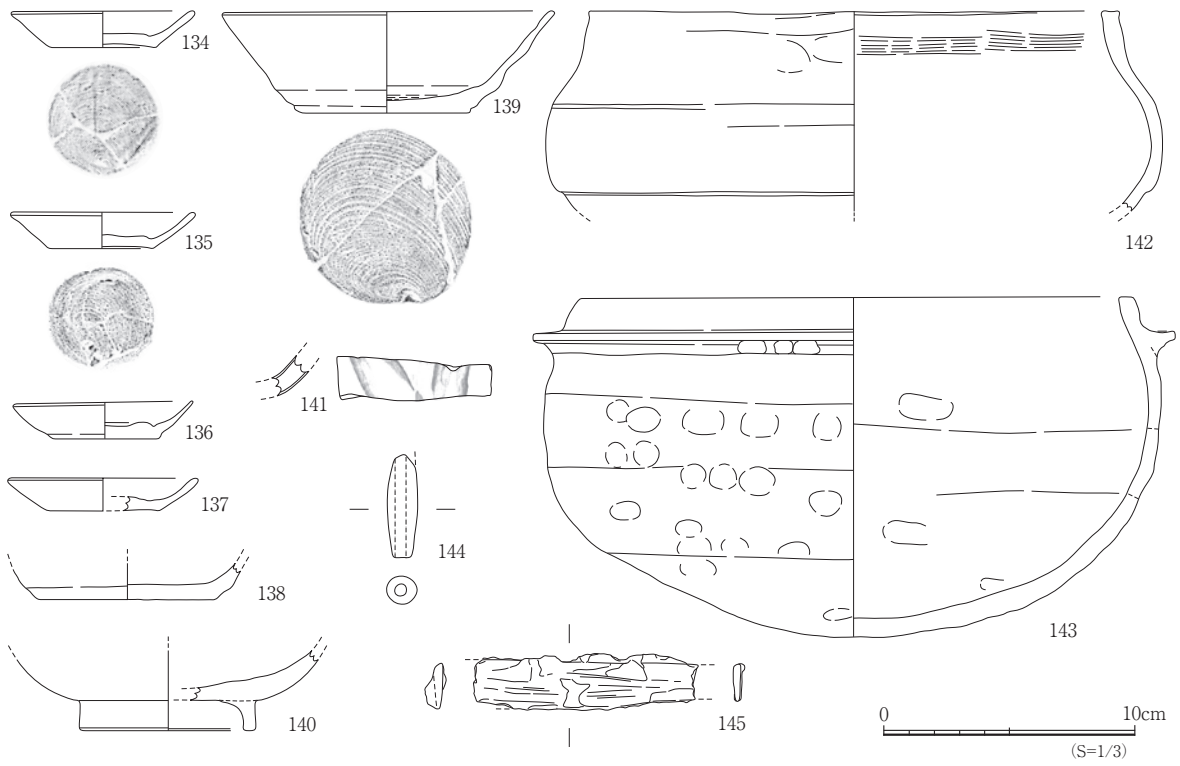
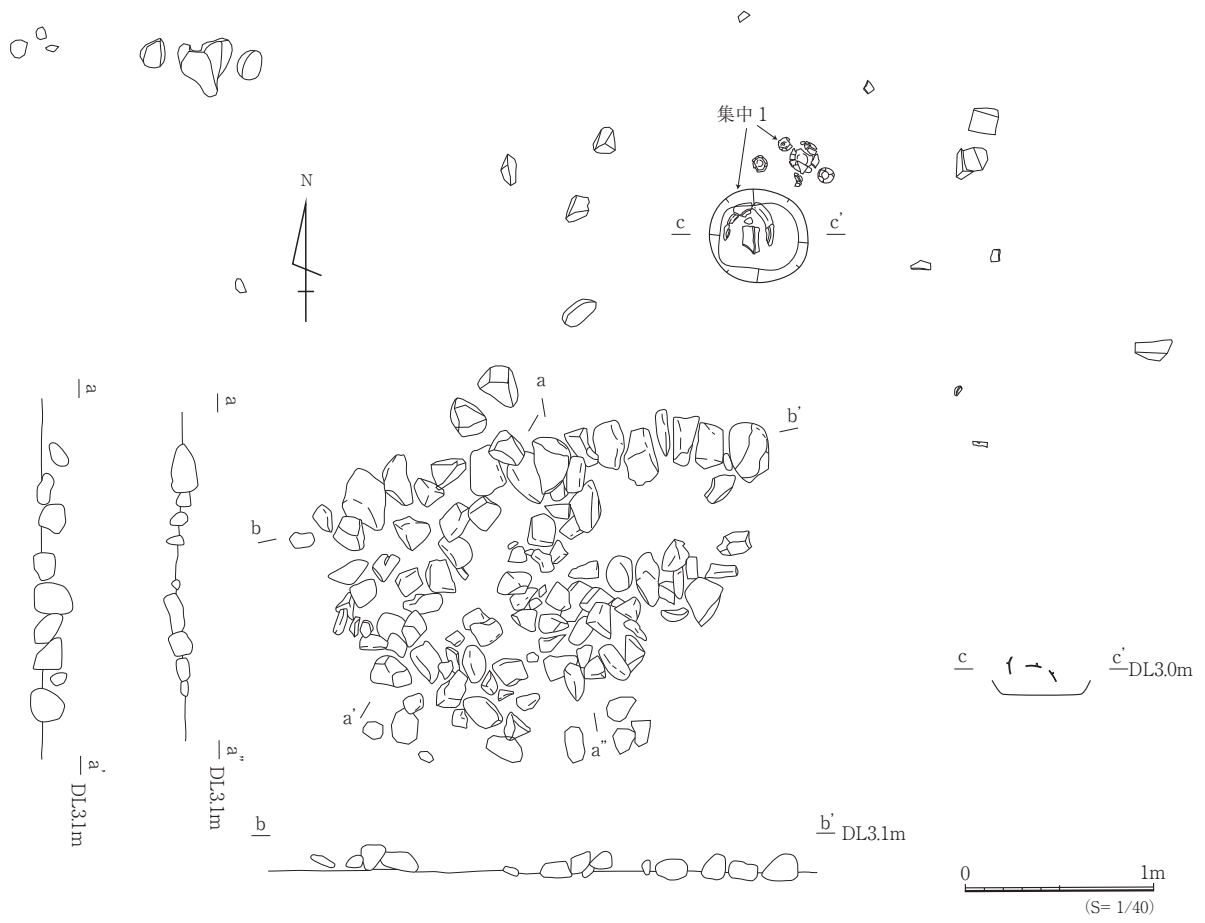


图 15 集石 2·土器集中 1·出土遺物実測図



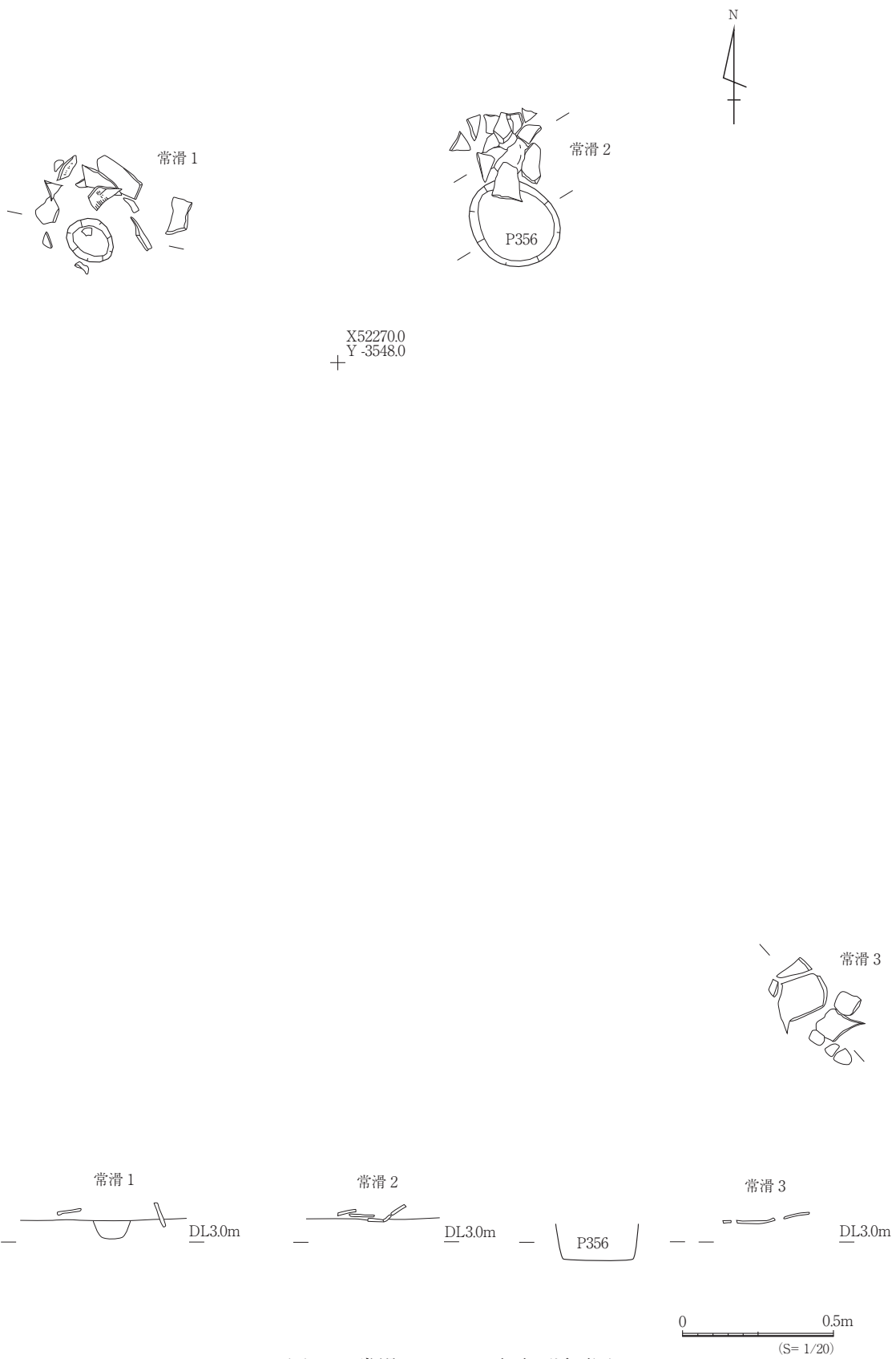


图 16 常滑 1·2·3 平面·断面图

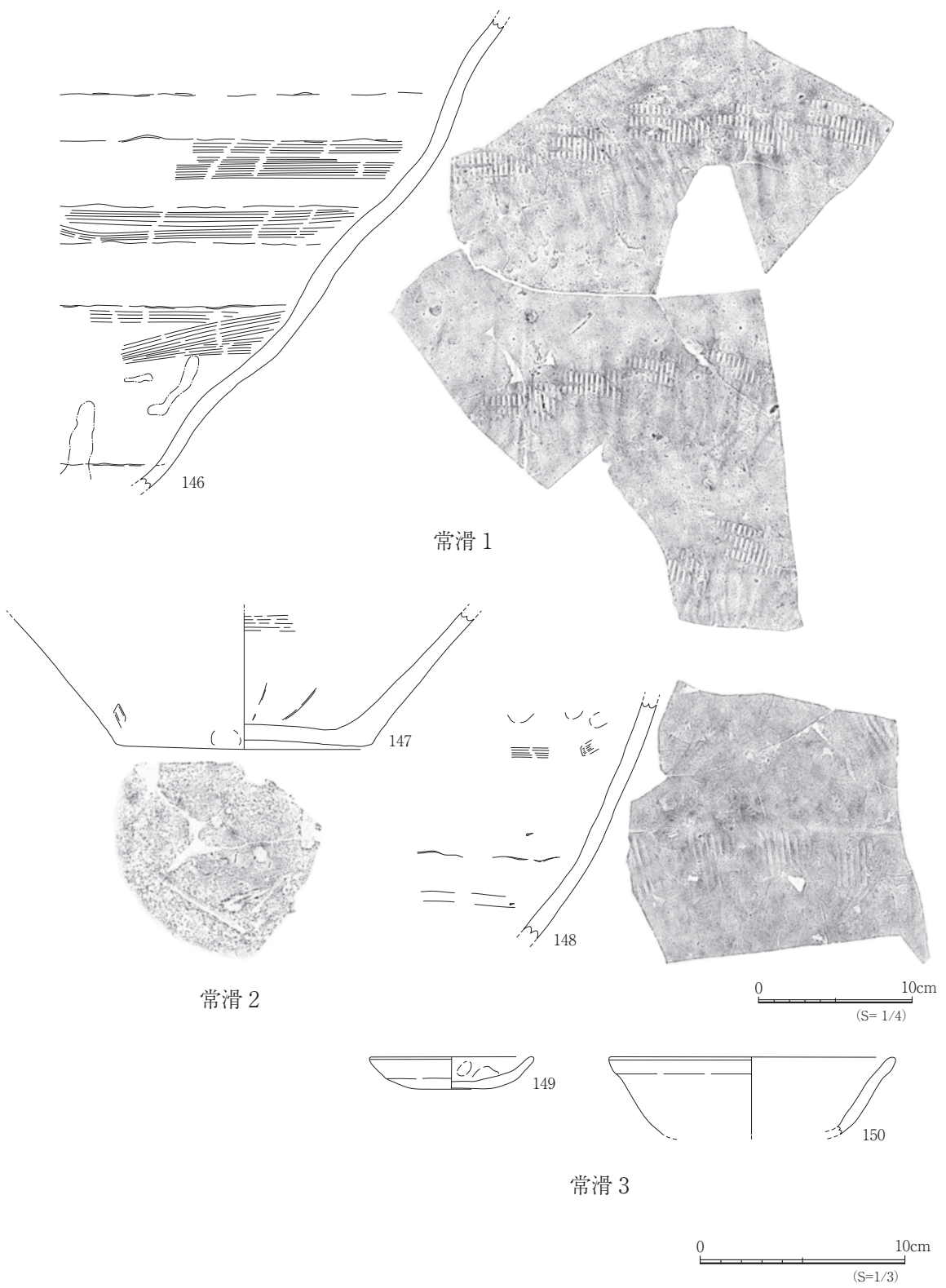


图 17 常滑 1·2·3 出土遺物実測図

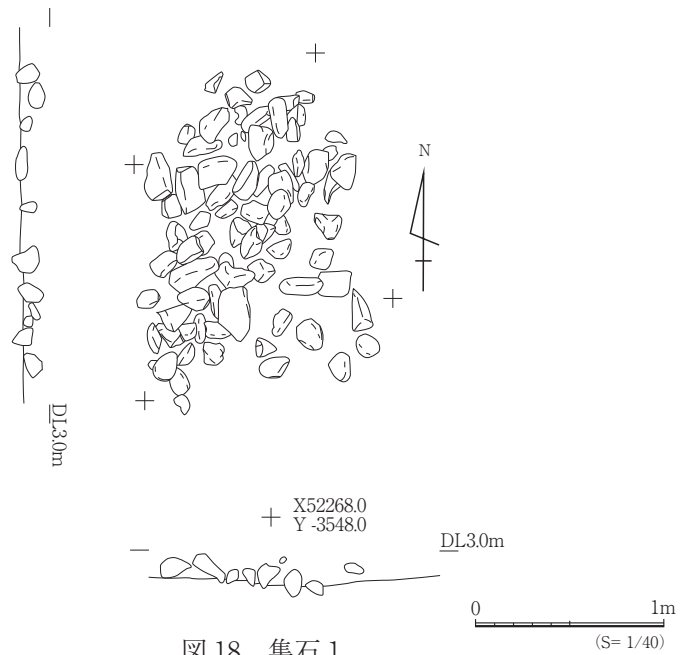


図 18 集石 1

## 2. 中世後期

指標となった遺物は播磨系や河内型の土釜，端反りや細蓮弁の青磁碗で，僅かながら青花や備前焼を伴う遺構もある。

### 土坑

#### SK1

調査区北半で検出した。五角形プランを呈し，複数のピット等と重複する。

#### SK4

調査区北半南部で検出した。残深は 9cm，西辺の方角は N-4°-E を測る。

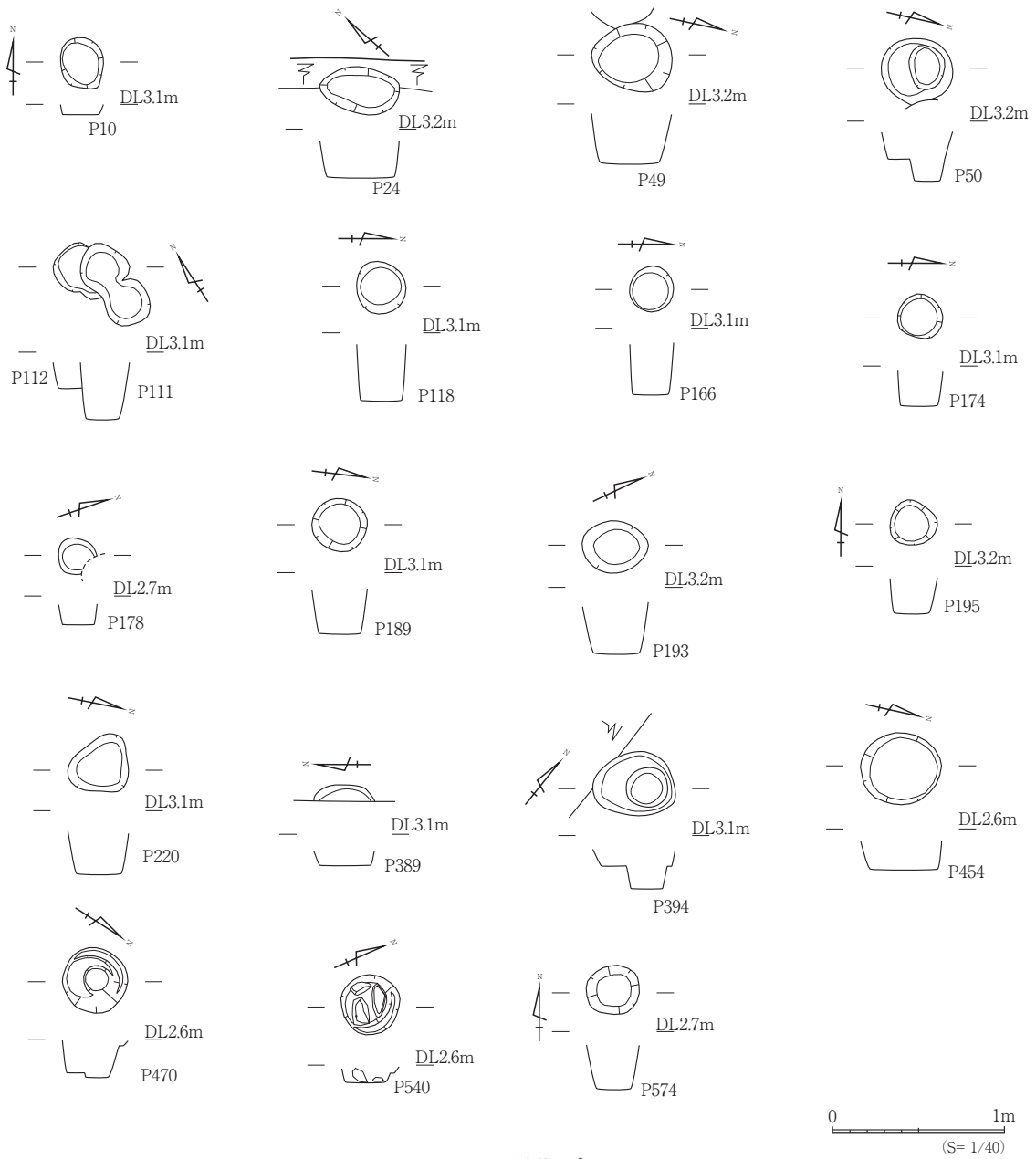


図 19 中世前期ピット

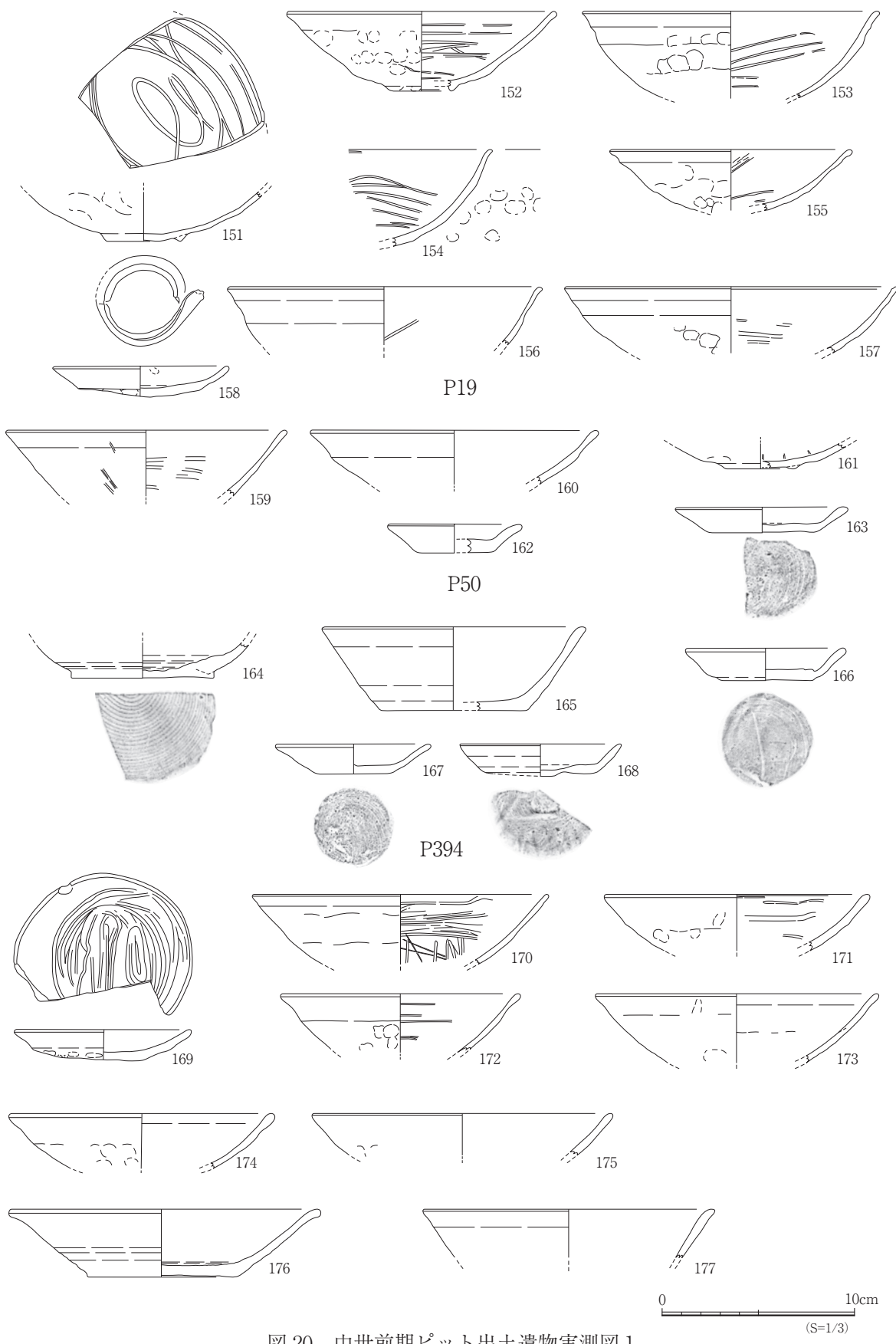


図 20 中世前期ピット出土遺物実測図 1

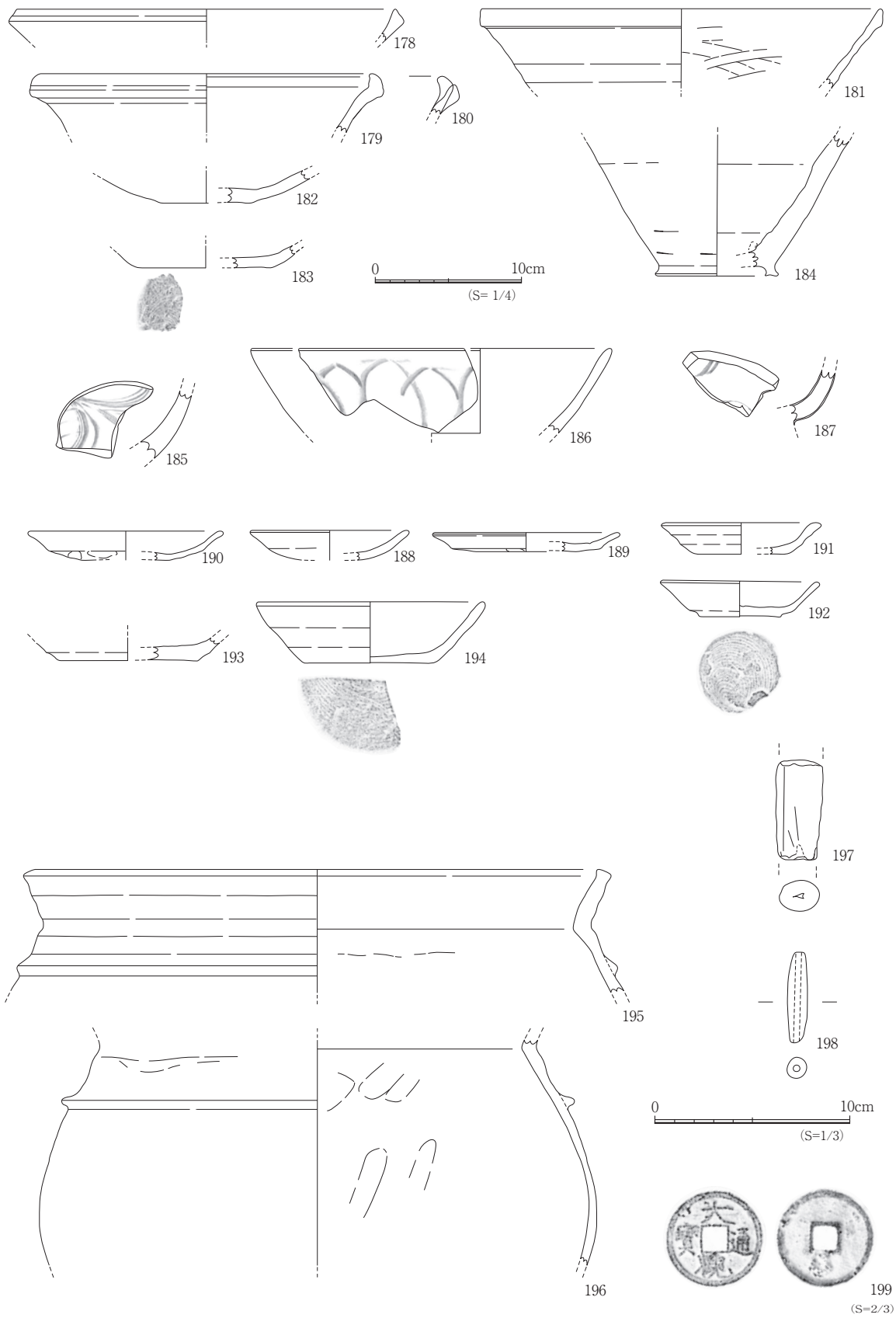


図21 中世前期ピット出土遺物実測図2

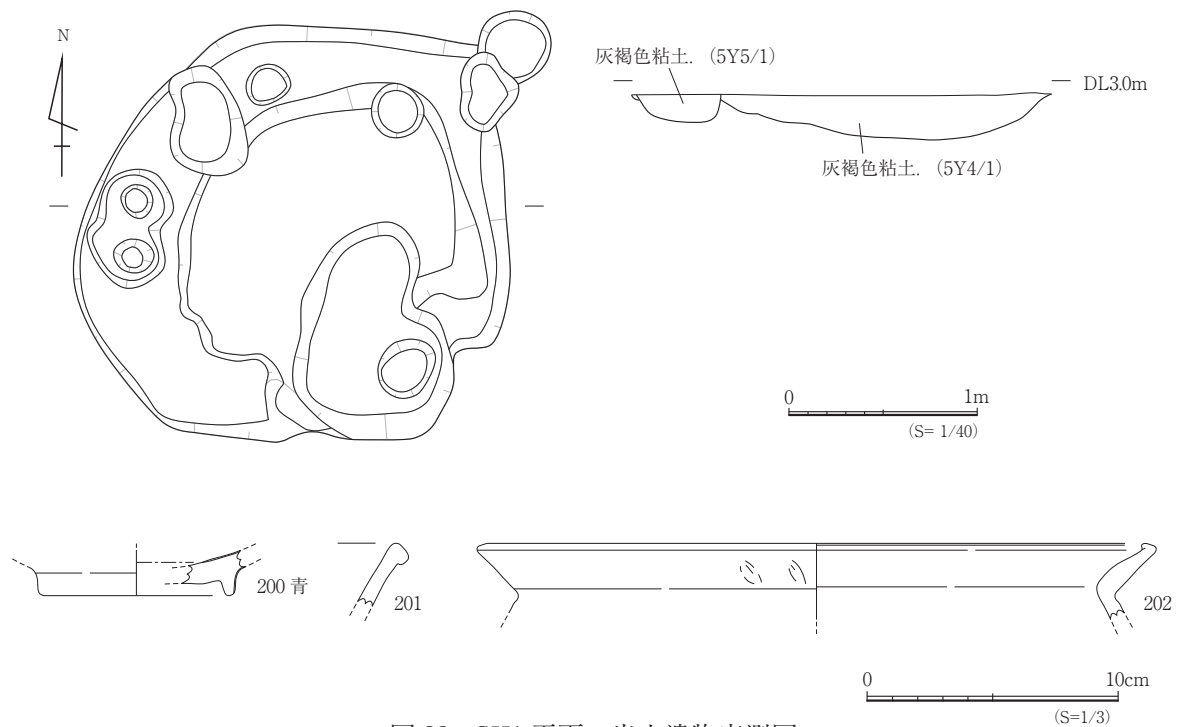


図 22 SK1 平面・出土遺物実測図

### SK5

調査区南半にあり，残深 10cm，基軸方位は西へ 0.5°の偏差を持つ。南部は現代暗渠で破壊されている。

### ピット

出土遺物から中世後期に比定できるものは，付図 1 のごとく調査区北部に散在している。南部では 2 基のみで，備前焼と，当遺跡で比較的稀少な青花が出土している（表 3）。なお，P215 から染付が出土していることから各時期の遺構が混在していることが推測できる。

### 掘立柱建物について

中世前期のピットの様相が既述のとおりであるため，中世の建物に関して当項と次章に記す。

上記の時期比定可能な出土遺物のあるピットの位置と，それ以外を含む遺構の埋土を図 1・2 や付図 1 で検討すると，掘立柱建物跡数棟が復元される。但し，柱穴を特定し詳細な時期ごとの建物プランを示すことは先行期同様不可能で，建替えや時期差のある重複があるものと考えられる。なお，建物を復元する上で中世の SX1 や SK4，SK1 から看取できる方位は参考になろう。次章で具体的に述べる。

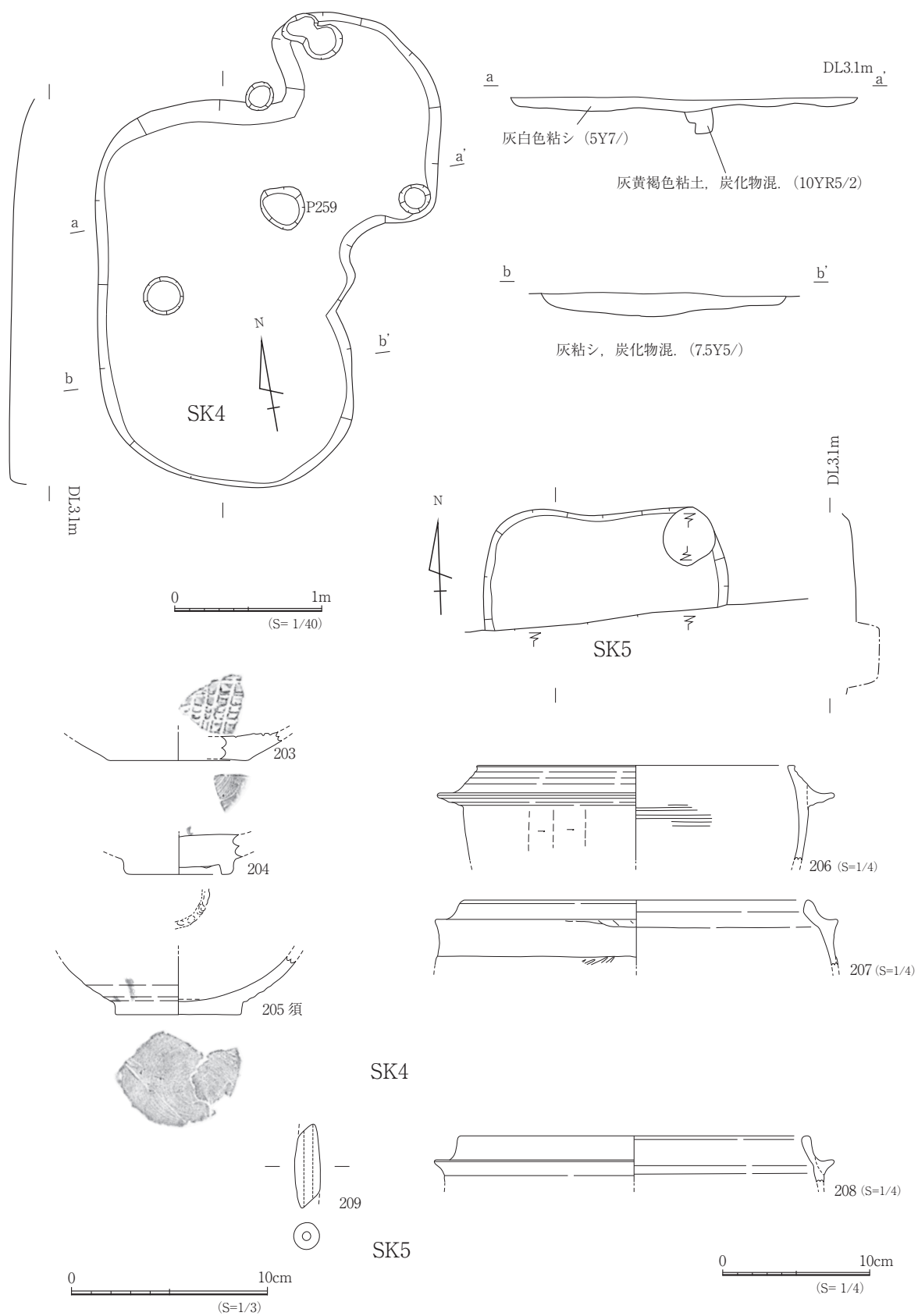


図 23 SK4・5・出土遺物実測図



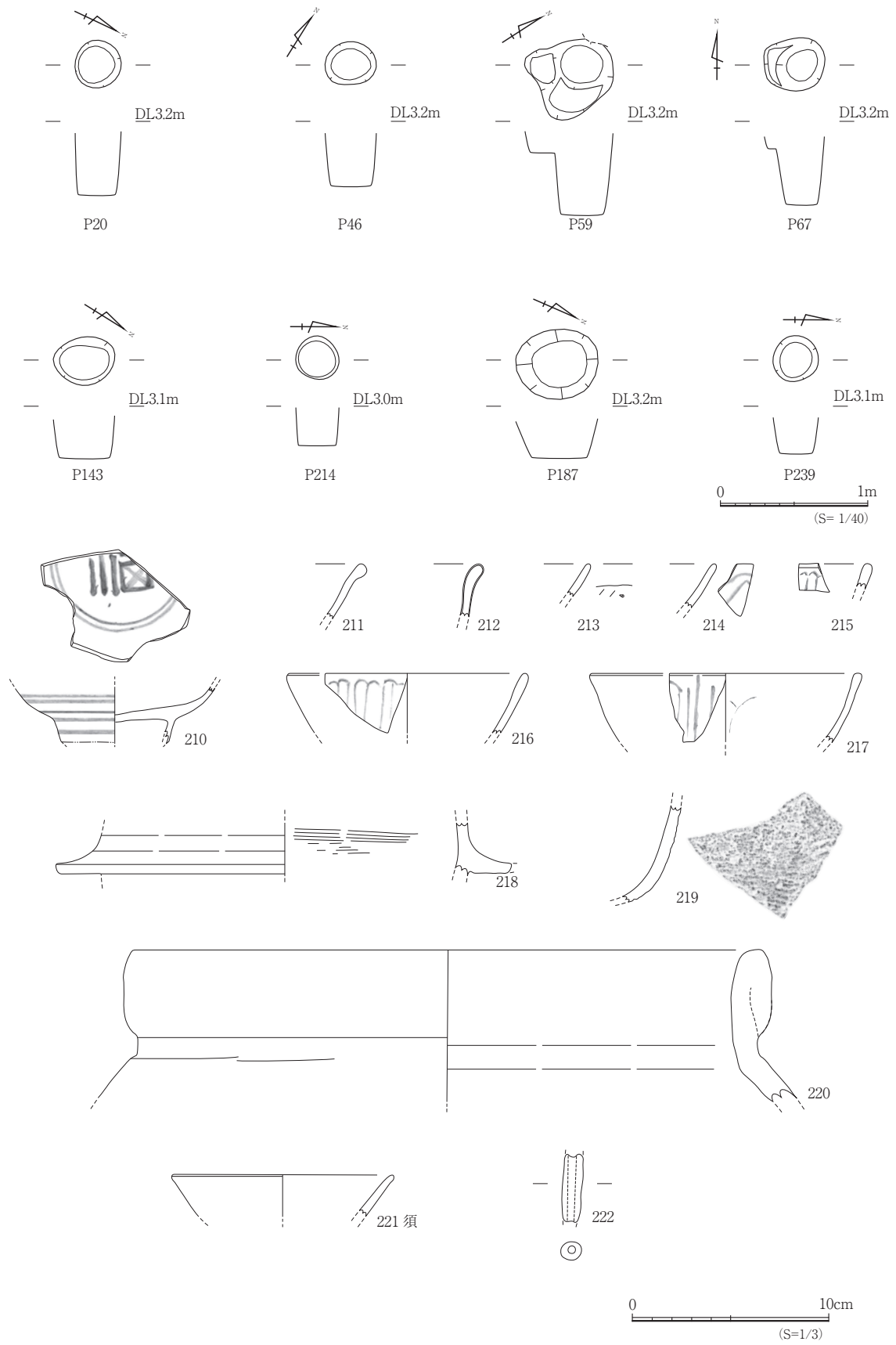


図24 中世後期ピット・出土遺物実測図

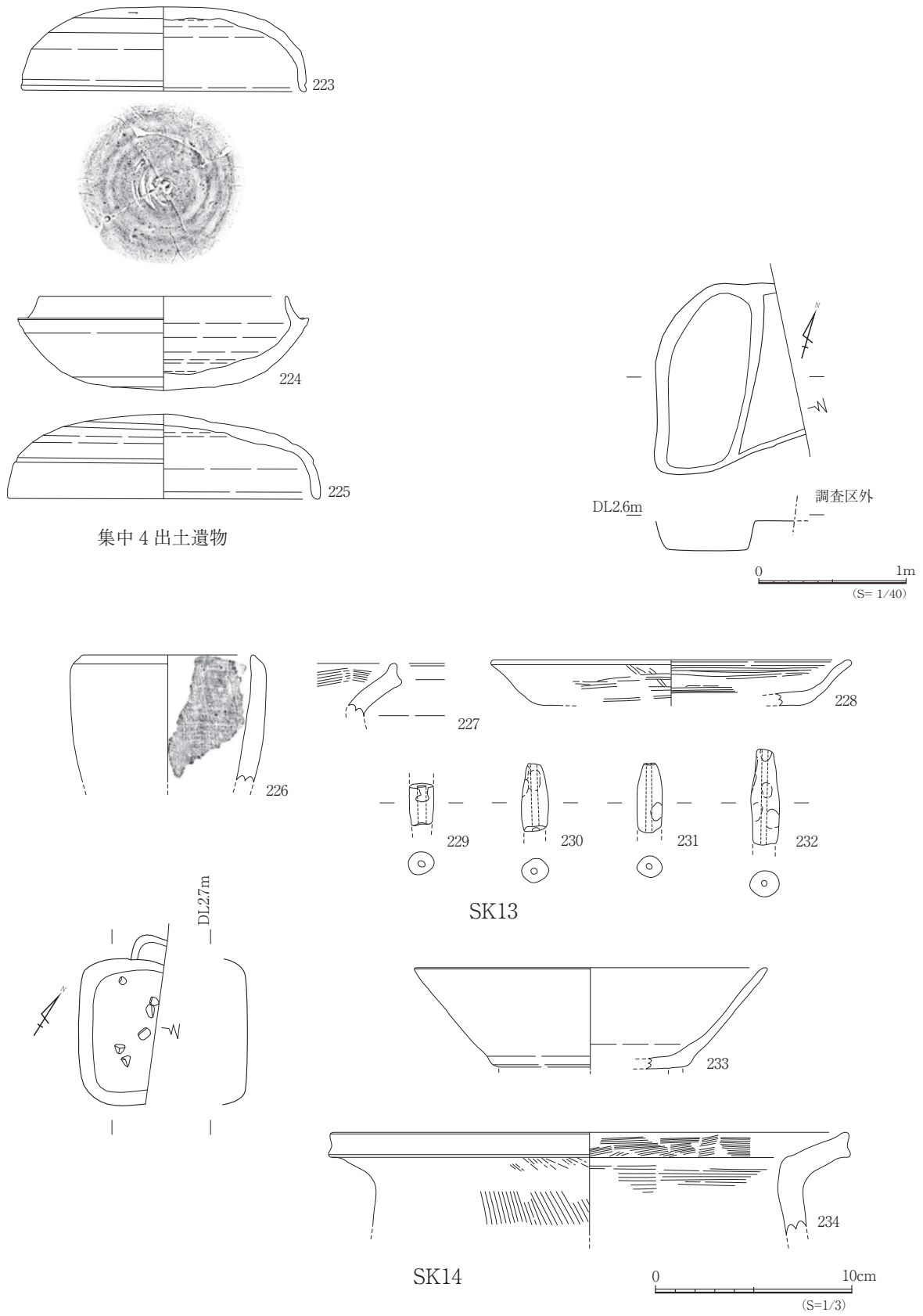


図 25 古代土坑（調査区北半）・出土遺物実測図

## B. 下面

### 1. 古墳時代

#### 集中4

調査区北半で検出し、杯と蓋計3点が出土した（図版54）。遺物の残存状態は比較的良好で、223と224は組み合わせて違和感がない。

### 2. 古代

遺物の編年及び年代観については次章に記す。

#### 土坑

〔調査区北半〕

#### SK13

東部の1段浅い部分は調査区外にある。深い部分は長方形プランを呈する。8世紀末～9世紀初葉の土師器皿の他、焼塩土器と土錘等が出土している。

#### SK14

東壁際に位置し、方形を呈する。礫が出土した。土師質土器杯1点は高台が剥離したもので、9世紀代に位置付けられる。

〔調査区南半〕

#### SK8

遺構が検出されない中央部寄りに位置する。出土した角礫は被熱赤変している。土師器甕は胴部に粗目の縦ハケ痕を残し、角粒混じりの硬い胎土を持つ類型で、口縁端部を横ナデで摘み上げる本例のような型式は9世紀頃に属する。

#### SK9

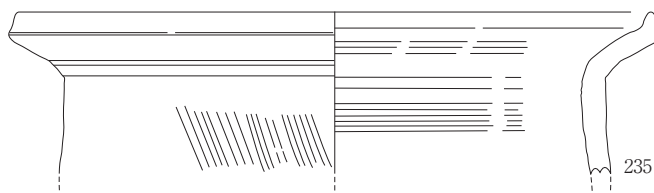
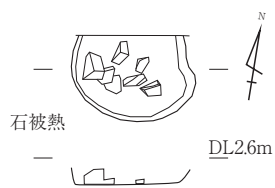
整った長方形プランだが、遺物は出土していない。下面で検出したためここに記す。

#### SK10

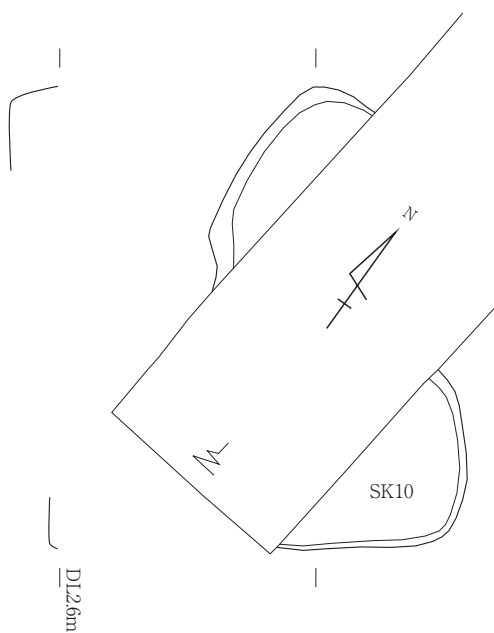
SD12東端にあるが攪乱に切られる。残深は4cmを測る。出土した須恵器杯は8世紀後～9世紀前葉に比定できる。

#### SK11

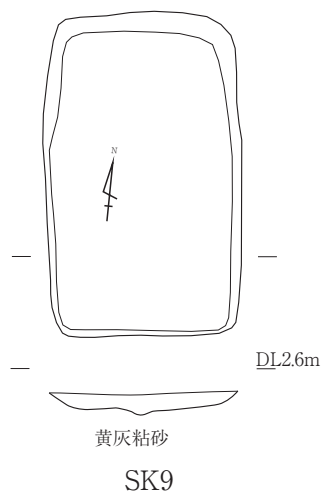
東西溝と重なるが、一部は調査区外とみられる。出土した須恵器杯は8世紀後葉を中心とする時期に位置付けられる。



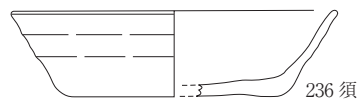
SK8



SK10



SK9



SK11

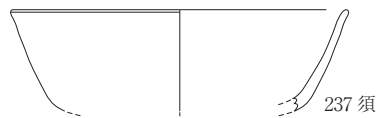
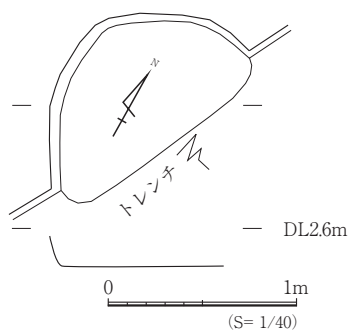


图 26 古代土坑 (調査区南半) · 出土遺物実測図

## 溝跡

古代の溝跡は、付図5のごとく調査区南部等で企画的な規模と配置を示す。幅は表3のとおり40～60cm、残深は10～20cm余を測る。廃絶年代は総じて8世紀後葉～10世紀初葉の間に求められる。

### SD11

調査区南部にある南北溝である。土師器甕239は上胴部外面の横ハケと在地酸化焼成土器通有の胎土、やや短くなった胴部といった属性を持つ型式で、9世紀～10世紀初葉に比定できる。

### SD12

調査区南部にある東西溝である。須恵器皿は調整や形態より8世後半～9世紀初葉に位置付けられる。

### SD14

調査区南部にある南北溝である。須恵器皿の調整や形態からみた時期はSD12同様である。

### SD28

調査区北部の東西溝で、残深10cmを測り、少なくとも現状では東端でやや広がって終わる。須恵器甕250～255は土器集中として遺構に先行して検出されていたが、状況からみて当遺構に伴うものと考えられる。須恵器皿・杯はいずれも古代I-5～6期に比定できる。焼塩土器も時期的に齟齬がない。

### ※ 溝跡の間隔について

下面で検出した溝跡群は、配置図のとおり企画性が明瞭である。平行する溝跡の心々間の距離を記す。

間隔	SD7 - 6	SD6 - 5	SD5 - 4	SD8 - 9	SD9 - 12	SD12 - 13	SD11 - 14
距離 (m)	2.30	2.00	2.15	2.46	2.49	2.38	6.38
間隔	SD4 - 11	SD16 - 28	SD17 - 19	SD20 - 22	SD25 - 26	SD26 - 27	
距離 (m)	4.44	6.03	1.69	3.92	0.94	1.54	

表2 古代溝跡間隔

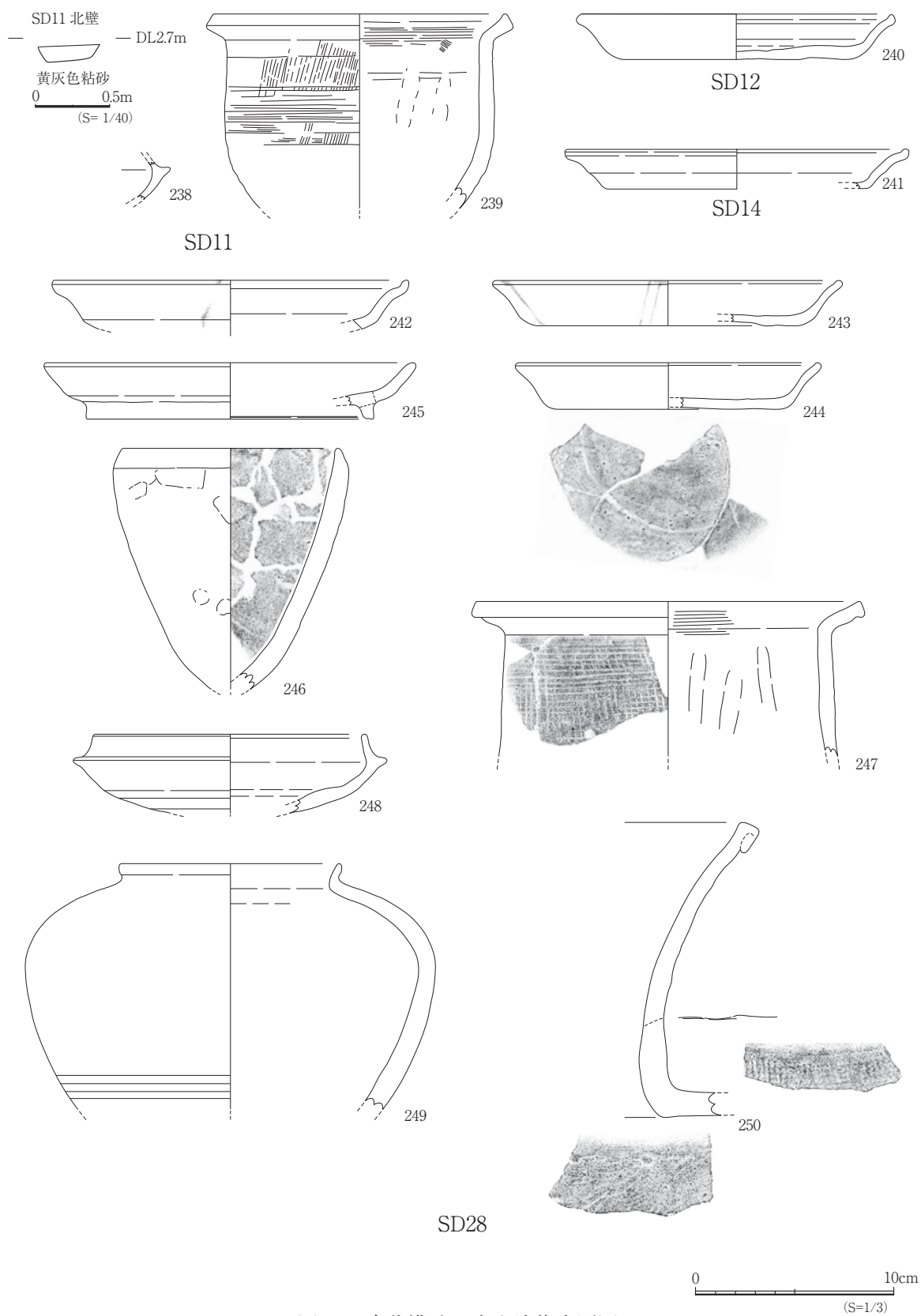


图 27 古代沟迹·出土遗物实测图

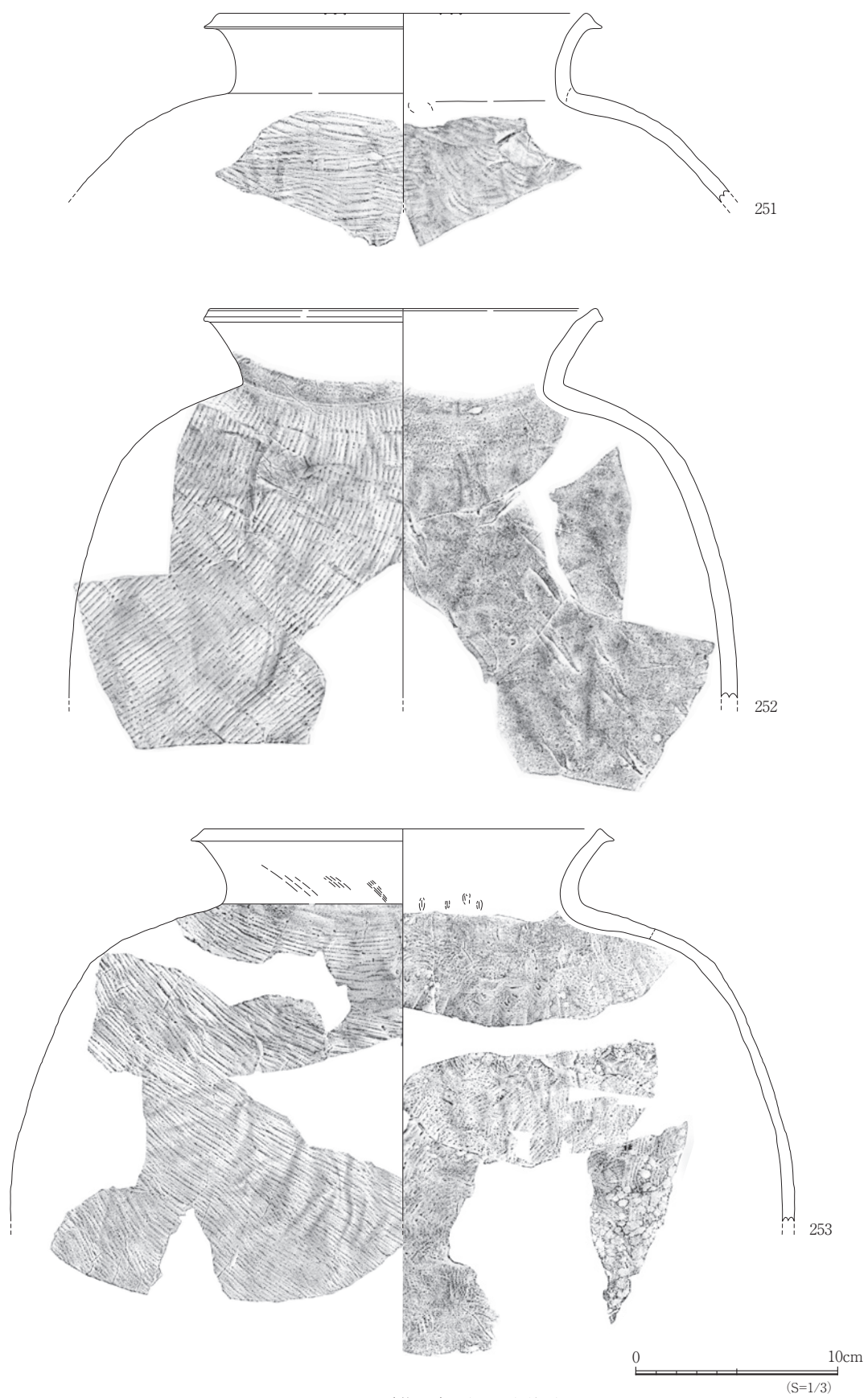


图 28 SD28 (集中) 出土遺物実測図 1

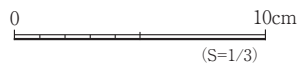
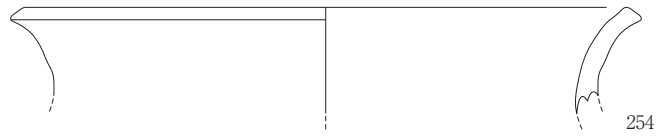


图 29 SD28 (集中) 出土遺物実測図 2



## ピット

該期の遺物のみが出土しているピットは下記が全てで、調査区北部のもので占められており、2基については他遺構との重なりを指摘できる。他のピットについては表3参照。

### P514

溝跡の端部に位置する。出土した土師器皿は器表の摩耗があるが、底部切離しは「ヘラ切り」で、内底は平滑に仕上げる。8世紀後葉に位置付けられる。

### P539

SK13内にある。出土した須恵器高台付杯は底部の半分が残る。高台や底部内外面の仕上げから8世紀後葉に位置付けられる。

### P570

出土した土師器甕は胴部に粗目の縦ハケを残し、口縁端部は横ナデで凹面や摘み出し状に仕上げ、角粒混じりの硬い胎土を持つ類型で、当該型式は8世紀後葉～9世紀に位置付けることができる。

## 掘立柱建物について

付図2でピット以外の遺構も含めた埋土をみると、調査区北半の埋土D及びB、同南半のCは古代に属する可能性が高い。それらの配置からみて、少なくとも同北半のSD28-SD19間或はその付近には何らかの掘立柱構造物が存在したと考えられる。

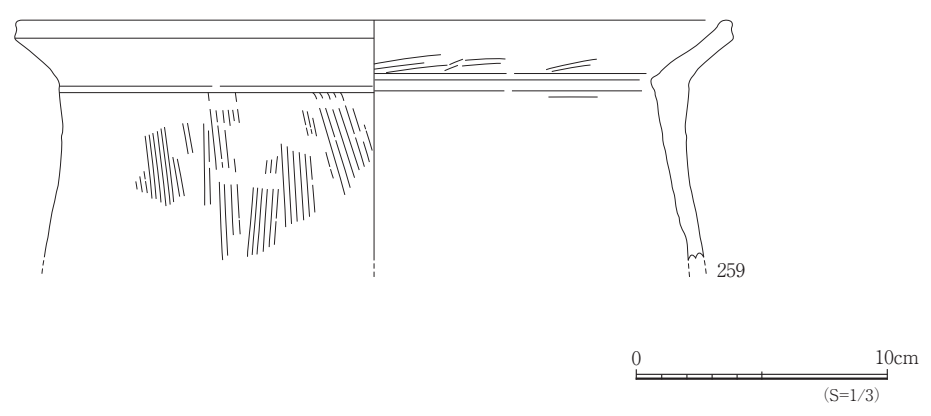
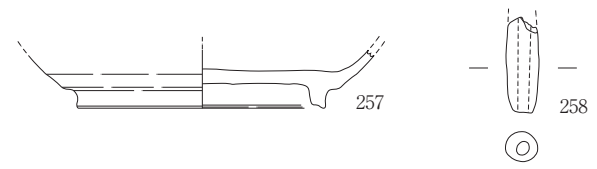
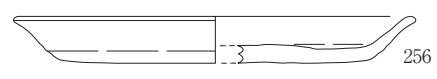
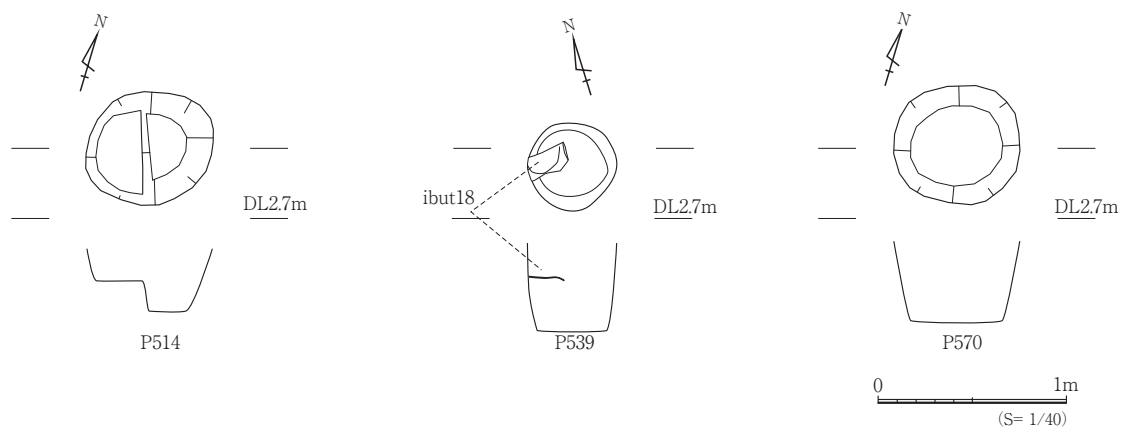


図 30 古代ピット・出土遺物実測図

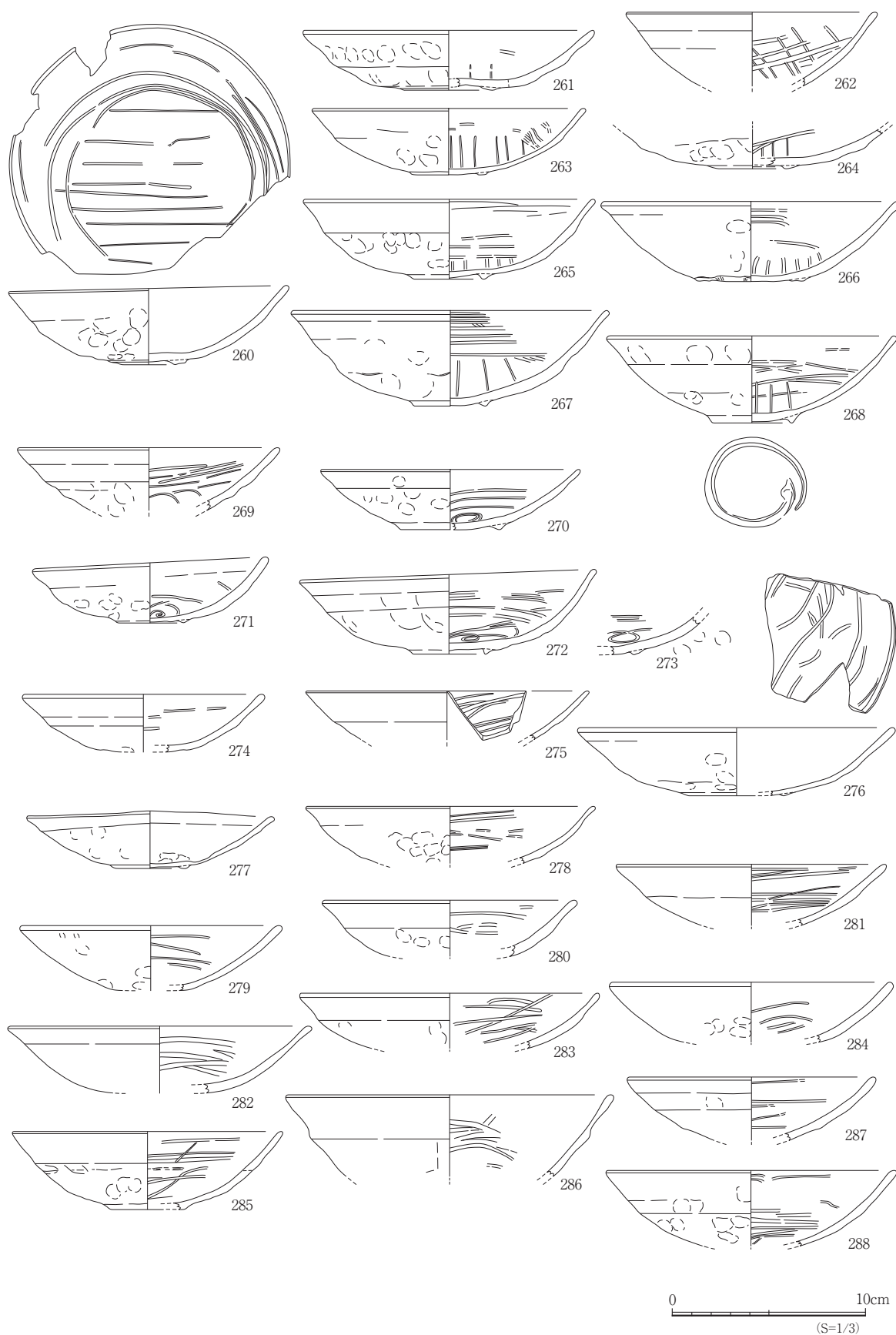


图 31 包含層出土遺物実測図 1 (瓦器)

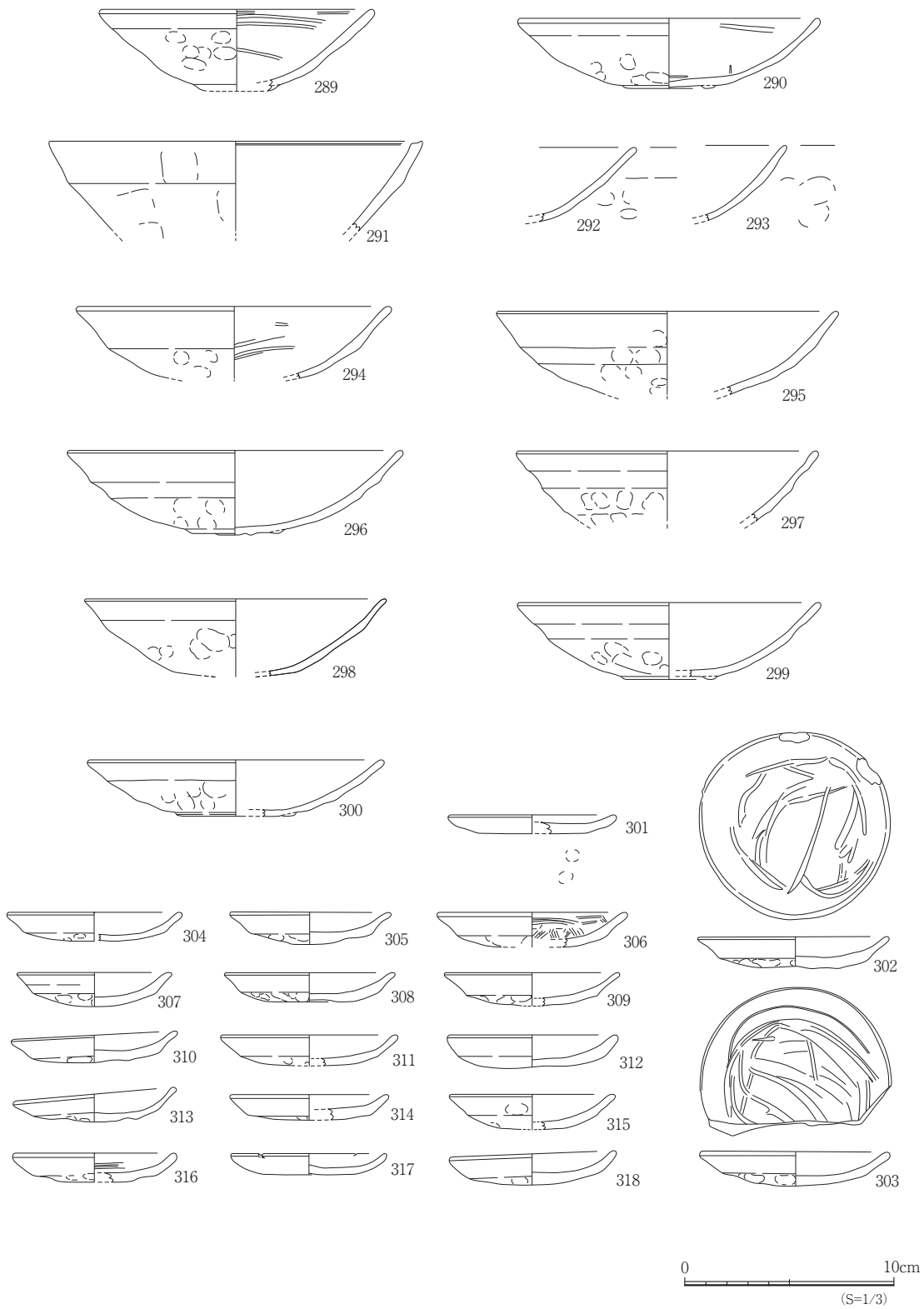


图 32 包含層出土遺物実測图 2 (瓦器)

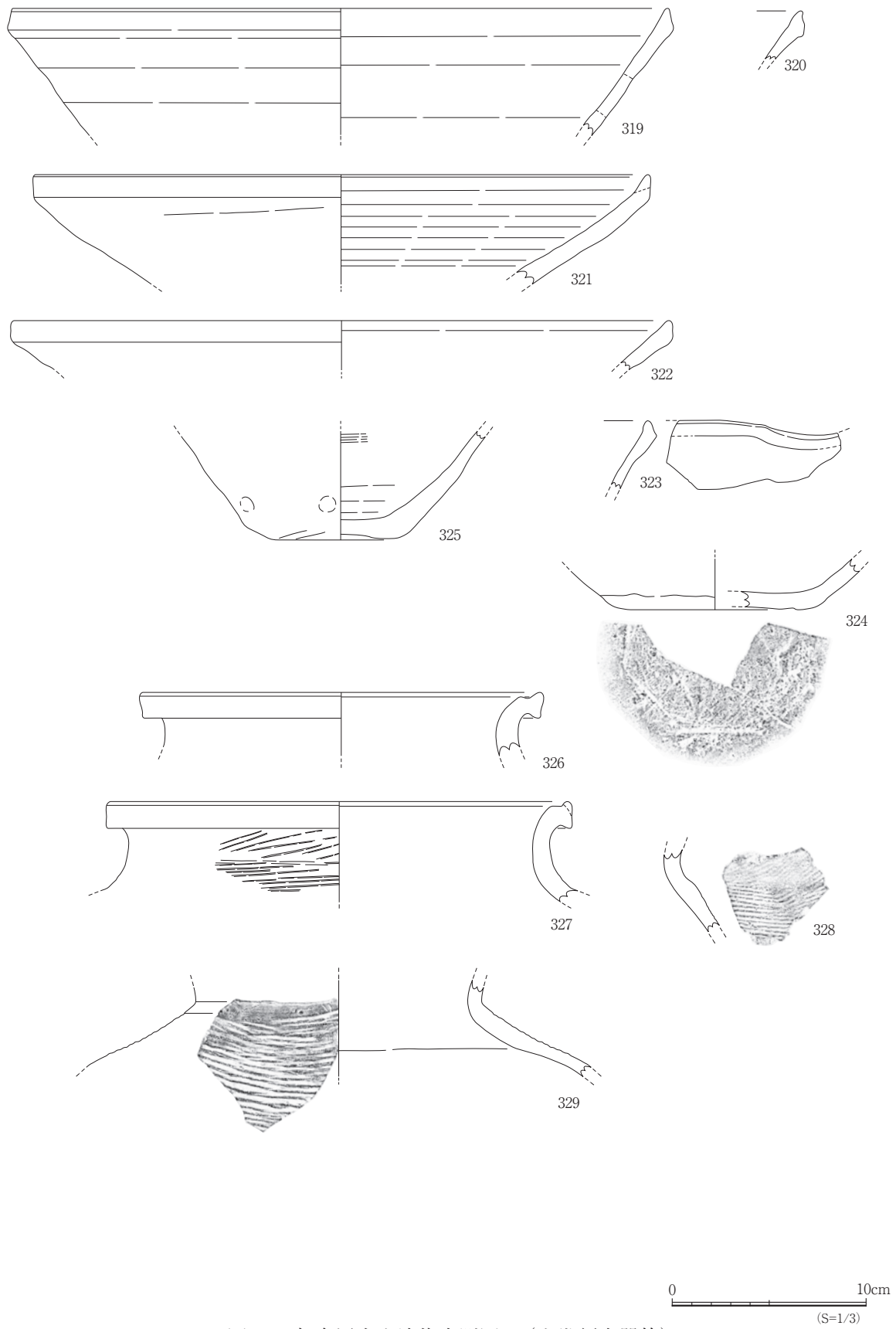


图 33 包含層出土遺物実測図 3 (中世須恵器等)

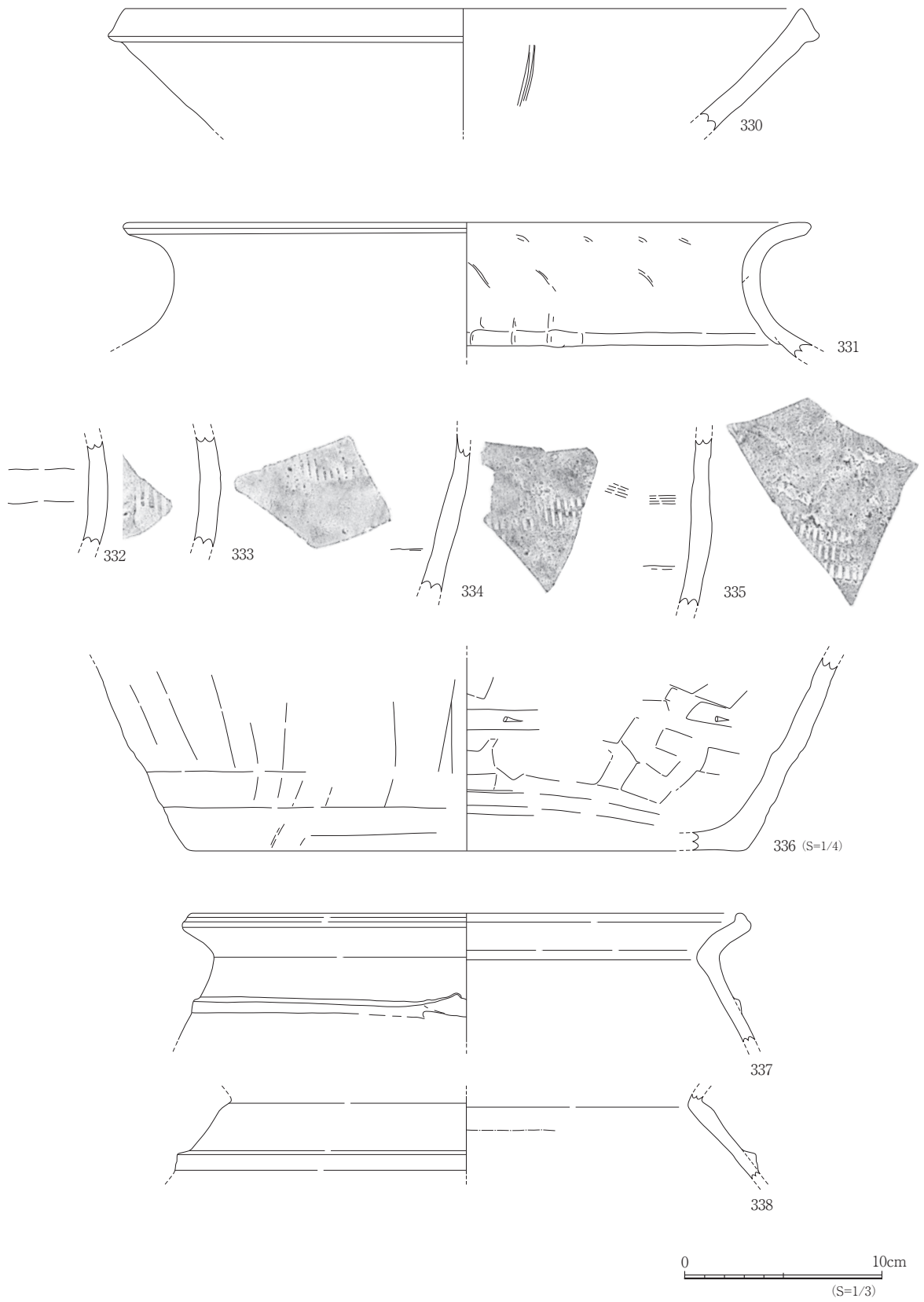


图 34 包含層出土遺物実測図 4

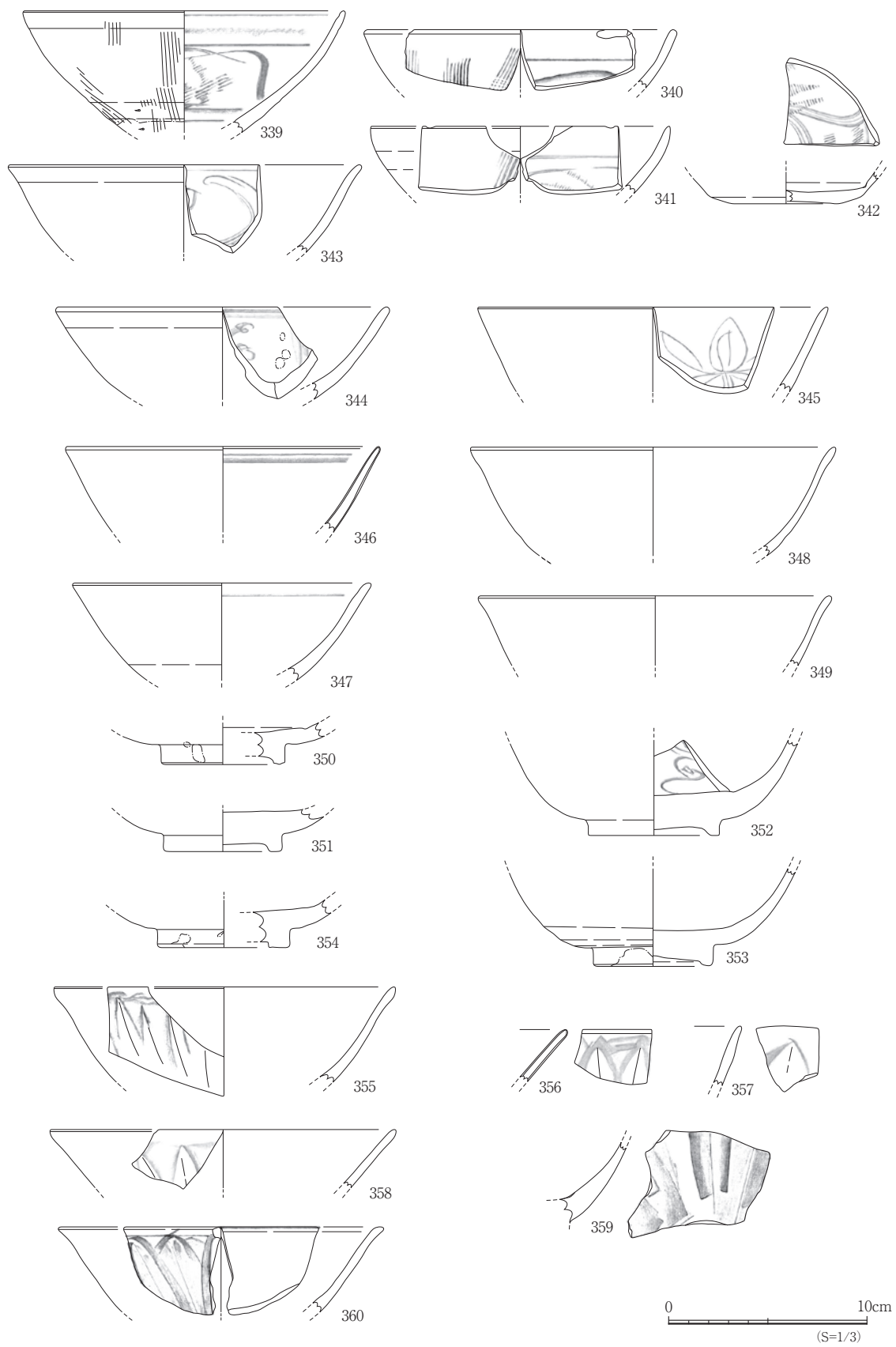


图 35 包含層出土遺物實測圖 5 (貿易陶磁器)

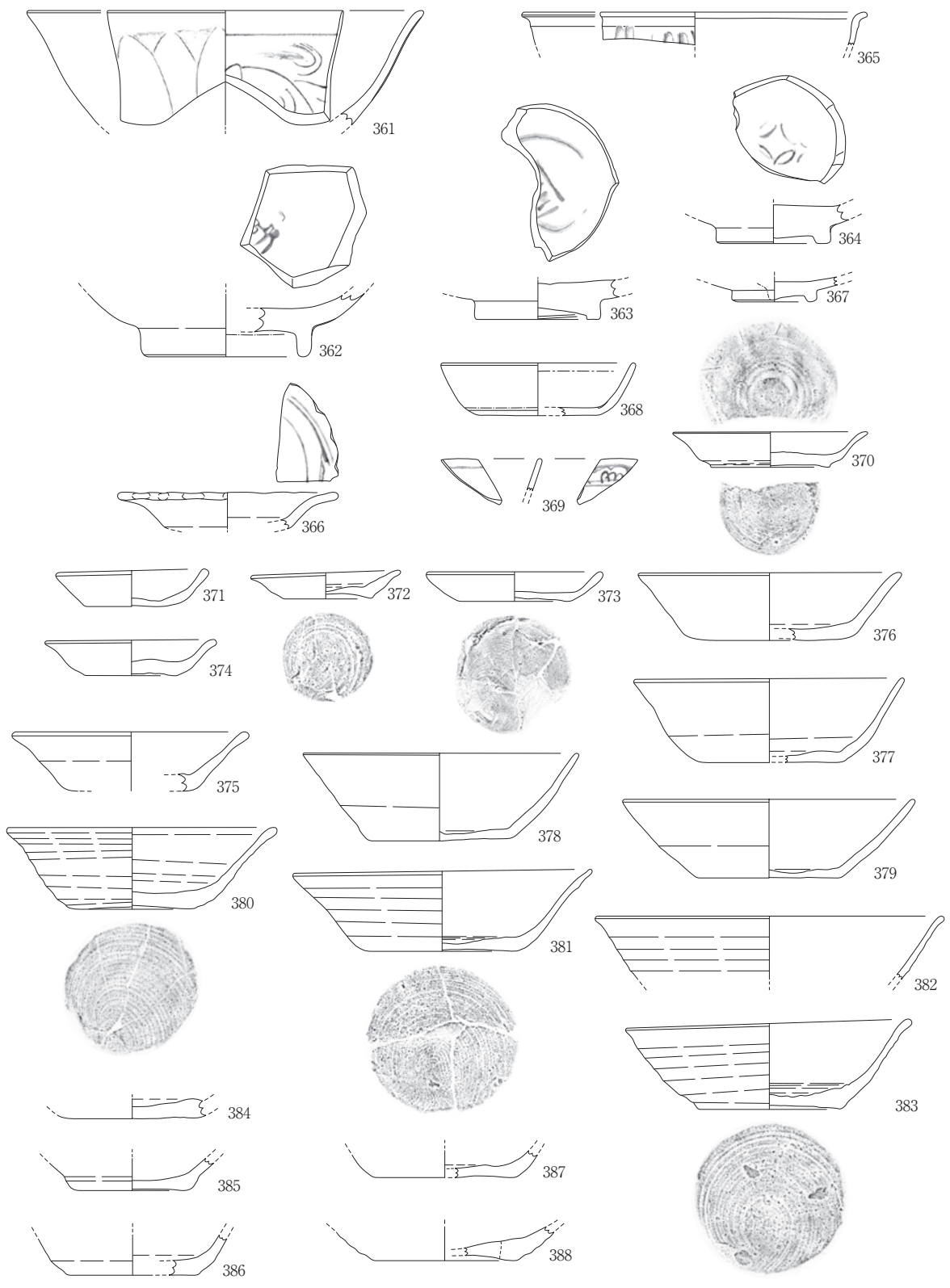


图 36 包含層出土遺物実測図 6



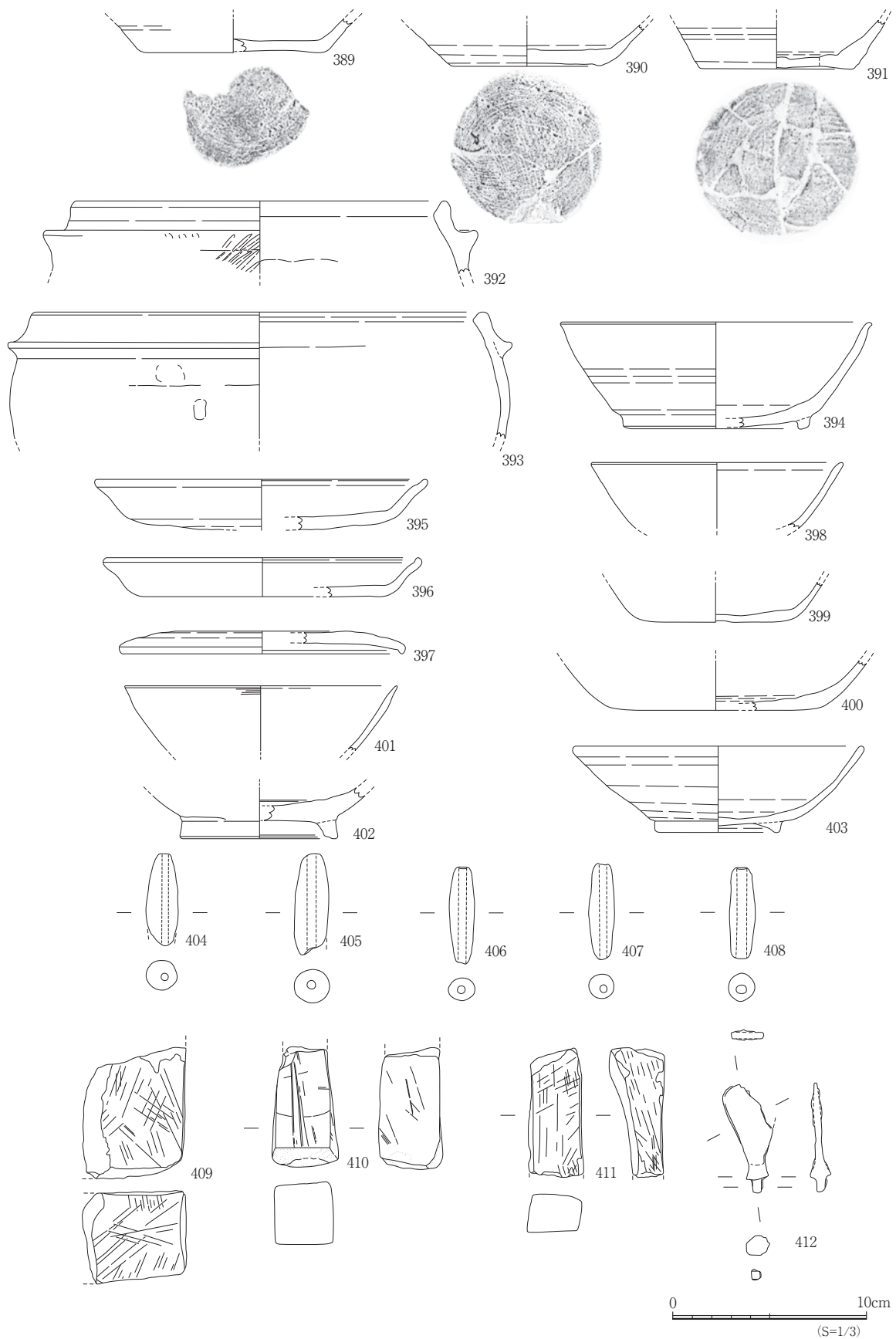


图 37 包含層出土遺物実測图 7 (中世後期・古代等)

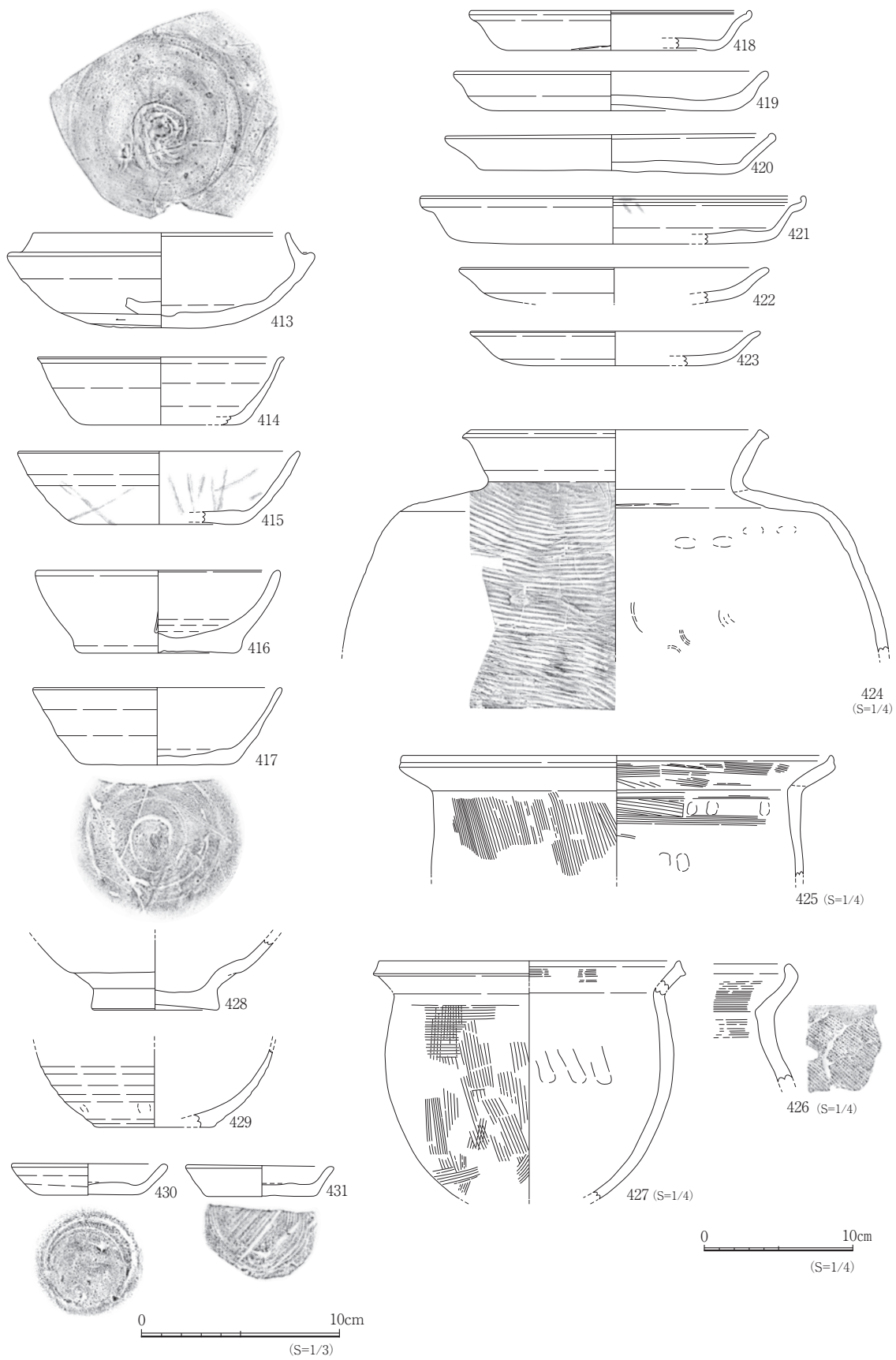


图 38 包含層 2 出土遺物実測図 1

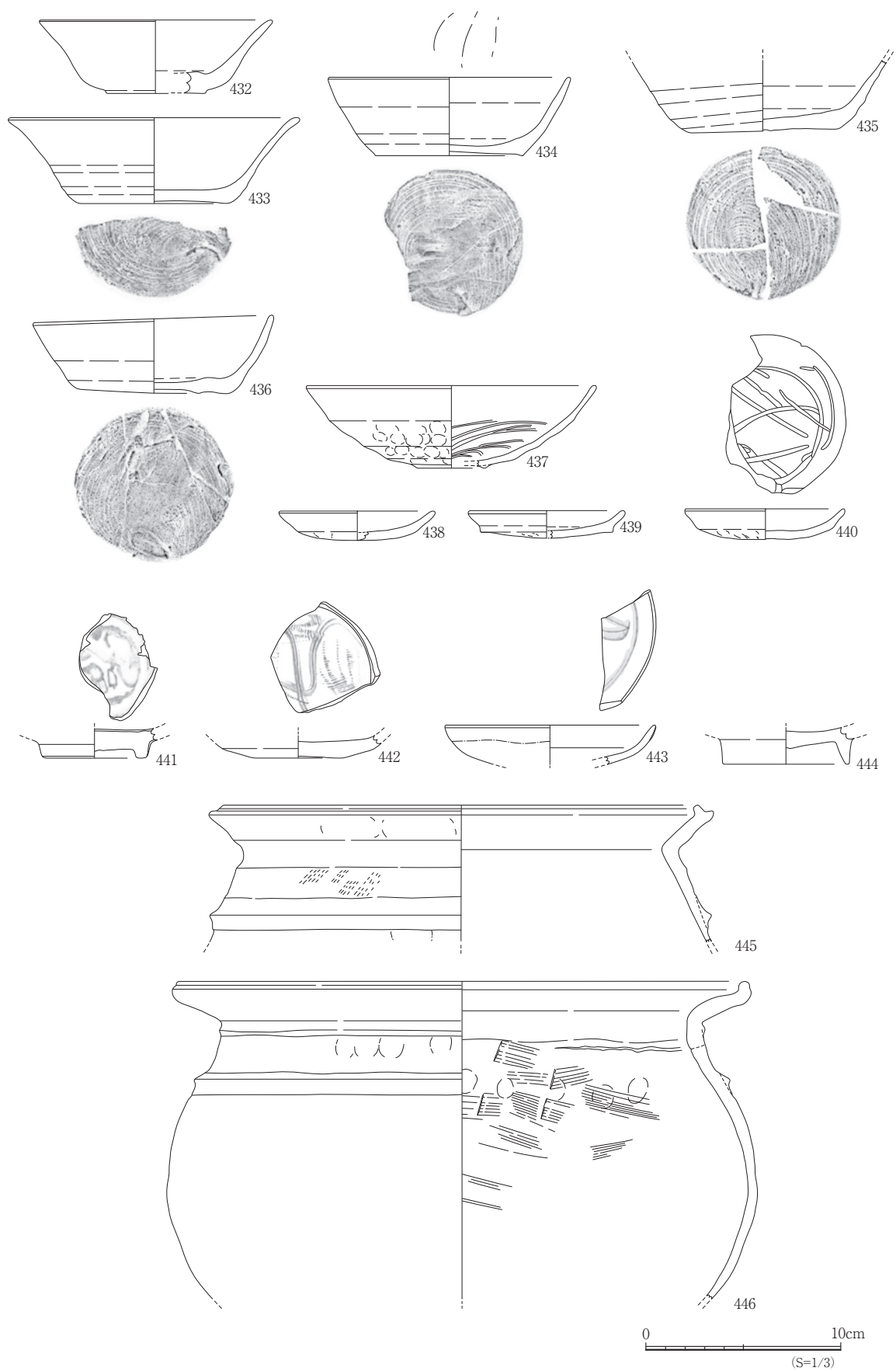


图 39 包含层 2 出土遗物实测图 2

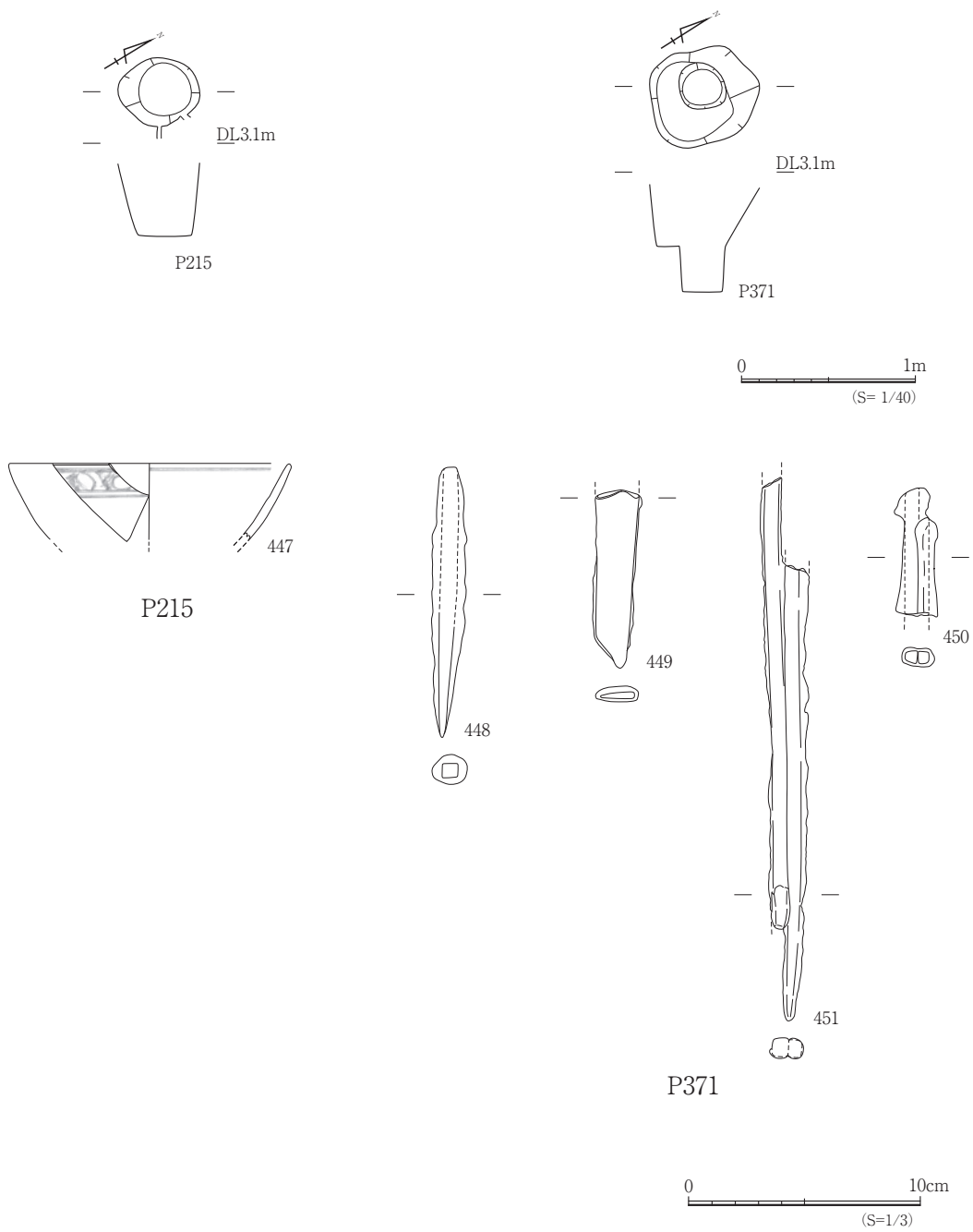


図40 中近世ピット・出土遺物実測図

遺構名	位置	時期	形状		規模 (cm)		埋土等	出土遺物	方位 他
			平面	断面	平面	深さ			
SX1	上	前	全容不明	平底	653 ± × 132+	32	灰黄粘～鈍黄褐 炭・小礫	瓦器皿 9, 瓦器碗 58, 土師質杯 20, 土師質皿 28, 須碗 4, 須皿, 青皿, 白碗, 瓦質釜, 土鍾	N-0.5°-W。 土器多
SK1	上	後	五角形	半レンガ状	254 × 235	24	灰褐粘	土師煮炊具 2, 青碗, 鉄滓	N-4.5°-E。 重複
SK2	上		隅丸方形	逆台形	101 × 94	17	灰褐粘	-	N-6.5°-E
SK3	上	前	不整円	浅	82 × 73	5	-	青碗	
SK4	上	後	隅丸方形連接	平底	267 × 162 155 × 107	9	灰白粘?/灰粘質? 炭混	鉤皿, 土師釜 2, 須碗, 青碗	N-4°-E
SK5	上	後	隅丸方形か	平底	167 × 73+	10		土師釜, 土鍾	N-0.5°-W
SK6	上		隅丸多角形	平底	156 × 106	12	灰白?	-	N-16°-W。ビット重 複か。石
SK20	上	前	楕円～隅丸方形	-	45 × 35	11	-	青碗	N-13.5°-W。SK2 重複
SK8	下	古	円形か	平底	66 × 45+	9	-	土師甕 8C. 末～ 9C.	被熟石
SK10	下	古	方形か	-	244 ± × 104	4	-	須杯	N-19.5°-W
SK11	下	古	-	平底	127 × 74+	19	-	須杯	N-19.5°-W
SK12	下		楕円	-	74 × 58	44	-	土鍾	N-21°-E
SK13	下	古	矩形か	-	128 × 95+	22	-	土師甕, 土師皿, 塩, 土鍾 4	N-9°-W。2 段
SK14	下	古	方形か	平底	99 × 52+	19	-	土師甕, 土師質杯 B	N-31.5°-W。礫
SK16	下	前	楕円	-	88 × 65	16	P59 に切られる	東播鉢	N-7°-W
SD1	下	前	溝跡	逆台形	1860+ × 48	30	粘砂	瓦器碗, 須壺, 須甕	N-5°-W。 中央横断
SD4	下	古か	溝跡	-	1669 ± × 40	10	黄灰粘砂	-	N-19.5°-W
SD5	下	古か	溝跡	-	1639 ± × 58	15	黄灰粘砂	-	N-21°-W
SD6	下	古か	溝跡	逆台形	1313 × 60	17	黄灰粘砂	-	N-20°-W
SD9	下	古か	溝跡	舟底形	416 × 57	16	黄灰粘砂	-	N-22.5°-W
SD11	下	古	溝跡	逆台形	772 × 38	14	黄灰粘砂	須杯 H, 土師甕 C	N-17.5°-W (南部 4°)
SD12	下	古	溝跡	-	288+ × 56	21		須皿	N-20.5°-W
SD13	下	古か	溝跡	舟底形	484+ × 47	16	黄灰粘砂	-	N-21°-W
SD14	下	古	溝跡		421+ × 56	9		須皿	N-24°-W
SD16	下	古か	溝跡		472 × 39	8		-	N-21.5°-W
SD28	下	古	溝跡		189+ × 44	10		須皿 3, 須壺, 須杯, 須甕 5, 須大甕, 須皿 B, 土師甕, 塩	N-18°-W
P10	上	前	円		38 × 31	6	灰黄褐	青碗	調査区北端
P19	上	前	隅丸方形か		50 × 39	41	灰黄褐	土師質杯, 瓦器碗 7, 瓦器皿	SX1 内。2 段
P20	上	後	円		32 × 31	43	褐灰	青碗	
P24	上		-		46 × 26+	21	濃灰褐	東播鉢	調査区際
P41	上		隅丸方形		23 × 20		灰黄褐	須杯か皿	
P46	上	後	楕円		35 × 29	35	褐灰	青碗 2	
P49	上	前	円		46 × 42	28	褐灰	瓦器碗, 瓦器皿	2 段
P50	上	前	円		41 × 37	29	濃灰褐	瓦器碗 2, 土師質皿	2 段。石
P51	上		楕円		29 × 27	22	灰黄褐	瓦器碗	2 段
P59	上	後	不整形		56 × 47	56	褐灰	土師釜, 青碗 (蓮弁あり)	3 段
P67	上	後	隅丸方形か		41 × 36	38	濃灰褐	青碗, 須杯, 土鍾	2 段
P69	上		不整円		31 × 31	29	褐灰	土鍾, 塩	
P75	上		隅丸方形		43 × 37	48	濃灰褐	土師質杯	2 段
P89	上		楕円		41+ × 28	25	濃灰褐	土師質杯	
P90	上		円		27 × 24			土鍾	北部。攪乱際
P91	上		楕円		47 × 29+	37	褐灰	土鍾	2 段
P110	上		円		25 × 25+	31	褐灰	土鍾	P110～112 切合い
P111	上	前	円		29 × 27+	33	褐灰	東播鉢	2 段
P112	上	前	-		34 ± × 26	5	灰黄褐	東播鉢	P111 に切られる
P118	上	前	円		30 × 28	32	褐灰	瓦器皿	
P127	上		円		29 × 24	24	褐灰	土鍾	

表 3 遺構計測表-1

遺構名	位置	時期	形状		規模 (cm)		埋土等	出土遺物	方位 他
			平面	断面	平面	深さ			
P134	上		円		30 × 30	29	濃灰褐	銅銭	
P137	上		楕円		31 × 29	19	褐灰	土師質片口鉢	
P143	上	後	楕円		41 × 33	18	濃灰褐	瓦質羽釜, 青碗	
P166	上	前	円		26 × 25	30	褐灰	青碗	
P174	上	前	円		26 × 26	21	褐灰	瓦器椀 2	P96 と重複
P178	上	前	円		11 × 9+	12	褐灰	東播鉢	
P187	上		楕円		28 × 24	26	濃灰褐	白磁皿か	
P189	上	前	円		31 × 30	26	褐灰	土師釜	
P193	上	前	楕円		38 × 30	29	濃灰褐	瓦器皿, 青碗	
P195	上	前	円		27 × 26	21		須控鉢	
P214	上	後	円		29 × 28	28	褐灰	備前甕	
P215	上	近	隅丸方形		46 × 39	41	褐灰	染付碗	2 段
P220	上	前	隅丸三角		36 × 34	25	濃灰褐	東播鉢	
P239	上	後	円		31 × 30	24	濃灰褐	青花碗	
P259	上	前	円		31 × 27	29	褐灰	須壺, 瓦質三足鍋	SK4 内。2 段
P315	上		隅丸方形		31 × 31	26	褐灰	土鉢	3 段
P334	上		円		26 × 25	20	褐灰	土師質杯	
P352	上		隅丸方形		35 × 34	10	褐灰	土師質杯	
P356	上	前	円		36	20			常滑 2 の下
P367	上	前	隅丸方形		49 × 38	27	濃灰褐	土師質杯	2 段
P371	上		隅丸五角		62 × 53	62	濃灰褐	刀子, 火箸か	2 段
P386	上		円		42 × 42	29	褐灰	土師質杯	
P388	上		楕円		30 × 23	18	褐灰	瓦器椀, 土鉢	
P389	上	前	-		34 ± × 9+		濃灰褐	瓦器皿	壁際
P394	上		楕円		48 × 37		褐灰	土師質皿 3・杯 2	2 段
P454	下	前	円		46 × 41	17	濃灰褐	土師釜	
P470	下	前	円		52 × 52	21	褐灰	土師質皿 2	底に凹
P514	下	古	円		34 × 30	17	灰	土師皿	
P539	下	古	円		24 × 22		褐灰	須杯 B, 土鉢	SK13 内
P540	下	前	円		49 × 48	9	褐灰	瓦器椀	石
P546	下		円		46 × 44	16	褐灰	土師質杯	
P570	下	古	円		33 × 31	21	褐灰	土師甕	
P574	下	前	円		31 × 28	25	灰	土師質杯	
常滑 1	上	前						大甕 (下胴部)	
常滑 2	上	前						大甕 (底部)	P356 の上
常滑 3	上	前						大甕 (部分), 瓦器皿, 土師質杯	
集中 1	上	前			150 × 200			瓦質鍋・釜, 土師質小皿 4 杯 2 椀, 青碗, 刀子, 土鉢	
集中 4	下	墳						須杯 2, 蓋	

※ 空欄や-は特記事項なし又は不明。  
「重複」は他遺構と重なりあり。  
位置欄は検出面 (上面・下面)。  
時期欄の「前」は中世前期, 「後」は中世後期, 「古」は古代, 「近」は近世。  
遺物欄で数字のないものは 1 点。  
「土師」= 土師器, 「土師質」= 土師質土器, 「須」= 須恵器, 「青」= 青磁, 「白」= 白磁  
方位角について, 東西方向の遺構はそれに直交する軸を計測。  
その他, 序章凡例及び観察表凡例に準ず。

# 遺物観察表

図版 No.	出土位置	種類	法量 (cm)			色調		手法, 材, 焼成等	備考
			口径	器高	底径	表面 / 断面			
1	SX1	瓦器 椀	15.1	4.2	4.8	内・灰 外・々	平行暗文。高台低方形で角強調。摩耗無し。重ね焼。完形。		
2	SX1	瓦器 椀	14.6	4.5	4.5	内・N 灰 5/1 断・N 灰 4/1	内底平行暗文(幅 1.2mm) → ミガキ(幅 2.5mm)。高台三角。非硬。高台内爪状圧痕。		
3	SX1	瓦器 椀	15			内・N 暗灰 3/ 外・々 灰 4/	平行暗文, 幅 1.4mm。燻し良。火影れあり。		
4	SX1	瓦器 椀	15			内・灰 外・々	平行暗文か。「ウロ状剥離」多い。燻し良。		
5	SX1	瓦器 椀	16	4.5	5.1	内・灰黄 外・々	内底・平行暗文。高台低台形。炭素無し。長石粒。		
6	SX1	瓦器 椀	14.5	4.8	4.2	内・灰黄褐 外・々	暗文・見込み平行→体部。幅 1.6mm。高台三角。外面粘土紐又はヒゲ割れ痕。炭素なし。外面煤けか。		
7	SX1	瓦器 椀	16.4	4.2	4.5	内・N 灰 5/ 外・7.5Y 灰 7/1	平行暗文, 幅 2.0mm。高台低三角。摩耗なし。石英細粒のみ。外面は押圧前のシ痕状の凹みが規則的に並ぶ。内面・粘土接合痕か。	胎土分析は南河内近値	
8	SX1	瓦器 椀	14.9	4.4	4.4	内・灰 外・々	内底平行暗文, 幅 1.0mm。成形時の弱い擦痕が交差する。外面縦のシ状痕残る。その後指圧。高台三角。燻し良。摩耗無し。	和泉Ⅲ-1	
9	SX1	瓦器 椀	12.8			内・灰	平行暗文を体部ヨミガキが切る。ミガキ幅 1.0mm±。内・摩耗無し。		
10	SX1	瓦器 椀	15.8			外・灰	平行暗文。摩耗。燻し不良。長石粒等。		
11	SX1	瓦器 椀	15.6	4.6		内・灰オリーブ 外・灰	平行暗文, 幅 0.7mm。燻し不良。内・「ウロ状剥離」。		
12	SX1	瓦器 椀	16.8			外・灰オリーブ	平行暗文。口縁ヨガテ極弱。燻し不良。		
13	SX1	瓦器 椀	14.8			外・灰	平行暗文か。		
14	SX1	瓦器 椀	15.1			内・灰	平行暗文か。燻し弱。		
15	SX1	瓦器 椀			4.8	外・N 灰 5/ 断・7.5Y 灰白 7/1	内底細く鋭い平行暗文。周縁部は普通, 幅 2.0mm。高台三角, シャブ。燻・焼良。摩耗なし。精土。		
16	SX1	瓦器 椀			5	外・N 灰 5/ 断・7.5Y 灰白 7/1	内底暗文は平行, 幅 2.0mm。高台は低い方形で端面やや凹。長石等少含む。		
17	SX1	瓦器 椀			3.8	内・N 灰 5/	平行暗文。高台低台形。		
18	SX1	瓦器 椀			3.8	外・橙	内底暗文直線部分残, 幅 1.8mm。高台三角。橙色。長石微細粒多含。		
19	SX1	瓦器 椀			4.5	外・灰・灰白	平行暗文, 幅 0.9mm, ミガキ 2.0mm。外面シ状痕。		
20	SX1	瓦器 椀			4	外・灰	平行暗文を体部ヨミガキが切る。ミガキ幅 2.0mm。三角高台。無燻。		
21	SX1	瓦器 椀				内・灰	燻し弱。		
22	SX1	瓦器 椀				外・灰	平行暗文か。内底摩耗。		
23	SX1	瓦器 椀				外・灰	内・摩耗。		
24	SX1	瓦器 椀	15.1	4.6	4.2	外・5Y 灰 8/1	内底・細く鋭い平行暗文施文後, 通常の暗文。外面・シ状痕のなごり残。高台三角, 全く摩耗無し。		
25	SX1	瓦器 椀	14.7			内・N 灰 4/1 外・7.5Y 灰白 7/1	暗文・平行→体部。幅 1.3mm。外面にワ状圧痕。		
26	SX1	瓦器 椀	13.7			内・7.5Y 灰 6/1 外・々	摩耗。燻しやや不良。		
27	SX1	瓦器 椀	15.3			内・N 暗灰 3/ 外・々	細く, 浅い暗文, 幅 1.3mm。口縁外に沈線。黒色土器風の表面。長石微細粒多。		
28	SX1	瓦器 椀	13.6			内・灰 外・々	横, 斜めのミガキ。先行する鋭い線 3 条。外面布状の残痕。		
29	SX1	瓦器 椀	12			外・灰	暗文, 幅 3.0mm。		
30	SX1	瓦器 椀	14			外・N 灰 4/			
31	SX1	瓦器 椀	13.8	3.8	3.8	外・灰	硬い。		
32	SX1	瓦器 椀	13.6			内・灰	口縁ヨガテは殆ど無し。内・摩耗。		
33	SX1	瓦器 椀	16.2			外・灰			
34	SX1	瓦器 椀	14.4			外・暗灰	平行暗文。摩耗。長石細粒。		
35	SX1	瓦器 椀	15.1	4.4	4.6	内・N 暗灰 3/ 外・々	内・口縁に弱凹線。細い幅 0.8mm のミガキ。摩耗。高台三角。閃石又は雲母, 石英の微細粒含む。	畿内産	
36	SX1	瓦器 椀	14.6			内・灰			

表 4 遺物観察表-1

図版 No.	出土 位置	種 類	法量 (cm)			色 調		手法, 材, 焼成等	備 考
			口径	器高	底径	表面 / 断面			
37	SX1	瓦器 椀	14.8			内・にぶい橙 外・橙	内底平行暗文。重ね焼痕。全面橙色, 摩耗。チャート粗粒, 赤れ含む。口縁外, 強く凹む。		
38	SX1	瓦器 椀	15.2			外・N灰 5/ 断・灰白	低い高台が剥離。暗文は弧状。		
39	SX1	瓦器 椀	16			内・7.5YR 橙 6/6 外・ク	全面橙色。チャート大円れ, 赤れ含む。摩耗により内面調整不明。		
40	SX1	瓦器 椀	16.2			内・10Yオリーブ黒 3/1 断・7.5Y 灰白 8/1	内・荒れ。石英含む。		
41	SX1	瓦器 椀	16			外・5Y 灰白 8/1 断・ク	硬い。口縁のみ濃灰色。		
42	SX1	瓦器 椀	15	4.2	4.2	内・黄灰 外・ク	内面・風車状に極細暗文。コブ当て等ではない。その後, 通常幅のミガキ。 燻し不良。高台がボコ状。長石, 若干のチャート, 赤れ含む。	風車状以外は 暗文ではなくミ ガキ的。非畿内	
43	SX1	瓦器 椀	15.6			内・N灰 6/1 外・ク	摩耗。		
44	SX1	瓦器 椀	15			外・灰	外面は粘土接合痕か。燻し不良。		
45	SX1	瓦器 椀	14.2			内・灰 外・灰	ミガキ幅 0.3 ~ 1.4mm。外面に粘土紐接合痕。		
46	SX1	瓦器か	13.7			外・5Y 灰 5/	摩耗。細粒多く含む。重ね焼き。		
47	SX1	瓦器 椀	14.8			内・灰 外・オリーブ黒	外・指痕は規則的に並ぶ。チャート小れ等。外面黒。内・摩耗。		
48	SX1	瓦器 椀	15.6			内・灰 外・ク	表面暗色。暗文やミガキ単位は認められない。		
49	SX1	瓦器 椀	14.4			内・黒 外・ク	摩耗。口縁コブが極弱。精土。		
50	SX1	瓦器 椀	14.8			外・灰	口縁コブが無し。		
51	SX1	瓦器 椀	14.6			内・灰 外・灰白, 灰	重ね焼痕。		
52	SX1	不 椀			4.5	外・灰	高台外側に僅かな擦痕。黒色土器風の焼成。石英微細粒。摩耗。		
53	SX1	瓦器 椀	12.4			内・灰白 N8/ 外・ク	内面平行又は分割ミガキ。内底ミガキ前に縦方向の繊細なワケ痕。口縁コブ 2 段。 口縁下やや厚い。重ね焼痕。燻しは部分的。硬い。長石細粒僅含。	和泉Ⅲ-2 か	
54	SX1	瓦器 椀	14.9			内・N灰 4/ 外・ク	焼良, 精土。		
55	SX1	瓦器 椀	16.8			外・N灰 5/			
56	SX1	瓦器 椀	15.3			外・5Y 灰 5/1	内底輪状の暗文か。		
57	SX1	瓦器 椀	14.4			内・灰・灰白 外・ク	内底・連結輪状暗文。体部ミガキ。幅 1.1mm。重ね焼痕。		
58	SX1	瓦器 椀			3.9	外・灰白	連結輪状暗文・幅 1.0mm。硬い。		
59	SX1	瓦器 椀	15.3	4.4	4.7	内・N灰 5/ 外・ク	暗文・凝連結輪状。幅 2.0mm。高台三角。外底に成形時のシワ。重ね焼痕。		
60	SX1	瓦器 椀	16	3.9	4.4	内・灰オリーブ 外・灰	連結輪状暗文。高台三角。燻し不良。		
61	SX1	瓦器 皿	6.8	1.2	5.1	内・灰 外・灰白, 灰	ミガキ, 体部は波状。		
62	SX1	瓦器 皿	7.9	1.5	5.6	外・灰	内面にも, 仕上前の指痕若干認む。		
63	SX1	瓦器 皿	8.2	1.6	6.3	内・N灰 5/	内摩耗。		
64	SX1	瓦器 皿	8.4	1.4	6.5	外・N灰 4/	暗文無し。		
65	SX1	瓦器 皿	9.3			外・灰	若干の石英粒。		
66	SX1	瓦器 皿	8.3	1.7	4	内・N灰 6/ 外・ク	ミガキ幅 1.5mm。焼良, 灰色。		
67	SX1	瓦器 皿	8.7	1.5	7.1	外・7.5Y 灰 5/1	斜めに口縁へ上がるミガキは幅 1.0mm。		
68	SX1	瓦器 皿	8.1	1.6	4.0	内・N4/ 灰	燻し良。暗文渦巻状, 幅 3.5mm。		
69	SX1	瓦器 皿	8.6	1.4	6.8	内・N灰 5/ 外・ク 断・ク	内・ミガキ。外・指痕。		
70	SX1	土師質土器 杯	10.2			外・10YRにぶい黄 7/2			
71	SX1	土師質土器 小杯	9.4	2.9	5.1	外・にぶい黄橙	糸切。完形。		



図版 No.	出土 位置	種類	法量 (cm)			色調 表面 / 断面	手法, 材, 焼成等	備考
			口径	器高	底径			
72	SX1	土師質土器 杯			7.4	外・橙	糸切。	
73	SX1	土師質土器 杯			5.4	外・10YR 浅黄橙 8/4	糸切。摩耗。	
74	SX1	土師質土器 皿	16.2			外・にぶい橙	摩耗。精土。	
75	SX1	土師質土器 杯	15.6			外・灰黄褐		
76	SX1	土師質土器 杯	16.2			外・にぶい黄橙		
77	SX1	土師質土器 杯	15.5	3.7	8.4	外・にぶい黄橙	糸切。	
78	SX1	土師質土器 杯			8.4	外・にぶい橙	糸切。	
79	SX1	土師質土器 皿	13.6	3.5	6.4	外・10YRにぶい黄 7/2	糸切。細粒多含。	
80	SX1	土師質土器 杯			7.4	内・にぶい橙 外・にぶい橙	糸切。外・多段。	
81	SX1	土師質土器 杯	14.5	4.3	7.5	内・灰白 外・ $\phi$	内底 $\cup$ 目多い。糸切。完存。	
82	SX1	土師質土器 杯	14.5	4	7.2	内・にぶい黄橙 外・灰白	下位に黒斑。糸切。	
83	SX1	土師質土器 皿	14.8	4.1	8.7	外・10YR 灰黄褐 6/2	糸切。細粒多含。荒れ。	
84	SX1	土師質土器 杯	14.5	4.7	7.8	外・10YR 浅黄橙 8/3	糸切。	
85	SX1	土師質土器 杯			4	内・灰	長石粒含む。糸切。	
86	SX1	土師質土器 杯			8.5	外・7.5YRにぶい橙 7/4 断・N 灰 4/	細粒 $\chi$ ト等。糸切。	
87	SX1	土師質土器 杯			7	外・灰黄	糸切。	
88	SX1	土師質土器 杯			7	外・にぶい黄橙	内底 $\cup$ 目。	
89	SX1	土師質土器 杯			6.8	外・10YR 浅黄橙 8/3 断・ $\phi$ 褐灰 4/1	糸切。細粒含む。	
90	SX1	土師質土器 杯			6.9	外・10YR 浅黄橙 8/3	内底回転 $\chi$ 痕 $\chi$ ン状。糸切。	
91	SX1	土師質土器 杯			8.5	内・にぶい橙 外・にぶい橙	有高台。内面極硬。長石細粒目立つ。 $\chi$ ト大粒1片。摩耗。	平安前期
92	SX1	土師質土器 不	11.2			外・にぶい黄橙 断・灰	精土。	
93	SX1	土師質土器 杯				外・にぶい黄橙	柱状高台。内面剝離。泥岩 $\chi$ 等含む。	
94	SX1	土師質土器 皿	8.4	1.1	6.1	外・7.5YR 浅黄橙 8/4	糸切。薄手。	
95	SX1	土師質土器 皿	7.6	1.7	7.4	内・7.5YRにぶい褐 6/3	糸切。一部暗色。	
96	SX1	土師質土器 皿	7.8	1.5	4.7	外・にぶい黄橙	糸切。薄手。	
97	SX1	土師質土器 皿	7.8	1.5	4.5	外・浅黄橙	糸切。	
98	SX1	土師質土器 皿	8	1.6	4.7	外・にぶい黄橙	糸切。	
99	SX1	土師質土器 皿	8.4	1.9	4.6	外・にぶい黄橙	粘土(紐)接合痕。	
100	SX1	土師質土器 皿	8	1.7	4.8	外・にぶい浅黄橙	内・ $\chi$ ガキ。外・指痕。	
101	SX1	土師質土器 皿	7.8	1.6	4.5	外・7.5YR 浅黄橙 8/3	糸切。	
102	SX1	土師質土器 皿	7.8	1.5	4.8	外・にぶい黄橙	糸切。	
103	SX1	土師質土器 皿	8.4	1.6	5.3	外・7.5YRにぶい橙 7/4	糸切。	
104	SX1	土師質土器 皿	7.7	1.5	5.8	外・7.5YR 浅黄橙 8/4	糸切。	
105	SX1	土師質土器 皿			5	外・7.5YR 灰白 8/2 断・10YR 褐灰 5/1	糸切。	
106	SX1	土師質土器 皿	8.1	1.8	5	外・にぶい橙	糸切。摩耗。	

表 4 遺物観察表-3

図版 No.	出土 位置	種 類	法量 (cm)			色 調		手法, 材, 焼成等	備 考
			口径	器高	底径	表面 / 断面			
107	SX1	土師質土器 皿	8.3	2	5.5	外・7.5YRにぶい橙 7/3			
108	SX1	土師質土器 皿	8.6	1.5	5.4	外・7.5YR 浅黄橙 8/4 断・10YR 褐灰 6/1		長石, 赤礫等細粒。	
109	SX1	土師質土器 皿	7.8	1.5	5.8	外・7.5YR 浅黄橙 8/3		糸切。内底中央をひとげ。完存。	
110	SX1	土師質土器 皿	7.6	1.6	4	外・にぶい橙		糸切。赤い等含む。	
111	SX1	土師質土器 皿	8.6	1.4	6.3	外・灰		糸切。全面還元色。	
112	SX1	土師質土器 皿	7.9	1.7	4.8	外・7.5YRにぶい橙 7/4 断・10YR 浅黄橙 8/3		糸切。	
113	SX1	土師質土器 皿	7.6	1.2	5.2	外・にぶい橙		糸切。摩耗。	
114	SX1	土師質土器 皿	7.8	1.9	4.2	外・10YR 浅黄橙 8/3 断・ク		糸切。	
115	SX1	土師質土器 皿			4.9	外・10YRにぶい黄橙 7/3		糸切。	
116	SX1	土師質土器 皿	7.8	1.5	4.6	外・7.5YRにぶい橙 7/4		糸切。	
117	SX1	土師質土器 皿	8.5	1.8	4.6	外・7.5YRにぶい橙 7/4			
118	SX1	土師質土器 杯	7.9	1.9	4.9	内・にぶい橙 外・ク		糸切。	
119	SX1	土師質土器 皿	7.2	1.3	4.5	外・10YR 灰白 8/2		摩耗。	
120	SX1	須恵器 椀			5.9	内・暗灰 外・ク 断・ク		外底糸切痕が高台成形時に消える。内滑。全面黒色。精土・若干のチャート細粒。 平高台周縁をやや三角にする仁淀川型の椀か。	在地・平安か。
121	SX1	須恵器 椀			6.4	内・灰 外・ク		平高台。チャート, 赤い含む。摩耗。	在地産
122	SX1	須恵器 椀	15.8			内・7.5Y 灰白 7/1 外・N 灰 5/		回転成形。内はミガキ。外下位は暗色。	仁淀川型須恵器椀 B
123	SX1	須恵器 椀	18.2	6	5.5	内・灰 外・ク		糸切。内底凹, 口縁重ね焼痕。体部外面下位は指触痕や小凹凸, 上位は布等を使用した回転げ。鉄分多い風化は含む。	東播系
124	SX1	瓦質 釜	19.4			外・灰			
125	SX1	白磁 碗	16.6			外・灰白		内底に圏線。底は厚手。高台欠。	太宰府Ⅷ類
126	SX1	青磁 皿			4.4	内・オリーブ黄 断・灰白		櫛描。	同安窯
127	SX1	土錘	全長 5	孔径 0.6	外径 1.9	内・灰 外・ク		片端に欠損あり。還元色。摩耗。精土。重量 14.9g。	
128	SK3	青磁 碗				外・灰オリーブ		櫛描。+ 劃花か。	中国
129	SK16	須恵器 鉢	29.5			外・灰			東播系
130	SK20	青磁 碗	15.8			外・オリーブ灰		鎚蓮弁文。片刃彫り。	龍泉窯
131	SD1 (S)	瓦器 椀	12			外・灰		平行暗文か。小径。ミガキ幅 1.8mm。燻し僅か。	
132	SD1	須恵器 壺				外・灰白		耳は貼付後ケズリ整形。若干の長石粒。	古代
133	SD1 (S)	須恵器 甕			28.8	外・灰		内面細目の板げ。	古代
134	集中1	土師質土器 皿	7.1	1.5	4.2	内・にぶい橙 外・にぶい橙		糸切。内底周縁が凹む。完形。	
135	集中1	土師質土器 皿	7.2	1.5	4.1	内・灰白 外・灰白		糸切。内底周縁が凹む。ほぼ完形。	
136	集中1	土師質土器 皿	7	14.5	4.2	外・7.5YR8.2 灰白		糸切。内底周縁が凹む。焼良。ほぼ完形。	
137	集中1	土師質土器 皿	7.4	1.3	4.4	内・灰 外・ク		糸切。	
138	集中1	土師質土器 杯			7	外・にぶい黄橙		糸切。摩耗。	
139	集中1	土師質土器 杯	13	4	6.7	外・2.5Y8/1 灰白		糸切。内底同心円状。ほぼ完形。	
140	集中1	土師質土器 椀			6.8	内・橙 外・ク		摩耗著しい。やや粗い。	池澤Ⅲ-1期
141	集中1	青磁 碗				外・オリーブ灰		鎚蓮弁文。片刃彫り。発色良好。下部の破片。	

図版 No.	出土 位置	種 類	法量 (cm)			色 調		手法, 材, 焼成等	備 考
			口径	器高	底径	表面 / 断面			
142	集中1	瓦質鍋	20.3	胴径 24.6	23	内・灰 外・暗灰 断・灰白	口縁部呑み。内面ヨコワ痕。底・体境に段。極細粒含む。	在地産	
143	集中1	瓦質鍋	22	13.4	胴径 24.5	内・灰 外・々	外面指痕。底と体部の境は指摘可。粘土帯接合部で分裂。チート、泥岩円粒。全体摩耗。外底黒変。		
144	集中1	土錘	全長 4.1	外径 1.2	孔径 0.5	外・にぶい灰黄	欠損。摩耗。重量4g。		
145	TR5	鍬	残長 8.9	幅 2.2	厚 0.7		マキあり。茎断面方形。刃部は横断扁平、縦断やや先尖。欠損。		
146	常滑1	陶器 甕				外・暗灰黄 断・黄灰	外面タタの連続帯。内面接合痕、粗目ワ痕。薄い袖、下部若干垂れ。最大7.5mmの長石粒。やや粗い。	常滑	
147	常滑2	陶器 甕			16.8	内・灰白 外・黄灰	底部。内面大きなコアアて状痕。外底痕跡の性格は不明。	常滑	
148	常滑3	陶器 甕				外・にぶい橙	外面タタ後、チート消す。内面接合痕、横方向チート。粗いワ目状痕。精土。若干の長石粒。	常滑	
149	常滑3	瓦器 皿	7.8	1.6	6.2	外・灰	小径。口縁や底部呑み。		
150	常滑3	土師質土器 杯	13.8			外・にぶい橙	体・底接合部で剝離。やや煤け。		
151	P19	瓦器 椀			3.9	内・灰	平行暗文。ミガキ幅1.7～2.0mm。高台は逆「の」字状、断面明瞭な三角。高台内に布痕と爪状痕。		
152	P19	瓦器 椀	14	4.2	3	外・灰	内底のミガキは幅1.2～2.0mm。高台三角。接合痕。燻し無し。		
153	P19	瓦器 椀	15.1			外・灰			
154	P19	瓦器 椀				内・灰	ミガキ幅1.6mm。焼良。		
155	P19	瓦器 椀	12.3			外・灰	輪又は円状暗文か。内・上方、斜めの擦痕。		
156	P19	瓦器 椀	16.2			外・灰	粗いミガキ。		
157	P19	瓦器 椀	17.2			内・灰白 外・灰	内・下位のみミガキ。重ね焼痕。		
158	P19	瓦器 皿	9.1	2	6.2	外・黒	体部はコアア。内底に土師質土器のような成形痕が僅かに残る。準完形。		
159	P50	瓦器 椀	14.4			外・灰	内・下半にミガキ。外・アケ痕。		
160	P50	瓦器 椀	14.8			外・灰	内・やや摩耗。		
161	P50	瓦器 椀			3.4	外・オリーフ黒	平行暗文。内・摩耗。高台低かボコ、途切れ有り。		
162	P50	土師質土器 皿	6.8	1.5	4	外・にぶい橙	糸切。		
163	P50	土師質土器 皿	8.8	1.3	5.4	外・にぶい橙	糸切。		
164	P394	土師質土器 杯			7.4	外・灰白	円盤状底部、糸切。内底平行成形痕。精土。		
165	P394	土師質土器 杯	13.6	4.3	7.8	外・にぶい橙	糸切。		
166	P394	土師質土器 皿	8.2	1.7	4.8	内・にぶい橙 外・にぶい橙	糸切。		
167	P394	土師質土器 皿	8	1.5	3.8	外・浅黄橙	糸切。		
168	P394	土師質土器 皿	8.2	1.7	5.9	外・にぶい黄橙	糸切+板状圧痕。		
169	P389	瓦器 皿	9	1.8	7.3	外・灰	ジグザグないし蛇行ミガキ。4/5残。		
170	P174	瓦器 椀	14.4			外・灰黄褐	平行暗文。内面中位は密ミガキ。下位、ミガキ前の細い線文。		
171	P540	瓦器 椀	13.6			外・灰	粗ミガキ幅2.5mm。コアア弱。燻し良。		
172	P49	瓦器 椀	12.4			外・灰	コアア弱。摩耗。		
173	P174	瓦器 椀	14.6			内・黒 断・黒	コアア弱。接合痕。		
174	P388	瓦器 椀	13.6			内・黒灰 断・黒灰	ミガキ不明。口縁コアア明瞭。		
175	P50	瓦器 椀	15.4			内・橙 外・橙	燻し無し。橙色。煤けか。		
176	P574	土師質土器 杯	16	3.5	7.6	外・にぶい黄橙	糸切。内底回転チート痕。粗粒多含。		
177	P10	土師質土器 杯	15			外・にぶい黄橙			

表4 遺物観察表-5

図版 No.	出土位置	種類	法量 (cm)			色調		手法, 材, 焼成等	備考
			口径	器高	底径	表面 / 断面			
178	P112	須恵器 捏鉢	25.8			内外・灰	硬い。	東播系	
179	P195	須恵器 捏鉢	22.4			外・灰	やや丸味をもつ口縁。	東播系	
180	P111	須恵器 捏鉢				外・灰		東播系	
181	P220	須恵器 捏鉢	27.4			外・灰	重ね焼。内・ナゲが切り合う。黒粒が融解。	東播系	
182	P178	須恵器 捏鉢			6.4	外・灰		東播系	
183	P24	須恵器 捏鉢			9	外・灰	糸切。内・使用か。		
184	P259	須恵器 壺			8.4	外・灰	高台端部は摘み出し。外・下位ナゲ。混入。	8C. 頃	
185	P166	青磁 碗				外・灰オリーブ	劃花。	龍泉窯	
186	P193	青磁 碗	18.4			外・灰	丸ノミ又はやや片切状の幅広凹線による蓮弁。	龍泉窯	
187	P10	青磁 碗				内・オリーブ灰 外・オリーブ灰	劃花。		
188	P118	瓦器 皿	8	1.5		外・灰	硬い。否み。		
189	P193	瓦器 皿	9.4	1	7.6	外・黒			
190	P49	瓦器 皿	9.8	1.5	8	外・暗灰黄			
191	P470	土師質土器 皿	8.2	1.6	5	外・浅黄橙			
192	P470	土師質土器 皿	8	1.9	4.2	内・灰白 外・灰白	糸切。石英細粒。重ね焼。完品。		
193	P19	土師質土器 杯			7	内・灰 外・浅黄橙	摩耗。		
194	P367	土師質土器 杯	11.6	3.1	6.8	外・にぶい橙	内底ナゲ。精土。細目の糸切+平行圧痕。		
195	P189	土師器 釜	28.7			外・暗褐	石英、雲母又は閃石片含む。硬い。	紀伊型	
196	P454	土師器 釜		胴径 28.6		内・赤褐	石英、光沢面のある細片含(結晶片岩由来か)。指痕、ナゲ仕上。硬。外煤け。紀伊型	紀伊型	
197	P259	瓦質 三足鍋				外・にぶい黄橙~灰黄	脚。被熱。断面紋り状。石英、雲母片。		
198	P388	土錘	全長 4.6	外径 1	孔径 0.3	外・にぶい橙	ほぼ完形。重量 3.9g。		
199	P134	銅銭	直径 2.4	内径 2.15	孔径 0.6		「大観通寶」。	Ⅲ-2 ~ 3 期	
200	SK1	青磁 碗			7.4	外・灰オリーブ 断・灰白	内底釉ナギ。高台中央のみ露胎。		
201	SK1	土師器 煮炊具				内・にぶい橙 外・暗灰黄	硬い。細粒含む。		
202	SK1	土師器 釜	26.2			外・浅黄	口縁端部は折返し又は貼付。口縁外面に成形痕。片岩状の細粒含む。		
203	SK4	陶器 卸皿			7.2	内・オリーブ灰 外・灰白	内面灰釉。ほぼ未摩耗。糸切。素地須恵質。	古瀬戸	
204	SK4	青磁 碗			5.2	内・7.5Y6/3 オリーブ黄	内面劃花。高台まで施釉。高台内のナゲ状痕で釉が止まっている。内底使用による擦れ。	龍泉窯	
205	SK4	須恵器 碗			6.4	内・灰白 外・灰白	平高台。糸切。内面滑。外面火襷。全摩耗。	11C.	
206	SK4	土師器 釜	21.6			内・灰 外・にぶい橙	体部外面横方向のナゲ。内面上位ヨケ残る。角粒含む。		
207	SK4	土師質土器 釜	23.3			内・橙	外・太目のナゲ。鏝下ナゲ。焼良。やや粗い。	播磨系・15C.	
208	SK5	土師質土器 釜	23.6			内・にぶい橙	焼良。石英、長石、赤い。外・煤け。	播磨系か	
209	SK5	土錘	残長 4.3	外径 1.3	孔径 0.5	内・にぶい橙 外・にぶい橙	欠。摩耗。精土。重量 5.3g。		
210	P239	青花 碗			5.4	外・灰白	尖った畳付のみ釉剥ぎ。	明代	
211	P67	青磁 碗				外・灰オリーブ	端反。	龍泉窯 中世後期	
212	P143	青磁 碗				外・オリーブ灰	端反。	15C. 頃 龍泉窯	
213	P187	白磁 皿か				外・灰	外・横方向ナゲ。		

図版 No.	出土位置	種類	法量 (cm)			色調		手法, 材, 焼成等	備考
			口径	器高	底径	表面 / 断面			
214	P59	青磁碗				外・灰オリーブ	蓮弁。混入か。		
215	P46	青磁碗				外・オリーブ灰	細蓮弁。		
216	P46	青磁碗	12			外・オリーブ灰	細蓮弁。		
217	P20	青磁碗	13.6			外・黄褐	外・細蓮弁か。内・文様か。焼・色不良。		
218	P143	瓦質羽釜		鏝径 23		内・灰 5Y4/1 断・にぶい黄橙10YR7/2	鏝下接合部は鋭角に削り込む。口縁内ヨコケ。鏝下を中心に荒れ、橙化。石英多、ファト少含む。	河内型	
219	P59	土師質土器釜				内・にぶい褐 外・黒	外・タタ、煤け著しい。石英・長石細粒、赤い。	播磨系	
220	P214	陶器甕	32			外・にぶい赤褐		備前	
221	P67	須恵器杯	11.2			外・灰白	混入。	8～9C.	
222	P67	土鍾		外径 1.1 孔径 0.4		外・にぶい橙	欠損。		
223	集中4	須恵器杯蓋	14.4	4.4		外・灰	外・天井回転ズリ。天井内に当具痕。長石粒。224とセットか。準完形。		
224	集中4	須恵器杯身	12.6	4.8	8.3	外・灰	外底回転ズリ。内底中央当具痕。残2/3。		
225	集中4 SD25	須恵器杯蓋	15.8	4.5		外・灰	外・天井回転ズリ、降灰。天井内にひとナゲ。準完形。		
226	SK13	焼塩土器	8.8			外・にぶい黄橙	内面布目。外丁寧ナゲ。粗粒含。	8～9C.	
227	SK13	土師器甕				外・にぶい褐 7.5YR5/4	口縁内ヨコケ。赤変石英、長石粒。やや硬い。	古代I期後葉	
228	SK13	土師器皿	18.2	3.3	14	内・にぶい黄橙	口縁内面弱凹線。内外横位のミガキ。外底摩耗。	古代I-6期頃	
229	SK13	土鍾		外径 1.2 孔径 3.5		外・にぶい褐	欠損あり。		
230	SK13	土鍾		外径 1.4 孔径 0.3		外・にぶい橙	欠損あり。		
231	SK13	土鍾		外径 1.3 孔径 0.3		外・にぶい橙	欠損あり。		
232	SK13	土鍾		外径 1.5 孔径 0.3		外・にぶい黄橙	欠損あり。		
233	SK14	土師質土器杯	18		9.4	外・橙	高台剝離。摩耗著しい。精土。赤い等。	古代I期末	
234	SK14	土師器甕	26			外・にぶい褐	内外粗目のナケ。石英、長石角粒多含。花崗岩風化けか。硬い。	古代I-7～II期	
235	SK8	土師器甕	25.2			外・にぶい橙	内全面粗目ヨコケ、外・体斜ナケ。泥岩小円粒、ファト粒。摩耗。	古代I末～II期	
236	SK10	須恵器杯	12.9	3.4	9.2	内・黄灰 外・灰白	重ね焼き、摩耗。	古代I-5～6期	
237	SK11	須恵器杯	13.4			内・黄灰 外・灰	重ね焼き、摩耗。	古代I-5期頃	
238	SD11 (S)	須恵器杯				外・灰白	精土。	古墳末	
239	SD11 (S)	土師器甕	14.6	胴径 13.5		内・にぶい橙	外・タナケ+ヨコケ、口縁部～頸部ヨコケ。内・上部ヨコケ。砂岩円粒等。外・煤け。	甕C 古代I-7～II期	
240	SD12 (S)	須恵器皿	15.6	2.3	11.6	外・灰	ハラ切。底・内外ナゲ仕上。精土。	古代I-5～6期	
241	SD14 (S)	須恵器皿	17.1	2	13.4	内・灰白	被熱。	古代I-5～6期	
242	SD28 (S)	須恵器皿	17.8		14.8	外・浅黄橙	焼不良。重ね焼。	古代I-5～6期	
243	SD28 上	須恵器皿	17	2.3	13.2	外・浅黄橙	口縁端に沈線。外面火襷。軟質、酸化色。ハラ切。	古代I-5～6期	
244	SD28 上	須恵器皿	14.9	2.4	12.2	外・灰白	口縁端を内へ丸め、沈線を表現。焼不良、摩耗。ハラ切。	古代I-5～6期	
245	SD28 上	須恵器台付皿	18.5	2.9	14.4	外・黄灰	焼不良、摩耗。畳付凹。微細粒。	古代I期後半頃	
246	SD28 (N)	焼塩土器	10.8	(12.1)		外・にぶい黄橙	内・布痕。外・指痕。口縁ナゲ落とし。泥岩円粒を少量含む。2次被熱。	8～9C	
247	SD28 上	土師器甕	19.2			内・にぶい橙	体部外面タナケ後、上部にヨコケ。若干斜めナケ。口縁内ヨコケ後弱ナゲ。長胴。ファト多、若干の砂岩粒。	甕C 古代前期	
248	SD28 上	須恵器杯	13.5	4.2	12.3	外・灰	外底回転ナケ。高台の外側に接合痕。糸切。ファト粒多含。		
249	SD28 上	須恵器壺	11	胴径 20.8		内・一部黒ずむ。外肩降灰。		古代前期	

表4 遺物観察表-7

図版 No.	出土位置	種類	法量 (cm)			色調		手法, 材, 焼成等	備考
			口径	器高	底径	表面 / 断面			
250	SD28 上	須恵器大甕				外・灰	体部外・格子タテを消す, 内・当具痕。肩部厚 1.2cm。		
251	SD28 上	須恵器甕	18			外・灰	外・平行タテを交互に角度を変える。内・当具痕。口縁上端に7列か。口縁は 253 に酷似。		
252	SD28 上	須恵器甕	19			外・灰	外・格子タテ, 口縁タテ又はワケの残痕。口縁外に焼成前の線刻。内・不明圧痕。		
253	SD28 上	須恵器甕	19.4	胴径 49		外・灰	外・細め平行タテ, 内・当具痕を半ば消す。口縁端が劣る。口縁外・タテ又はワケ残痕。		
254	SD28 上	須恵器甕	23.8			外・灰褐			
255	SD28 上	須恵器甕	20	(50.7)	胴径 35.8	内・黄灰・橙 外・褐灰・橙	外・平行タテ, 内・階円状圧痕, 下位細めワケ。頸内面斜ワケ。下部が特に生焼け。		
256	P514	土師器皿	15.6	1.9	12	外・灰白 断・浅黄	ヘラ切。内底滑。内外荒。器表面のみやや灰色がかかる。	I-5 期	
257	P539	須恵器杯 B			9.8	外・灰	高台端は摘み出し。内底丁寧ガ, 外底ヘラ切+ガ。半残。	I-5 期	
258	P539	土師器甕		外径 1.3	孔径 0.5	外・灰黄	欠損。チャト角レ。		
259	P570	土師器甕	28.2			外・にぶい赤褐	胴部, 外面粗ワケ, 口縁内面ヨケ+ナ。石英角粒多含。硬い。	8~9C.	
260	ホ1	瓦器椀	14.3	4.1	2.8	外・灰	平行暗文。ミガキ幅 1.9mm。細粒含。準完。高台断面は不定。		
261	Nホ1	瓦器椀	14.9	3.1	4.6	外・黄灰	口縁ヨケは極弱。平行暗文か。摩耗。燻し, 焼不良。精土。高台は極扁平で雑。		
262	ホ	瓦器椀	12.8			外・灰			
263	ホ	瓦器椀	14	3.4	3.7	外・灰	平行暗文・幅 0.8mm。高台断面三角~低台形。ヨケ弱。精土。		
264	TR5	瓦器椀			3.4	外・灰白	平行暗文。低三角高台。燻し不良。接合痕。		
265	TR5	瓦器椀	14.9	4.1	3.7	外・黄灰	平行暗文。口縁内面擦条痕。三角高台。焼良, 燻し不良。		
266	Nホ1	瓦器椀	15.2	4.1	5.6	外・灰白	平行暗文。口縁ヨケ狭い。低高台は繊維圧痕で凹凸。口縁以外は燻し無し。硬い。精土。		
267	Nホ1	瓦器椀	16.2	4.9	3.8	外・灰	平行暗文, 幅 1.1mm。ミガキ幅 2.0mm。高台小径だがはっきりした三角。焼良, 重ね焼痕。非摩耗。	和泉Ⅲ-2~3 期	
268	西壁 (N)	瓦器椀	14.5	4.5	4	外・灰	平行暗文。高台「の」字状。内底に摩耗なし。上半はやや摩耗。		
269	Sホ1	瓦器椀	13.4			外・にぶい黄橙	内底連結輪状暗文か。ミガキ幅 0.9mm。燻しは外面に僅かに残るのみ。接合痕。細粒。		
270	TR5	瓦器椀	13.3	3.1	5.2	内・灰	内底連結輪状暗文。三角高台。燻し不良。		
271	ホ	瓦器椀	11.9	3.4	3.4	外・灰	燻し不良。精土。準完。		
272	ホ1	瓦器椀	15.1	4.4	3.8	内・灰白 外・ク	内底輪状暗文。高台三角。精土。準完。		
273	ホ	瓦器椀				外・黄灰 断・にぶい橙	輪状暗文。高台低く, 一部途切れ。内面橙色, 摩耗。		
274	Sホ1	瓦器椀	12.4			外・灰	摩耗有り。		
275	ホ	瓦器椀	14.6			外・灰	口縁外反しない。燻し比較的良。		
276	Sホ1	瓦器椀	16.2	3.5	4.8	外・灰	腰張型, 口縁ヨケ殆ど無し。内底輪状暗文か。ミガキ幅 1.2mm。高台三角, 長石, 石英, 微細粒多含。燻し不良。	非和泉的	
277	TR5	瓦器椀	12.6	3	3.7	外・灰	低カボコ高台。チャト角粒。		
278	ホ1	瓦器椀	14.9			外・灰	精土。		
279	ホ	瓦器椀	13.4			外・灰白	ミガキ幅 1.4mm。燻し無し。		
280	ホ	瓦器椀	12.9			外・灰白	燻し無し。		
281	Sホ	瓦器椀	13.8			外・灰	内・強いミガキ幅 2.0mm。		
282	ホ	瓦器椀	15.4			内・黄灰	ミガキ幅 2.2mm。チャト角レ。		
283	Sホ	瓦器椀	15.3			外・灰			
284	TR8	瓦器椀	14.4			内・にぶい黄橙 外・褐灰 断・にぶい橙	ヨケ極弱。焼不良。還元色。燻しなし。		
285	TR5	瓦器椀	13.8	4	4	外・灰	低台形高台か。ミガキ幅 1.5mm。粘土接合痕。精土。		

図版 No.	出土 位置	種 類	法量 (cm)			色 調		手法, 材, 焼成等	備 考
			口径	器高	底径	表面 / 断面			
286	ホ	瓦器 椀	16.8			外・灰	強コテ。精土。		
287	ホ	瓦器 椀	12.8			外・灰	燻し不良。		
288	Nホ1	瓦器 椀	15			外・灰	平行暗文の可能性。		
289	ホ	瓦器 椀	13	3.9	3.5	外・灰白 / 褐灰	細粒。		
290	Sホ1	瓦器 椀	14.2	3.4	4.2	外・オリーブ黒	内底平行暗文。内外摩耗。		
291	Sホ	瓦器 椀(大)	17.8			にぶい橙, 一部黄灰	口縁上端内側に, 上から入れたような凹線。内外摩耗だが内面ミガキとみられる。外面僅かに燻し残る。2次的に表面変色か。長石・石英細粒, 赤い。金雲母片少量。厚手。	畿内産か	
292	ホ	瓦器 椀				外・灰	ミガキは, 不在又は極弱。ファト, 赤い。		
293	TR5	瓦器 椀				外・灰	口縁のコテは狭く, 弱い。燻し不良。		
294	Sホ	瓦器 椀	14.8			外・灰			
295	ホ	瓦器 椀	16.2			内・浅黄橙 外・灰白	内摩耗。燻し無し, 焼不良。		
296	Sホ1	瓦器 椀	15.8	4	4	外・灰	内・不明。僅かな高台。細粒。		
297	Nホ1	瓦器 椀	14.2			外・灰	摩耗, 燻しやや不良。		
298	ホ1	瓦器 椀	14.3			外・灰	内・摩耗。		
299	ホ1	瓦器 椀	14.4	3.7	4	外・黒褐 断・灰白	内・摩耗。		
300	ホ	瓦器 椀	14	2.7	5.6	外・灰	摩耗。		
301	ホ	瓦器 皿	7.6	0.9	3	外・灰			
302	ホ	瓦器 皿	9.1	1.5	6.9	外・灰	ミガキ1.8mm。完形。		
303	ホ1	瓦器 皿	8.9	1.7	6.6	外・灰	幅2.0～4.0mmのミガキ。		
304	ホ	瓦器 皿	8.2	1.4	6.7	外・灰	外底に重ね焼痕。		
305	Sホ1	瓦器 皿	7.6	1.5	5.7	外・灰白	燻し殆ど無し。		
306	ホ1	瓦器 皿	9	1.6	7	外・灰	内・太いミガキ。		
307	ホ	瓦器 皿	7.4	1.6	5.9	外・オリーブ黒	燻し良。		
308	ホ	瓦器 皿	8	1.4	4	外・灰			
309	TR5	瓦器 皿	8.4	1.6	6.4	外・灰			
310	ホ	瓦器 皿	7.8		6.1	外・灰	ほぼ完形。		
311	粘土	瓦器 皿	8.3	1.5	6.6	外・灰白	燻しなし。		
312	ホ	瓦器 皿	8	1.6	7	外・灰	燻し不良。		
313	ホ	瓦器 皿	7.5	1.7	5.8	外・灰白	燻し無し。		
314	ホ	瓦器 皿	7.4	1.2	5.9	外・褐灰	一部灰褐色。		
315	ホ	瓦器 皿	7.8	1.7	5.9	外・灰	燻し不良。		
316	ホ	瓦器 皿	7.6	1.4	5.8	外・灰	摩耗。ミガキか。		
317	ホ	瓦器 皿	7.2	1	4.4	外・灰	焼良。口縁に粘土切れ目状痕1ヶ所。		
318	ホ	瓦器 皿	7.8	1.6	6.2	外・灰	準完。		
319	ホ	須恵器 捏鉢	33.8			内・褐灰 外・灰黄褐	口縁に重ね焼痕。やや粗い。	東播系	
320	ホ	須恵器 捏鉢				外・灰	重ね焼痕著しい。	東播系	
321	ホ	須恵器 鉢	31.5			内・黄灰 外・	口縁部, 粘土接合痕か。石英, 長石, ファトの微細粒多含。	産地不明	

表4 遺物観察表-9

図版 No.	出土 位置	種 類	法量 (cm)			色 調		手法, 材, 焼成等	備 考
			口径	器高	底径	表面 / 断面			
322	粘土	須恵器 鉢	33.8			外・灰			東播系
323	※1	須恵器 捏鉢				外・灰		片口。口縁外面暗色帯。	東播系
324	※	須恵器 鉢			10	外・灰		糸切痕。無摩耗。	東播系
325	※	須恵器 鉢			7	外・灰		内ナテ。僅かにワケ痕。硬い。8.0mm×1点。使用摩耗なし。	東播系
326	粘土	須恵器 甕	20.6			外・灰黄 断・にぶい褐		焼不良。石英他細粒多。粗。	東播系
327	※	須恵器 甕	23.5			内・にぶい黄橙 外・褐灰		頸外面粗ワケ又はワケ痕。石英, 長石微細粒。微小孔。	東播系
328	N※1	須恵器 甕				内・黄灰 外・灰		外・ワケ。頸・粗ワケを擦り消す。やや粗い。瓦質。焼成。	東播系
329	中※1	須恵器 甕				外・灰白		外・ワケ。断面比7色。	古代前期
330	N粘土	陶器 播鉢	34.2			外・にぶい赤褐		粗粒含。	備前
331	※	陶器 甕	34.4			内・灰黄 外・灰オリーブ		外面肩部自然釉。精土, 長石粒含。口縁は褐色。頸部付近内面・指や工 具痕をヨコナテで消す。	常滑3型式 12C.末
332	S※1	陶器 甕				外・にぶい赤褐		外・ワケ。内・ヨコナテ。	常滑
333	S※	陶器 甕				外・灰オリーブ		外面自然釉。ワケやや粗い。	常滑
334	S※	陶器 甕				外・灰黄褐		外・ワケ。長石粒等。	常滑
335	S※1	陶器 甕				外・灰黄褐		外・ワケ。内・接合痕, 僅かに粗いヨコナテ痕。	常滑
336	※	陶器 甕			37.2	外・にぶい赤褐		外・縦位のハナナテかナナテ。内・ケスリ。底・ナテ。	備前
337	※1	土師器 釜	27.8			外・橙		細角粒多含。石英, 扁岩状粒あり。閃石状光沢面を持つ粒若干有り。	紀伊型
338	※	土師器 甕				内・にぶい褐		肩に突帯。石英, 雲母, 扁岩状微細粒若干含。外・煤け。	紀伊型
339	N1※	青磁 碗	16			内・オリーブ黄		内外に細かい擦傷。	同安窯
340	S※1	青磁 碗	15.4			外・オリーブ黄		外・櫛描。内・劃花。	同安窯
341	※1	青磁 碗	15			外・オリーブ黄 断・灰白		櫛描。劃花。	同安窯
342	N※	青磁 皿			5.5	外・灰オリーブ		櫛描文。外底露胎。	同安窯
343	※1	青磁 碗	17.6			外・灰オリーブ		劃花。	龍泉窯 I-2 類
344	※1	青磁 碗	16.6			外・灰オリーブ		劃花。	龍泉窯 I-4 類
345	※	青磁 碗	17.6			外・灰オリーブ		内・劃花。	龍泉窯
346	TR5	青磁 碗	15.7			内・灰オリーブ 断・灰		口縁内面二条沈線。	劃花 I-4 類。 12 後~13 初
347	※	青磁 碗	14.9			外・オリーブ黄 断・灰白		口縁内に段。表面に細かい梨地状の荒れ。	龍泉窯
348	粘土	青磁 碗	18.2			外・灰オリーブ			龍泉窯
349	S※	青磁 碗	17.6			外・灰オリーブ			龍泉窯
350	TR5	青磁 碗			6.2	内・灰オリーブ 断・灰白		内底周縁に段, 中心に印刻。内底使用による擦れ。	龍泉窯
351	※	青磁 碗			6	外・灰オリーブ		高台内露胎。	
352	※1	青磁 碗			6.6	内・灰オリーブ 外・ 断・灰白		劃花。畳付も含め全釉。高台内に窯道具痕。内底中央摩擦。	龍泉窯 I-4 類
353	※1	青磁 碗			5.6	外・灰オリーブ 断・灰白		外底露胎。	龍泉窯
354	※	青磁 碗			6.4	外・灰オリーブ 断・灰白		外底露胎。	龍泉窯
355	S※1	青磁 碗	17			外・オリーブ灰		鑄蓮弁。	龍泉窯
356	S※	青磁 碗				外・灰オリーブ		鑄蓮弁。	龍泉窯
357	※	青磁 碗				外・灰オリーブ 断・灰白		鑄蓮弁。	龍泉窯



図版 No.	出土位置	種類	法量 (cm)			色調		手法, 材, 焼成等	備考
			口径	器高	底径	表面 / 断面			
358	ホ	青磁碗	17.3			外・灰オリーブ	鎚蓮弁。	龍泉窯	
359	ホ	青磁碗				外・灰オリーブ 断・灰白	鎚蓮弁。内面線描。	龍泉窯	
360	ホ	青磁碗	16.3			外・オリーブ灰 断・灰白	鎚蓮弁。やや狭幅。	龍泉窯	
361	ホ1	青磁碗	19.4			外・灰オリーブ	鎚蓮弁。内面線描。	龍泉窯	
362	ホ1	青磁碗			8	外・灰オリーブ 断・灰白	内底印刻。高台内露胎。	龍泉窯	
363	Sホ	青磁碗			6.2	内・灰	内底刻文。	龍泉窯	
364	ホ1	青磁碗			5.6	内・オリーブ灰	内底印刻。高台内露胎。	龍泉窯	
365	Nホ1	青磁碗か	16.8			外・オリーブ灰	外面・片切彫。		
366	ホ	青磁皿	10.4			外・明緑灰	稜花。内・劃花。	龍泉窯	
367	ホ	白磁皿			4.2	外・灰白	外底、ケリ出し、露胎。	白磁D類	
368	Sホ1	白磁皿	9.4	2.6	6	外・灰白	口縁と外底釉剥ぎ。	白磁D類	
369	TR6	青磁碗				断・灰白			
370	ホ1	瓦質皿	9.6	1.7	5.8	内・灰 外・ク	糸切。内底と外立上がり部に回転ケリ痕。摩耗。表面薄く炭素吸着。石英細粒。		
371	Nホ1	土師質土器皿	7.2	1.9	4	外・灰白	完品。糸切。		
372	ホ	土師質土器皿	7.2	1.4	4.3	外・にぶい橙	糸切。摩耗。		
373	ホ	土師質土器皿	8.5	1.5	5.4	外・灰黄	糸切。摩耗。精土。		
374	Nホ1	土師質土器皿	8.3	1.8	4.5	外・にぶい黄橙	糸切。摩耗。		
375	ホ	土師質土器杯	11.2	2.9	6.4	外・浅黄橙	摩耗。		
376	ホ1	土師質土器杯	12.8	3.4	8.4	外・にぶい黄橙	摩耗著しい。精土。		
377	ホ1	土師質土器杯	13.2	4.2	7.1	外・にぶい黄橙	摩耗。赤い等少含。60片余に分裂。欠失は僅か。		
378	ホ1	土師質土器杯	13.6	4.3	6.9	外・にぶい黄橙	摩耗。30片余に分裂。精土。		
379	ホ1	土師質土器杯	14.2	3.9	7.1	外・にぶい黄褐	摩耗。60片余に分裂。		
380	TR5	土師質土器杯	13.2	4	6.2	外・にぶい黄橙	回転成形痕。糸切。細粒多。		
381	ホ1	土師質土器杯	14.6	4	7.3	外・灰白	糸切。細粒多。欠失は僅か。		
382	ホ	土師質土器杯	17			内・浅黄橙	精土。		
383	ホ	土師質土器杯	13.9	4.5	7	外・にぶい黄橙	内底中央にケリ、立上がり部に同心円成形痕。糸切。石英、長石、赤い、泥岩のいずれも細粒含。完品。	杯Eか	
384	ホ	土師質土器杯			7.4	外・にぶい黄橙	摩耗。精土。		
385	ホ1	土師質土器杯			5.8	外・にぶい橙	摩耗。		
386	ホ	土師質土器杯			6.4	内・暗灰黄	糸切。摩耗。精土。		
387	ホ	土師質土器杯			7	外・灰白	摩耗。糸切。		
388	ホ	土師質土器杯			6.8	外・にぶい黄橙	摩耗。		
389	Nホ1	土師質土器杯			9	外・にぶい黄橙	糸切。摩耗。		
390	Nホ1	土師質土器杯			7.7	外・浅黄橙	糸切。		
391	ホ	土師質土器杯			7.8	外・にぶい橙	摩耗。糸切。		
392	ホ1	土師器釜	19.1			内・橙	外・鈔までケリ。煤け。石英細粒、赤い等。	播磨系	
393	Sホ1	土師器釜	23	胴径 25.8		内・にぶい橙	外・鈔以下スケ著しい。内・ヨケ。石英、長石、赤い。やや粗い。	播磨系	
394	(N)	須恵器杯B	15.8	5.5	9.6	外・灰	外底ケリ、弱い爪状圧痕。長石細粒。	I-5~6期	

表4 遺物観察表-11

図版 No.	出土 位置	種 類	法量 (cm)			色 調		手法, 材, 焼成等	備 考
			口径	器高	底径	表面 / 断面			
395	ホ	須恵器 皿	16.9	2.6	13.7	外・灰		口縁内凹線。ヘラ切り。不、摩耗。ファト、黒粒。	I-5～6期
396	N粘土	須恵器 皿	16	2	12	外・灰白		口縁内凹線。焼不良。精土。	I-6期頃
397	ホ1	須恵器 蓋	14.5			外・灰白		外面降灰、内面中央滑。	I-6期頃
398	ホ	須恵器 杯	12.8			外・灰白		混入か。	I-5～7期
399	ホ	須恵器 杯			7	外・灰		不、摩耗著しい。角レ1点。	8～9C.前
400	ホ	須恵器 杯			10.2	外・灰		ヘラ切り。不、摩耗。黒粒、細粒。	8～9C.前
401	Sホ1	黒色土器 碗	14			内・黒褐 外・にぶい褐		内黒。口縁外も黒。口縁ファブ。焼良。細粒。	畿内系
402	TR5	緑釉陶器 碗			8	外・灰オリーブ 断・にぶい橙～黄灰		貼付高台、置付凹。内底沈線。素地弱還元～酸化色。	近江系
403	TR5	須恵器 碗	14.8	4.5	6.4	内・灰白 / 灰		杯形に高台を外へひき出しながら貼付。重ね焼、焼不良。全体摩耗。細粒含。発色・焼成は仁淀型須恵器碗。	12C.頃
404	TR6	土鍾		孔径 0.4	全幅 1.7	外・灰白		欠損。弱還元色。	
405	ホ	土鍾		外径 1.8	孔径 0.4	外・にぶい橙		摩耗。欠損。	
406	ホ1	土鍾	全長 5.0	外径 1.3	孔径 0.4	外・黄灰		摩耗。重量 4.9g。	
407	ホ1	土鍾	全長 5.0	外径 1.4	孔径 0.4	外・橙		摩耗。僅かに欠損。重量 6.3g。	
408	ホ1	土鍾	全長 4.7	外径 1.5	孔径 0.6	外・にぶい橙		摩耗。重量 6.7g。	
409	ホ	砥石	残長 6.7		全厚 4.8			割、欠。硅質。	
410	ホ	砥石	残長 6.2		全幅 3.4			硅質、灰白色。欠損。	
411	ホ1	砥石	全幅 2.7		全厚 2			4面使用。切損。被熱か。	
412	TR5	鉄鎌	残長 5.6		刀厚 0.4			マキあり。茎は断面方形。刃部先端に向かって徐々に尖る。残重 6.6g。	刃部に欠損あり。
413	ホ 2 (N)	須恵器 杯	12.8	4.9	10.2	外・灰		内底中心に同心円当具痕。その後マキ。外底粗い回転マキ。大粒含。	古墳後期
414	ホ 2 (N)	須恵器 杯	12.3	3.4	8.1	外・灰		口縁端は明確に外反。極精土。やや不。	I期後～ II期初
415	ホ 2 (N)	須恵器 杯	14	3.7	9	外・灰		火襷。焼やや不。	I期後～ II期初
416	ホ 2 (N)	須恵器 杯	12.1	4.2	8.2	外・灰白		外底マキ仕上、繊維圧痕。灰白色、口縁還元。	
417	ホ2	土師質土器 杯	12.4	3.9	7	内・黄灰		ヘラ切り。内面還元色。	
418	ホ2 北端	須恵器 皿	14	2	11	外・灰		口縁端は巻込み、内に凹線。立上がり外面接合痕。精土。	I期後半
419	ホ 2 (N)	須恵器 皿	15.7	2	13.4	内・黄灰 外・にぶい黄橙		外底ヘラ切後マキ。口縁酸化色。	I-7期
420	ホ 2 (N)	須恵器 皿	16.4	2.1	12.6	外・灰白		口縁端は内上に凸。焼不良。精土。底に黒斑。ヘラ切。	I-5～6期
421	ホ2	須恵器 皿	19.2	2.4	16.4	外・灰白		口縁端は巻込み、内に凹線。外底ヘラ切+マキ。火襷。焼不。	I期末
422	Nホ2	須恵器 皿	15.6	1.8	12.9	外・黄灰		外底丁寧マキ、内底多角形に丁寧マキ。	I-7期
423	ホ2	土師質土器 皿	14.5	1.8	11.9	外・橙		摩耗。元来須恵器か。赤レ等。	I-6期
424	ホ 2 (N)	須恵器 甕	19.4			外・灰		外・平行マキ、内・かすかに当具痕。口縁マキ・焼やや不良。	
425	ホ 2 (N)	土師器 甕	28.8	胴径 25		外・にぶい褐		外・体部マキ。口縁内、マキを弱く消す。石英等角粒多含。	甕 A
426	ホ2	土師器 甕				内・にぶい橙		体部外面やや斜のマキ。頸部以上の内面はマキをマキ消す。石英等角粒多含。雲母僅かだが大片あり。硬。	甕 A2
427	ホ 2 (N)	土師器 甕	(20)	胴径 19.4		内・橙		外面：上半にマキ、中位以下マキ、境付近は錯綜。頸～口縁はマキ仕上。非硬質。砂岩やファト小円粒。外・煤け、赤変。	甕 C
428	ホ 2 (N)	土師質土器 杯			6.2	外・にぶい黄橙		高台の外側に接合痕。糸切。ファト粒多含。	古代後期

図版 No.	出土 位置	種類	法量 (cm)			色調		手法, 材, 焼成等	備考
			口径	器高	底径	表面 / 断面			
429	ホ2	須恵器 碗			6	外・灰	内面滑, 調整痕なし。外面整美なコナゲ痕。外底糸切, 若干円盤状。断面ナドイフ状で外=灰, 中=暗灰。瓦質。	Ⅲ-3期頃	
430	ホ 2 (N)	土師質土器 皿	7.6	1.6	5.3	外・にぶい橙	糸切。外底付着物。		
431	ホ 2 (S)	土師質土器 皿	7.4	1.6	5.7	外・にぶい橙	糸切+平行圧痕。		
432	ホ 2 (N)	土師質土器 杯	11.8	3.8	5	外・橙	ファト粒多含。		
433	ホ2	土師質土器 杯	14.5	4.4	8	外・浅黄橙	糸切。		
434	ホ 2 (N)	土師質土器 杯	12.3	4	7.6	外・灰白	糸切+平行圧痕。内底にひとナゲ。石英等細粒多。		
435	ホ2	土師質土器 杯			7.6	外・浅黄橙	摩耗。糸切。		
436	ホ 2 (N)	土師器 杯	12.1	4	7.8	外・にぶい黄橙	糸切+平行圧痕。細粒含む。	杯Eか	
437	ホ2	瓦器 碗	14.4	4.3	3.4	外・暗灰			
438	ホ2	瓦器 皿	7.9	1.5	6.1	外・灰黒	ファト角片1点。		
439	ホ2	瓦器 皿	7.8	1.4	6.8	外・灰	体・底境外面は劣って突出。		
440	ホ2	瓦器 皿	8.1	1.6	6.8	外・灰	内・粗ミガキ, 幅1.5mm。外底やや菊花状の成形痕。		
441	ホ 2 (N)	青磁 碗			5.2	外・オリーブ灰	内底に花卉文, 片刃彫か。内底中央擦・摩, 壘付摩耗。	龍泉窯	
442	ホ 2 (N)	青磁 皿			4.8	外・明オリーブ灰	櫛描。劃花。外底露胎。	龍泉窯か	
443	ホ2	白磁 皿	10.6			外・灰白	内底劃花。口縁外釉溜。	12末~13初	
444	ホ 2 (N)	白磁 碗			6.5	内・灰白	外底露胎。	V類	
445	ホ 2 (N)	土師器 釜	24.2			外・橙 断・灰	頸部下外面に斜位のウケ状痕跡。高圧をうけた片岩状の細礫や, 光沢のある剥片含む。硬。器表のみ橙色。	紀伊型	
446	ホ 2 (N)	土師器 釜	29		胴径 30.2	内・明赤褐 外・にぶい赤褐	胴部器厚は4.0mm以下。内・横斜位の弱いウケ。頸部継目は使用前以前より亀裂。外面煤け, 剥落。内面黒や橙色に変色。片岩状の角粒, 微細な雲母片, 赤い。	紀伊型	
447	P215	染付 碗	12			外・灰白	焼やや不。	近世	
448	P371	釘か	全長 11.6		全幅 1.5		重量25.1g。		
449	P371	刀子か	残長 7.8		残幅 1.8		重量17.5g。		
450	P371	金属器	残長 5.6		全幅 1.4		2本が接着。451と同一体か。重量13.5g。		
451	P371	金属器	残長 39.2	幅 1.0	全厚 1.0		2本が接着。断面方形。		

### 凡 例

色調で一面のみを記したものは, 原則的に内・外で大差なし。「ホ」は包含層。

皿は, 小皿も含めて一律に「皿」とした。

「糸切」は回転糸切り。

「一期」とのみ記したものは土佐の土器編年。

分類や編年については第IV章。

## 第Ⅳ章 まとめ

当区の成果を調査対象区全体の中で位置付けるとともに、古代・中世における全容の把握を試みる。各区報告書の巻次は表1に記した。

### A. 出土遺物

#### 1. 古代

古代初期のまとまった資料を表6に示した。南四国における古代初期頃の土器編年は確立しておらず、これらは有力な資料となる。杯C等地域色の濃い器形や、奈良時代的な器形でありながら定型化していないもの、古墳時代的な要素といったものが混在していることがこれら出土遺物からもうかがえる。表6以外にも単発的には対象区各所で出土している。1-7区包含層出土の須恵器を例にとれば、6世紀前半代、7世紀、8世紀の諸型式があり、古墳時代の集落は明らかでないが、遺跡は古代まで大きな断絶なく継続しているものとみられる。

一方、川上側平野部の高岡地区の遺跡や、仁淀川の東側に所在する西分増井遺跡、高知平野東部の下ノ坪遺跡をはじめとする大型企画の建物群を有する遺跡と比較した場合、上ノ村遺跡では8世紀代の陶硯や赤彩土師器、畿内系土師器の欠如或は僅少さを指摘できる。前者ではみられる土師器供膳具の多様性もみられない。一方、焼塩土器は多数出土している。このような土器様相には、該期における本遺跡の機能と位置付けが反映されていると考えられる。

期	共伴等	想定年代
I-1	(8C. 初頃)	8世紀
I-2		
I-3		
I-4	平城Ⅳ	
I-5		
I-6	平城Ⅵ (平安Ⅰ期中)	
I-7	平安Ⅰ期新	9世紀
Ⅱ-1		10世紀
Ⅱ-2	平安Ⅱ期中～新	
Ⅱ-3	篠伊野Ⅱ期新	
Ⅲ-1	虎溪山1～丸山2号窯	11世紀
Ⅲ-2	楠葉型黒色土器B類	12世紀
Ⅲ-3		13世紀
Ⅳ-1	和泉型瓦器Ⅲ-2, 東播系須恵器Ⅱ-2	

※池澤 1998・2000 を元に編集

表5 土佐の古代～中世土器編年と畿内等編年・年代

器種等	出土位置	図 No.	備 考
杯 C 他	1-3A 区下 SK2	126	I-2 期。杯 A, 杯 B 蓋他共伴。
須恵器杯, 土師器甕	1-7 区 SK32	261 他	I 期前半 (8C. 初～前)。横瓶含。
杯 C	1-6 区	261	須恵器
杯 C	1-7 区 SD36	241	ケズリ, ミガキ。酸化色。
土師器杯 (畿内系)	1-7 区 4	416	橙色・硬質・長石極細粒。口唇部沈線, 内外とも暗文やミガキはなし。
土師器甕	1-6 区	469	雲母 (か) 粒含。搬入品。
	1-3A 区集中 2	65	短口縁をヨコテ。長石, 雲母微細粒。古代後期。河内型。
	1-3A 区包	277	短口縁をヨコテ, 端面に沈線。体部外面横ケズリ。雲母片, 石英粒, フォット大粒少量。河内方面産か。
	1-3A 区	73	短口縁をヨコテ, 端面に沈線。精土に雲母微細片。河内方面産か。

※ 編年や年代観は表 5 参照。

表 6 抽出遺物資料 (古代)

9 世紀に入ると施釉陶器や黒色土器の搬入が始まり, 近江産緑釉陶器の段階では県下有数の出土量となる。施釉陶器については「上ノ村遺跡 I」第 VII 章や 1-3, 1-7 区包含層等にまとまった報告がある。楠葉型黒色土器 B 類は N・S 区だけで 11 点 (片) を数え, 県下最多級である。次章 454・455 を例とする内黒の黒色土器甕は畿内産で 9 世紀のものであるが, 同品が川上側の高岡地区から西へ向かう道沿いの西鴨地遺跡で出土しており, 経路を推測させる。このように本遺跡では, 搬入品の様相が 9 世紀から変化し始める。11 世紀にも京都周辺製品が多数搬入されており, 中世前期の状況を準備したのと考えられる。

## 2. 中世

本県や四国における中・広域流通品各種の分布については原則的に池澤 (池澤 2010), 搬入品の型式や年代については注 1 に拠り, 個々の註記は省略する。

### (1) SX1 出土遺物

1-2 区出土の中世遺物中で最も充実した一括性資料である。瓦器碗を中心に記す。前章のとおり属性の斉一性は高く, 和泉型の森島Ⅲ-2 期頃, 12 世紀末～13 世紀初頭に位置付けることができる。少数であるが他の搬入品もあり, 当遺跡における搬入品急増期の開始を告げる資料群である。

南四国では, 表面の「焦し」が微弱で酸化色を呈する瓦器が散見され, 「瓦器」の定義を再考させるほどのものもあるが, SX1 資料は畿内等の資料と比較して原則的に違和感がない。上流側の拠点地域である高岡地区では, 前者の資料が少なからず出土しており, 当地域の瓦器の流通や分布に関する検討課題となる。

### (2) 瓦器

当遺跡では上記の時期以降も瓦器が搬入され, 調査第 3 地点では和泉型Ⅳ-2 期以降のものが主体である。該期以降の瓦器碗は出土遺跡が限定的になり, 量も総じて減少することが四国全域で認められる。

瓦器碗の属性についてみると, SX1 をはじめとするⅢ-2 期相当碗の暗文は平行線暗文が主体とみられる。一方, 第 3 地点等で出土しているⅣ期のものは, 見込み部分から渦巻状に体部へつながるものが主となる。またこれらの瓦器群には, 表に例示したごとく, 無高台にもかかわらず大径で

皿又は杯のような形態のものや、小型の皿では口縁部が屈曲して立上がり、形態が土師質土器小皿と大差がないものが一定数含まれている。該期の瓦器皿は各区で未報告の破片等も少なからずあり、このような瓦器皿の多数出土自体も特殊である。以上、既知の畿内系瓦器の範疇では理解できない瓦器の産地に関する調査・分析が待たれる。

### (3)東播系須恵器

Ⅱ期3段階以降の捏鉢が全域的に出土している中で、3-3区包含層及び6地点トレンチではⅢ期後半のものが出土しており、14世紀後葉～15世紀前葉に位置付けられる。確認数は僅かで、「流通」か否かは不明である。使用による摩滅の有無を確認できるものでは、摩滅は認められなかった。

東播系須恵器鉢は、南四国でⅡ期3段階に数的ピークを迎え、Ⅲ期2段階（14世紀前葉）より出土遺跡数、数量ともに急減する。既述の瓦器搬入の推移と一致した事象と理解できる。

甕は土佐全域には普及していない中で、仁淀川下流域では数は多くないが一定分布している。当遺跡では県下随一の数が出土しており、特徴の1つである。

### (4)その他の搬入品

#### ①紀伊型土師器釜

全片を数えておらず、表7でも報告数を網羅していないが、近年認識されはじめた南四国の中でも突出して多いことに相違はない。対象区の各所で出土しており、遺物整理時の所見でも数十個体は下らない。当遺跡以外ではごく限られた遺跡で、且つ単体出土例のみであることから汎南四国的な流通品とすることはできない一方、当遺跡に限って一定普及している原因を考える必要がある。1-5区P30では白磁碗（太宰府Ⅷ類）、瓦器、青磁と相伴しており、破片中心だが年代を捉える資料の1つとなる。

#### ②東海産製品

常滑焼甕が対象区全域的に出土しており、時期は6型式前後に集中している。常滑焼は四国では太平洋側に多いことがわかっており、6型式以降甕のみが普及する。当遺跡の様相も齟齬はないが、3型式の存在が留意される。3型式の甕の出土例は、四国では流通拠点や枢要な居館・寺社といった特殊な遺跡に限られている。

高台付きとみられる鉢又は皿や常滑播鉢は本県では初確認で、非流通品である。

#### ③吉備系土師器碗

表7の1点を確認した。本器種末期の型式で、山本Ⅴ期、13世紀末～14世紀初葉に位置付けることができる（山本1992）。県下唯一の本器種確認例である。

### (5)小結

当遺跡では12世紀末～13世紀初葉から瓦器、東播系須恵器、貿易陶磁器といった搬入品が急増するが、これは汎四国的な趨勢と一致している。一方で県下での比較における特徴として、他遺跡で出土或は普及していないことから「非流通品」とすべき搬入品が出土すること、諸遺跡で画期がみられる14世紀代に当遺跡では明らかな断絶がないこと、紀伊系土釜の多さ、他例のない器形の東海製品が出土していることをあげることができる。

器種等	出土位置	図No.	特徴 時期
瓦器椀(楠葉型)	3-3区5層	288	沈線。摩耗。Ⅱ期後半頃(12C.後半)か。
瓦器椀	S区V層	669	見込み渦巻暗文。
	3-2区4層	278	皿状。見込み平行暗文。
	3-3区	300	皿状。
	3-3区	100	大径で皿状。
	3-3区5層	331	全体に灰色だが口縁内面は暗灰で焼成良。体部内面に2条の細いミガキ, 299も同類。非畿内産。
瓦器皿	3-3区等	-	屈曲。土師質皿酷似形態。
紀伊型土釜	1-2区 P189・454等	195, 196, 337, 338, 445, 446	片岩状や雲母細片含。
	1-3区拡P30	13	
	1-3区下SD1	168	2点あり。
	1-3区拡包	287	
	1-5区P30	35	白磁Ⅷ類等共伴。
	1-5区包1	238, 239, 241	
	1-7区SD39	62	
	1-7区包2層	458, 459, 460	
	3-2区	48	
	3-1区SD20	288	
	3-5区	46	
	3-3区包	336	
	S区SD32	391	
	S区	450, 453, 514, 768, 1176, 1180, 1244	
瓦質土器羽釜	3-1区SK25	166	紀伊型・中世後期か。
常滑甕	1-5区包1	258	3型式頃。
	1-2区	331	3型式頃。
常滑鉢	1-5区P915	137	
鉢	3-1区	699	東海産。
鉢	3-3区包	277, 304	東海産。使用による摩耗なし。
鉢	3-1区-2 SD20上層	457	高台付。5～6a型で13C.か。
鉢	1-7区包2	456	同上か。
筒型香炉	1-3区拡P245	181	古瀬戸中期Ⅳ～後期Ⅲか。
吉備系土師器椀	S区SD4 (付図2区画7)	231	山本Ⅴ期。
東播系捏鉢	3-3区包	276	Ⅲ-3段階以降。使用による摩耗なし。
龜山系甕	1-2区	460, 461	
	1-7区包	463	底立上り部。
	3-2区4層	323	

※ 編年や年代観は当章本文及び註1。  
遺物のNo.は各報告書(表1)。

表7 抽出搬入品(中世)

## B. 1-2 区の建物跡等について

前章で掘立柱建物の復元についてふれた。中世前期についても、遺構分布や遺物から建物或は何らかの施設が想定される。同期に属する SX1 の東辺方位は後述する中世全般の企画方位と同調しており、該期の建物等について検討する場合も指標となる。中世前期の遺構や遺物集中は、調査区南部では中世後期の遺構よりも分布範囲は広い。

中世の想定建物跡を付図 1 に示したが、前章のとおり中世前期～後期のピット群は混在している。根拠とした個々のピットや出土遺物についてみると、北部の P59 や P67 をその一部とする建物を考えた場合、柱穴は中世の諸例の中で一定の規模を持っている。当想定建物跡(群)を SB121 とする。

調査区南部では P214, P239 が存在する。後者からは、当遺跡で貿易陶磁器が減少する時期の青花が出土している。当地点の建物を SB125 とする。ピットの分布から建替えや重複が考えられる。また、当地点の北西にも埋土および規模が近似する柱穴群があり、SB123 を想定する。

## C. 上ノ村遺跡における古代・中世遺構の概要

今回の工事に伴う調査は、序章のごとく広範囲に及ぶとともに、多くの調査区で複数の遺構検出面が存在し、遺構・遺物の時代も多岐にわたる。しかし、表 1 からわかるように各区の遺構検出面は一様ではない。

本来は検出面、出土遺物、遺構埋土等を検討し、時期毎に整理して提示すべきであるが、遺構がピットと溝跡主体ということもあって実際は困難である。以下説明を加える付図 3～6 は、遺構が集中する 1・3 地点を中心に、出土遺物、各区各検出面の遺構の時期、切り合い関係、遺構方位を検討して可能な限り仕分けを行ったものであるが、混在部分は残っていると考えなければならない。

### 1. 中世(付図4・5及び3)

#### (1) 敷地区画

敷地区画を示すとみられる溝跡や、ピット群が検出された。ピット群は各区報告のとおり、詳細に検討しても掘立柱建物跡の特定と時期比定が難しいものが多い一方、分布状況から建物跡の存在自体は想定され、建替時の企画性の維持や回数、柱穴規模から各々の性格を推測することができる。以下、各区画について述べる。

区画 1 は、新居城跡のある丘陵裾にあり、幅 1.0～2.6m、残深 0.84～1.36m の薬研掘・SD1 で区画されている。報告される遺物は中世前期中心だが、14 世紀中葉～15 世紀の瓦質鍋が含まれる。

区画 2a・2b をあわせた東西幅は、西側の溝跡が 2 条あるため 32 m 又は 35m である。2b の南北幅 SD17-15 間は 15～17 m、SD17-16 間は 22m を測る。SD17-16 間は区画 4, 5 の 2 倍に相当する。2b の東と南側の溝は、残深 0.25～0.3m だが幅は 2.4～3.9m を測る。出土した播磨系や河内型の土釜が廃絶時期の指標となり、15 世紀代に埋没したとみられる。また、北縁東西溝跡 SD17 を切る井戸跡 SE1 からは端反り白磁皿(E 類)が出土している。以上より、当区画の幅広の溝の時期は、他の方位軸が数度～12°西へ振る遺構群より後出する可能性がある。また当区画ではピットが集中する部分があり、規模も径 40～60cm、深さ 30～50cm のものが一定数検出された。出土遺物等より、それらの中には中世前期と後期のものが混在するとみられる。



区画	方位	計測遺構	区	備考
区画 2a	0°	SD11	1-5 区	区画溝は 15C. 没
区画 2b	8°	SD 20・21	NE	
区画 3	3°	区画溝	S	
区画 4	5°	区画溝	S	
区画 5・6	3°	区画溝	S	
区画 7	8°	SB3	S	
区画 8	8~12°-E	SD39	1-7 区	紀伊土釜
区画 9	12°	中 SD13	1-6 区	(緑釉陶器)
-	3°-E	1-7 区 SD34・ 1-6 区中 SD18	1-6~7 区	中世後期
区画 11	2°-E	SD11・12	1-1 区	播磨土釜

※方位で角度のみのものは、南北又は東西正方位に対する時計逆方向への角度。-E はその逆。

表 8 中世区画 軸方位一覧

区画 11 は、区画 2 の東隣にあり、幅 1.8m、残深 0.23m の溝に囲まれている。溝は、東辺の開口部脇が最大で、幅 3.8m、残深 0.3m となる。西辺が不明で、南・北辺には屈曲がみられるため区画規模が不明確だが、南北 34m 余と推定できる。ピット分布や周溝の開口部、小溝の位置から、内部を南北に分割して考えることができる。ピットは北半で密集しており、大型のものは径 50～60 余 cm、深さ 50cm 前後を測る。出土遺物は瓦器、河内型瓦質羽釜、播磨系土釜、青磁稜花皿等で、時期幅がある。区画溝の出土遺物は播磨系土釜の他、備前Ⅲ期鉢、常滑甕片等である。

区画 4、5 は東西幅 10.1m、南北は各々 10.7m、11.6m を測る。区画 3～6 は同様の区画が並んでいる可能性がある。溝跡の先端は、水溜状に膨らむものや屈曲しているものがある。ピットは概して小規模なものが中心で密度も高くないが、各々に建物跡を想定できる。区画 5 は入口付近に何らかの施設があり、北西隅の開口部から入る場合、折れを持つ構造となる。区画 7 では北側の溝跡切れ目がくい違っている。同区画はピットの密度がやや高い。後期の遺物が出土したピットがある。

区画 8・9 でも建物跡を想定できる。北側の L 字形溝 SD39 からは中世前期とみられる紀伊型土釜が出土している。

区画 10 は、区画溝は確認できないが同様に呼称する。本書 1-2 区北端と、東接する NW 区に一定規模のピット群が集中する部分があり、同時期に建物が存在したとすれば L 字形配置となる。この部分のピットは径 20 数～40cm、深さ 20 数～40cm と比較的しっかりしたものが多い。またその内側に遺構の検出されない空間があり、以上の仮定が正しければ一定の機能や格を持つ屋敷跡となる。なお当区画の南側には、帯状に遺構の検出されない部分がある。区画 2 の南側では南へ向かって基盤が下がっており、区画 3～7 との間にこのような帯が存在することになる。1-2 区 SD1 や S 区北縁の東西溝跡はそれと関連する可能性がある。

1 地点の溝跡群の方位には統一性があり、それらが示す N-3°～12°-W を該期の企画方位とみることができる。本書の SD1 や SX1 も同調している。

「上面」検出遺構に属する 1-7 区 SD34・1-6 区中 SD18・1-1 区 SD1 が形成する区画は南北 43m、東西 37m 或は 64m 以上で、半町規模のプランと先行期よりも統一的な土地企画が看取さ

れる。溝跡は幅約 2m, 残深 0.4 ~ 0.6m の平底で, 溝自体による防御性は認められない。1-7 区 SD34 に直交する SD20・31 ~ 35 は 15 世紀代の瓦質土器や備前焼, SD34・中 SD18 も瓦質鍋や備前鉢, 青磁等 15 世紀までの遺物を中心に出土しているが, 後者の SD34・中 SD18 が前者の SD20・31 ~ 35 を切っている(2)。

川側の第 3 地点の区画溝は, 報告によれば検出標高の小差や重複部分があって全体を時期別に整理し難いが, 当地区に区画溝を繰返し掘削して維持される区画や, 遺構が希薄な空間があることは認識される。現堤防際の地点 A とした場所で検出したピットや土坑は近世に属するものが多く, 中世では広場であった可能性がある。同地点は溝で方形に囲まれ, 南に開口部がある。この開口部から屈曲して南へ延びる溝跡があり, 道路跡とすると, 幅 5.6 ~ 8.0m を測る。このような立地と空間を有する地点 A には, 荷揚げ場等, 船着き場背後の機能を考えることができる。

第 6 地点の調査トレンチでは東播系須恵器捏鉢が出土しており, 14 世紀後 ~ 15 世紀前葉に位置付けられる。同地点の出土遺物は少ない中で, 常滑甕とみられる破片や白磁皿もある。

第 2 地点では, 付図 5 のように溝跡やピット群が検出された。時期は 15 世紀代を中心とする。溝跡群はピット群との時期差に注意を要するが, 配置や形状から道路に関する可能性がある。ピット群も建物プランの特定は難しいが, 掘立柱建物の存在は確実である。ピット群が特に集中する部分が数ヶ所認められる中で, L 字形の溝を伴うものがある。その他特別な建物配置等は認められないが, 軸方位はほぼ揃う。土坑群の方位や位置にも企画性があり, 配置には建物との関連が認められる。遺物では, 複数の硯と鍛冶滓が注目される。職人や識字層の存在が想定され, 当遺跡のような津機能を持つ該期の集落での活動の一端がうかがえる。伝統的に比較的枢要な様相がみられる第 1 地点とは建物の企画性や継続性, 規模に較差があり, 互いに機能の異なる区域であった可能性がある。

以上, これまでの調査成果から中世の概要をみてきたが, 特に建物群の年代観については既述のとおり詳細に分別し難い面がある。上記の中に 12 世紀末葉 ~ 13 世紀, 13 世紀後葉 ~ 14 世紀前葉, 15 世紀前後の遺構が一定混在していることは認識できる。建物跡ではないが, 本書の SX1 は最前者の事例である。

## (2) 区画群の変遷について

年代観等に関する既述したような条件の中で, 変遷について考える。

同位置での度重なる建替えと比較的大型のピットがみられる区画 10 は, 古代において対象区内で最も中心的な建物配置がみられる地点と重なっており, そのような主要区域としての位置付けが何らかの形で継承されていた可能性がある。区画 10 の西部に既述した SX1 がある他, 付図 1 のごとく中世前期に位置付けられるピットも少なからず存在する。東接する区画 2 も一定規模のピットが集中しており, 対象区の中ではこの両区画付近が該期の中心の 1 つと認識することができよう。

14 世紀代には, 川側の第 3 地点で瓦器や東播系須恵器等の搬入品がまとまって出土する現象がみられる。その後, 区画 2・11 で幅の広い区画溝が掘削され, 薬研掘り大溝による区画 1 も出現したとみられる。

区画 2・11 にみられる中・大型ピットの集中は, 建替えを重ねて建物が維持されたことを示し, 区画規模と併せて一定の屋敷地が想定される。また, 区画 3 ~ 8 を含めて計画的な敷地割りが認められ, 一部で出入口も指摘できる。区画 2・11 の大溝や区画 1 の「堀」の埋没は 15 世紀で, 特に区画 1 の薬研掘り大溝は一気に埋められたことが看取される。第 2 地点の遺構群は 15 世紀中心で,

該期に集落域が下流側の川沿いへも展開しただけでなく、建物等の企画性、継続性、規模、及び機能において第1地点とは異なる区域を想定した。

これらに後続して出現する1-7区SD34・1-6区中SD18・1-1区SD1・同SD4には、それ以前の区画割や規模に拘束されない半町規模の企画が看取される。また、方位や区画位置も調査前の地表諸区画に近い部分があり、これらの出現が当地の土地利用企画における画期となった可能性がある。また、山城部分（第6地点）の詳細は解明できていないが、既述のとおり14世紀後葉～15世紀前葉の遺物がみられた。

### (3) 企画方位

中世の遺構配置にみられる企画性について既述したが、全体的な企画方位に関してまとめと検討を加える。

方位には、表8のとおり西へ8～12°の群と0～3°の群がある。時期差を想起させ、後者に15世紀埋没のものが含まれるが、これを該期の斉一的な企画方位、前者の8～12°を先行する企画方位とするにはそれに合致しない遺構もあって、確定はできない。しかし、そのような傾向があるとすれば、古代前期のN-18～25°-Wから中世前期のN-8～12°-W、中世後期の正方位に近い方位へと、企画方位が順に変化していることになる。「上面」で検出された溝跡群からは、土地区画上の画期が想定されたが、これらは僅かながら正方位より東振する。

## 2. 古代(付図6)

城山の南西裾部方向から調査第1地点を大きく斜行し、さらに調査区外へ続く一条の溝跡1-6区下SD31・1-7区SD41・1-5区下SD22の東西で様相が異なる。同溝跡を境に古代西区、古代東区とする。

古代西区では2×3間等の建物が3棟以上確認できるが、これらは柱穴掘形が方形で、長辺0.5～1.1mを測る。NW区のSB5やSB6の地点では、各々建物の位置と方位を踏襲して建替えたことを示

方位	遺構	区	備考
17°	SB5	NW区	
19°	SB6	NW区	
20°	SB1	1-6区	
19°	下SD08	1-6区	
18～24°	下面SD群	1-2区	
13°	SD13	1-5区	
46°	SD13A	1-5区	
44°	SD36	1-7区	古代初期掘削か
4°	SB01	1-7区	
6°	SB02	1-7区	
8°	下SB2	1-3A区	
12°	SB04	1-7区	
5°	SB6002	1-6区	
3°-E	下SB1	1-3A区	9世紀

※角度表記は表8に準ずる。

表9 古代遺構 軸方位一覧

す柱穴の集中や配置がみられる。さらに、他の建物や溝と軸線が一致する等、関連性が看取される。なお、1-2区北部のSD28上層で須恵器大甕数個体及び特大甕頸～口縁部片等を検出した遺物集中は、一定量の液体或は穀物等の保管を示唆する。下ノ坪遺跡に類例があり、大型建物群の背後側で検出している。

西区の全体的な特徴は、諸遺構の軸方位が建物跡、溝跡を問わず整然としていて逸脱したものがみられないことであり、敷地利用に関して広範囲に及ぶ企画性があったことを示している。

古代東区では、9世紀代の搬入黒色土器杯が出土したSB9を除いて2×2間の建物のみが散在する。これらの掘立柱建物は、柱穴も西区のそれより小さく、同位置での建替えもみられない。また、軸方位も統一されてはいないことから、少なくとも長期にわたる企画方位の堅持は認められない。

以上から、東西両地区が同一時期であった場合、各々の機能差があったと考えられ、川側の東区は2×2間の掘立柱建物が散在する区域で総柱倉庫もある。西区はそれより大型の建物が計画的に配置される。大甕も数個以上保有しており、管理や居住・滞在に関する区域と想定できる。しかし、既述のように東区の小型建物群をはじめとして詳細な時期を決定し難いものがあり、上記のような対比が同時期の区域設定によるものか、若干の時期差によるものかに不明な部分が残る。

溝跡群については、幅や深さに目立ったものはないが、このように明確で長い古代前期の溝跡は県下で他例をみない。また、横・縦の溝跡が多数平行或は交差する状態も同様である。

以上の遺構群の年代については、溝やピットからの出土遺物が十分とはいえないことから、詳細な時期差の有無を決定できるものは少ない。手掛りとなる事柄を以下にあげる。1-7区SK32は土佐古代I期初～前半に該当し、8世紀初～前半、同SD36も掘削時期は同時期の可能性がある。西区の方形柱穴からなる掘立柱建物跡群は総じてI-5～7期で、8世紀後半～9世紀前半とみられる。1-6区下SD8からは8世紀後半の土師器甕や杯のみが出土、同SB1を切る方形小区画溝の一部からは9世紀代の搬入黒色土器杯（内黒）が出土しており、時期差を示している可能性がある。1-3区では9世紀頃のSB1の他、緑釉陶器や表6に示した9世紀後半～10世紀代の畿内南部系の土師器甕が複数出土している。以上から、搬入品の器種や、遺構の展開する区域について時期的な変遷を追うことができる。

#### 註

- 1) 中世の搬入品の編年や年代観は、原則的に『概説 中世の土器・陶磁器』（中世土器研究会1995）に準拠。
- 2) 調査担当者は、後者が15世紀後葉～16世紀前葉に属する所見を持っている。

#### 参考文献

- 『下ノ坪遺跡Ⅱ』野市町教育委員会 1998  
『光永・岡ノ下遺跡』高知県文化財団埋蔵文化財センター 2000  
『西分増井遺跡Ⅰ』高知県文化財団埋蔵文化財センター 2003  
山本悦世「吉備南部における古代末～中世の土師器の展開」『中近世土器の基礎研究Ⅷ』日本中世土器研究会 1992  
池澤俊幸「土佐からみた平安時代の土器」『中近世土器の基礎研究XV』日本中世土器研究会 2000  
同上「四国における古代後期から中世の土器様相」『中近世土器の基礎研究XⅧ』日本中世土器研究会 2004  
同上「南四国に搬入された中世土器・陶磁器と海運」『中世土佐の世界と一条氏』高志書院 2010

# 第V章 附編

## A. 他区出土の遺物

他区で出土している未報告遺物より、必要なものを抽出して掲載する。

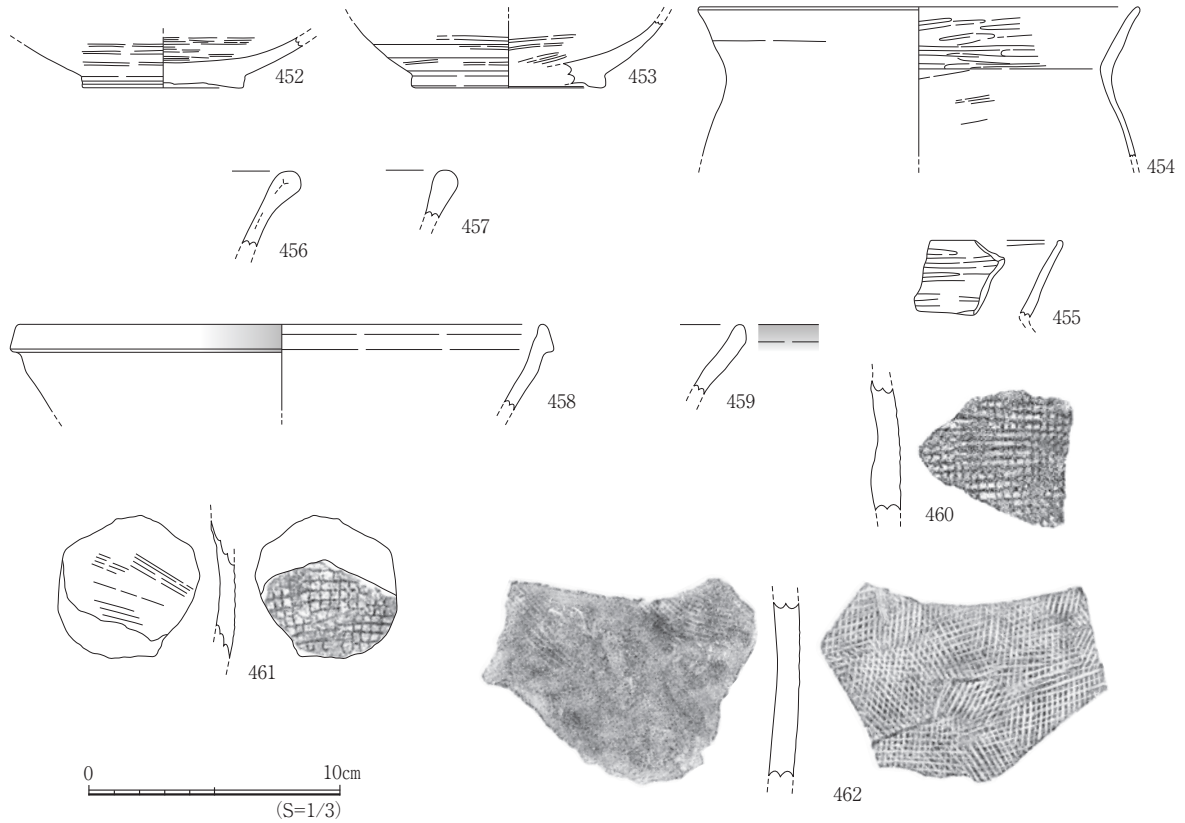


図 41 1-6・7 区出土遺物

No. 図版	区 層位等	種類	法量 (cm)			色調 外/内/断面	手法, 材, 焼成等	備考
			口径	器高	底径			
452	1-7 ホ2	緑釉陶器			6.4	内・淡緑黄 断・淡黄褐	外底蛇目状, 削出し高台。全面薄い緑釉。内外ミガキ。軟質。	京都系
453	1-7 ホ2	緑釉陶器 碗			7.7	内・杓ノグ灰 断・灰	外下部回転ズリ。削出し高台。全釉。ミガキ。須恵質。	京都系
454	1-7 ホ2	黒色土器 甕	17.3			内・黒 外・灰褐	内黒。口縁内面丁寧ミガキ。頸下ノ後ガ。薄手。外は2次熱により荒れ。雲母, 石英, 赤レキの各細粒。砂粒の母岩は一部片岩の可能性。	搬入品
455	1-6下 SD23-2	黒色土器 甕				内・黒 外・灰褐	内黒。口縁内面丁寧ミガキ。薄手。雲母, 石英, 赤レキの各細粒。	搬入品
456	1-7 ホ2	陶器 鉢				内・薄杓ノグ灰	内外に灰釉。足付きとみられる。	東海系
457	3-1 SD20 上層	陶器 鉢				断・明灰	破片。	東海系
458	1-7 ホ3	須恵器 鉢	20.8			内外・灰		東播系
459	1-7 ホ3	須恵器 鉢				内外・灰	口縁外は暗色帯。	東播系
460	1-7 ホ2	瓦質 甕				外・暗灰 断・灰+灰白	外面格子タタキ。断面サトノイッ状。微細粒。摩。	亀山系
461	1-7 ホ2	土師質 甕			厚 0.75	内・黄褐 外・黄褐	外・ワフル状タタキ。内・ウ。酸化色。花崗岩とみられる風化礫, 赤レキ。	亀山系か
462	1-7 ホ2	土師質 甕			厚 0.9	内・黒褐 外・橙褐~黒	外・格子タタキを多方面に施す。内・粗々又は当具痕。内外とも酸化色と黒色が並存。長石, 石英, 赤レキ細粒。	

表 10 遺物観察表 (附編)

## B. 試掘確認調査

第2地点で検出された近世石積み護岸遺構の延長について確認するため、高知県教育委員会文化財課が試掘調査を実施した。付図4に示した地点で2008年11月に行った調査の結果、川岸部分と石積みの護岸遺構、及び平安後期～中世とされるピット群が図のごとく検出された。詳細は概報に譲るが（平成20年度埋蔵文化財試掘確認調査事業概要報告書 高知県教委2009）、当遺跡において重要な成果であるため、未報告の図版を含めて掲載する。

石積み護岸遺構の明確な時期は不明であるが、石材や規模は第2地点で検出した護岸遺構より明らかに小さく、積み方等も大きく異なる。川側には度重なる河川堆積がみられるが、9層からの瓦器出土が報告されている。

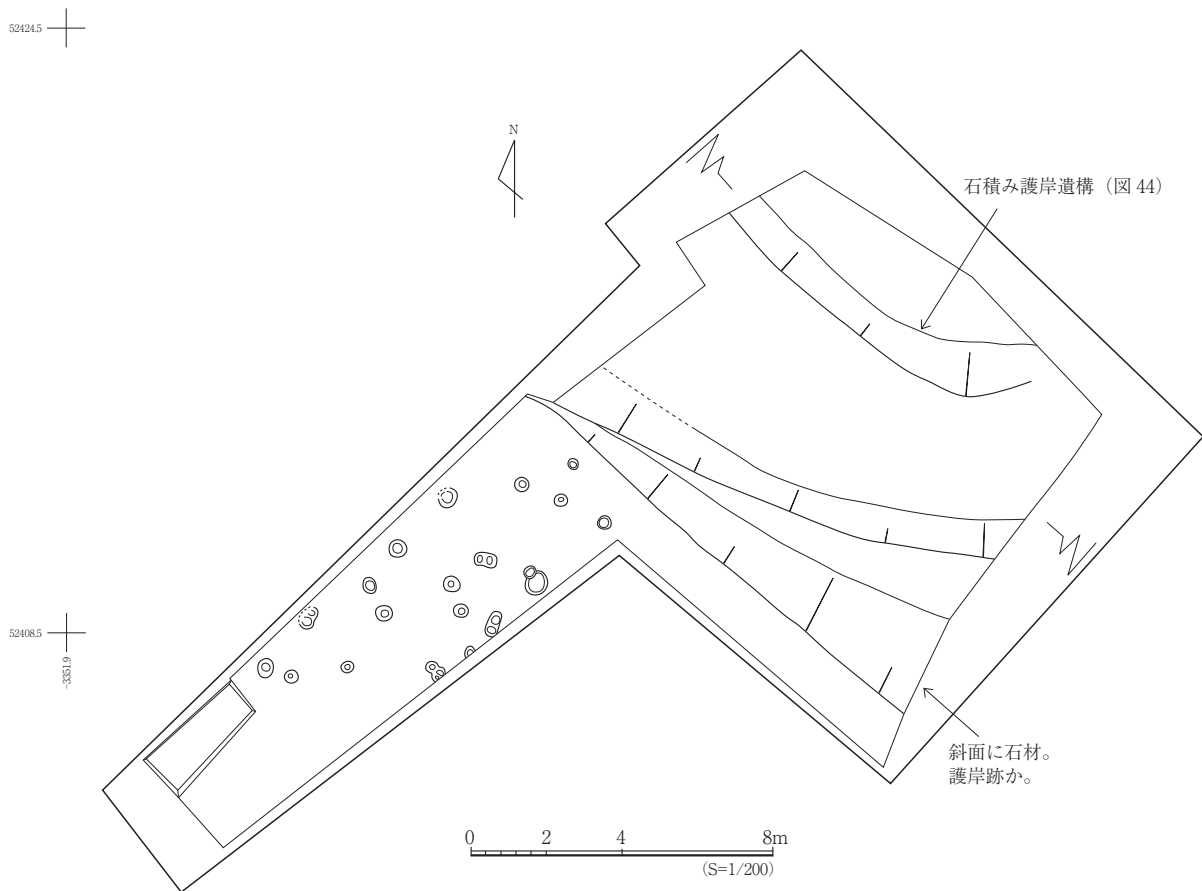


図42 試掘確認調査区平面図

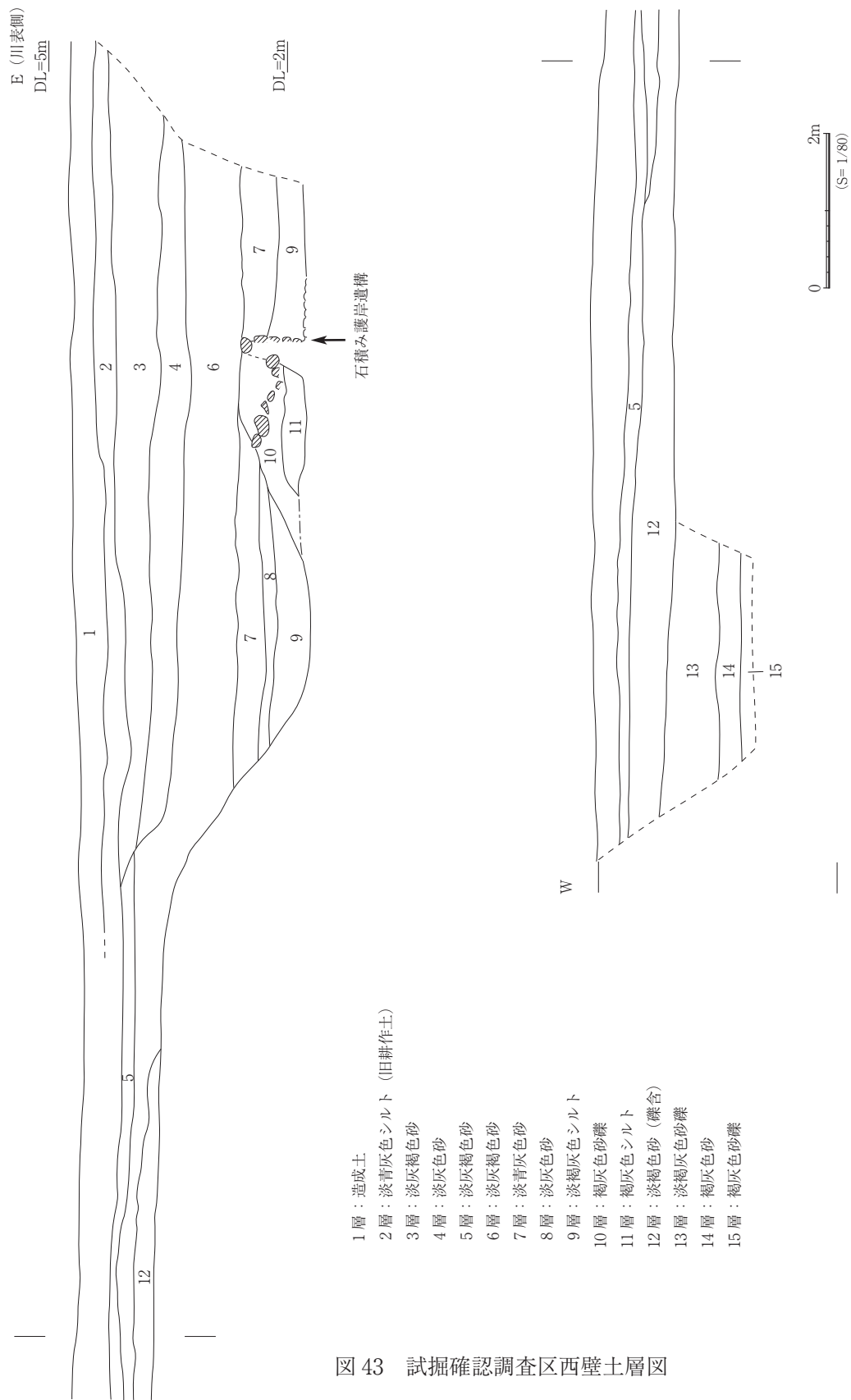


図 43 試掘確認調査区西壁土層図



図 44 石積み護岸遺構





試掘確認区 石積み護岸遺構直上・立面写真



# 写 真 图 版





空撮（東から）



空撮（西から）

図版 2



空撮（南から）



空撮（北から）



上面完掘状態（北から）



上面完掘状態（南から）

図版 4



下面遺構検出状況（北から）



下面完掘状態（北から）





下面完掘状態（南から）



下面完掘状態（南から）

図版 6



下面南区完掘状態（西から）



SX1 遺物出土状況（西から）



SX1 遺物出土状況



SX1 遺物出土状況（東から）

図版 8



SX1 遺物出土状況（東から）



SX1 遺物出土状況（南から）



SX1 遺物出土状況（北から）



SX1 セクション a 遺物出土状況（北から）

図版 10



SX1 セクション a 遺物出土状況（南から）



SX1 セクション b 遺物出土状況（南から）



SX1 セクション b (南から)



P19 セクション (西から)

図版 12



土器集中1 出土状況（西から）



集石2 出土状況（北から）





常滑群出土状況（北から）



常滑 1 出土状況（東から）

図版 14



常滑 2 出土状況（北から）



常滑 3 出土状況（東から）



集石 1 出土状況（東から）



P454 196 出土状況

図版 16



P470 192・191 出土状況（東から）



SK1 セクション（南から）



SK4 掘削状況（北から）



SK5 掘削状況（南から）

図版 18



P214 220 出土状況（西から）



P239 210 出土状況（東から）



土器集中4出土状況（南から）



SK14 遺物出土状況（西から）

図版 20



SK8 遺物出土状況（南から）



SD28 上層土器集中出土状況（南から）





SD28 土器集中出土状況（西から）



SD28 土器集中出土状況（西から）

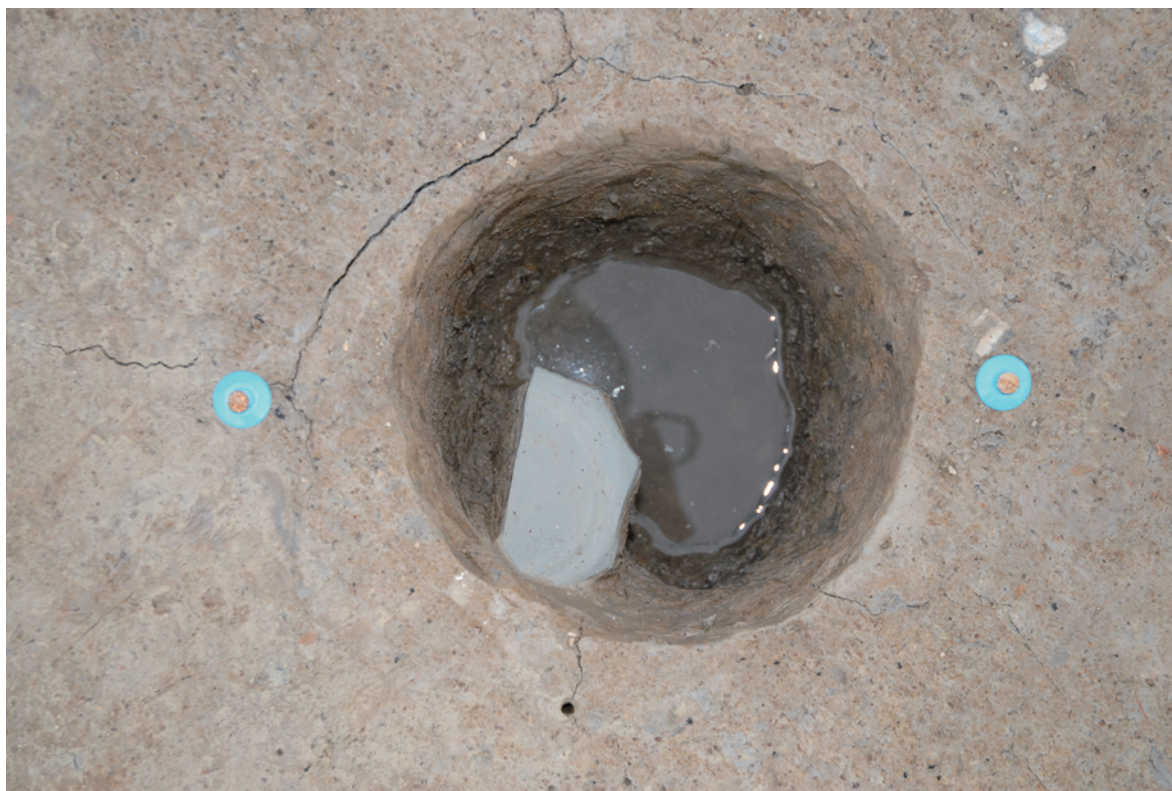
図版 22



SD28 遺物出土状況（東から）



同上



P539 257 出土状况



SD12 240



P352 遺物出土状况

图版 24



352 出土状况



303 出土状况



260 出土状况



271 出土状况



310·353等出土状况



381 出土状况



385 出土状况

图版 26



383 出土状况



417 出土状况



445 出土状况



432 出土状况



395 · 399 · 400 出土状况



325 出土状况



冠水状況（北から）



試掘区 石積み遺構等（下流側から）





試掘区 石積み遺構等（川表側から）



試掘区 石積み遺構（上流から）

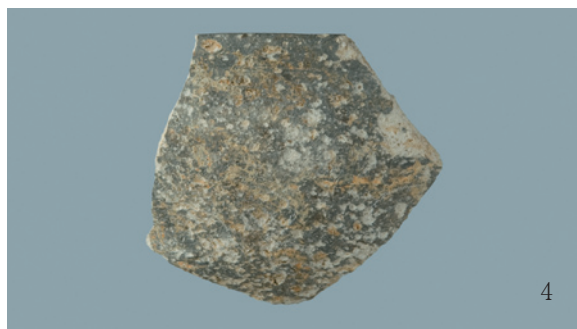
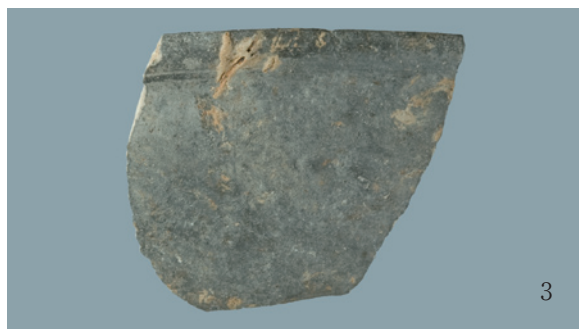
図版 30



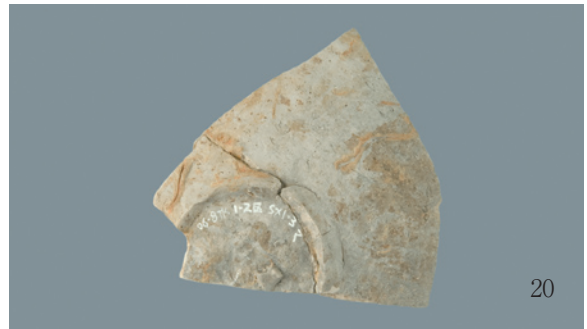
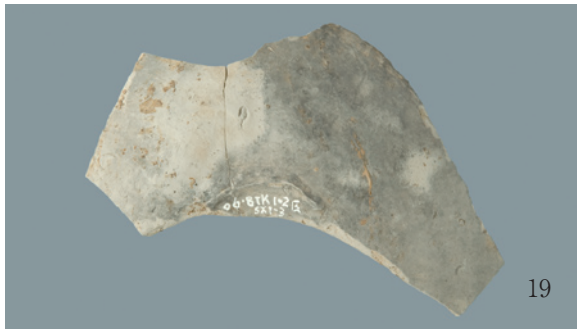
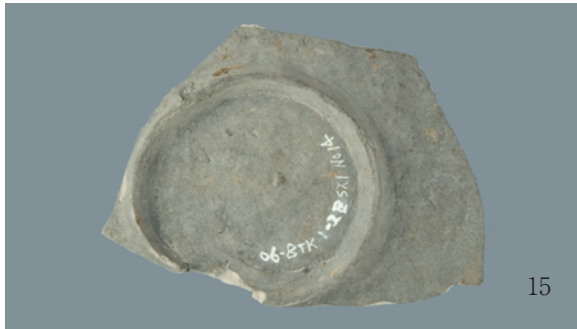
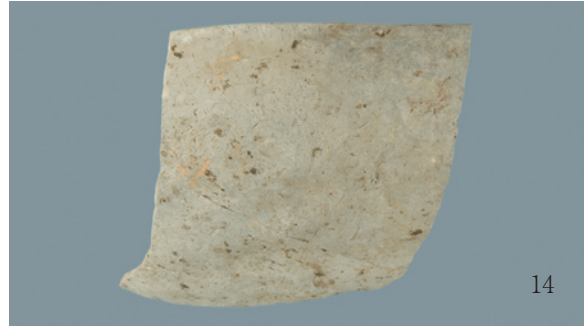
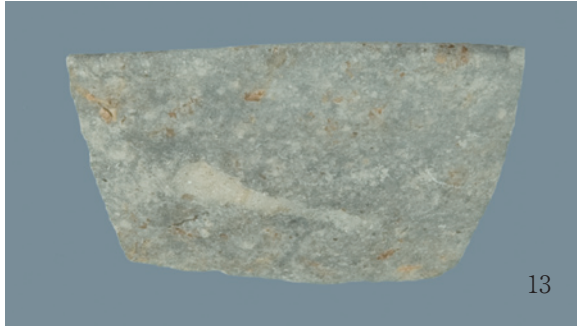
試掘区 石積み遺構セクション

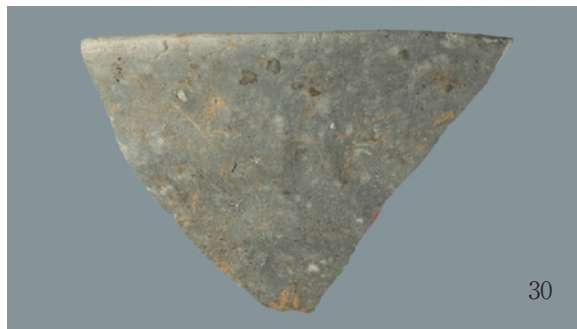
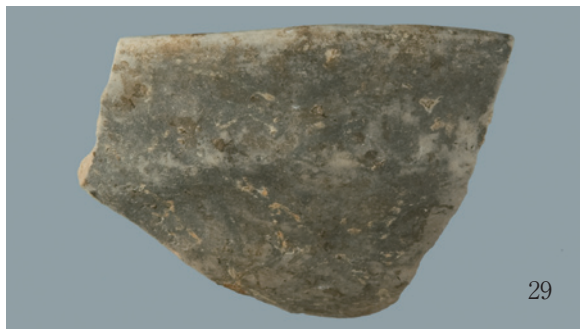


試掘区 北壁セクション

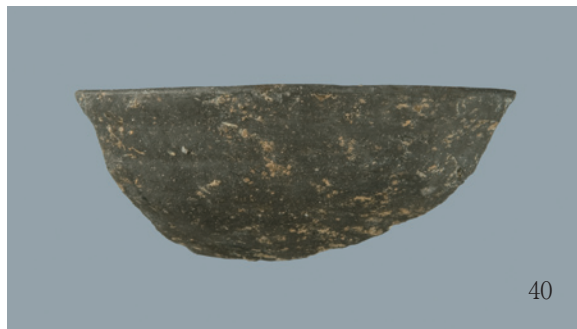
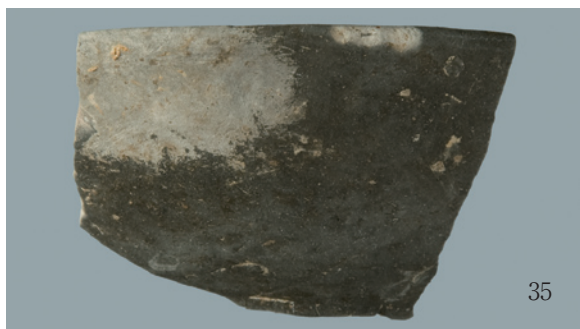
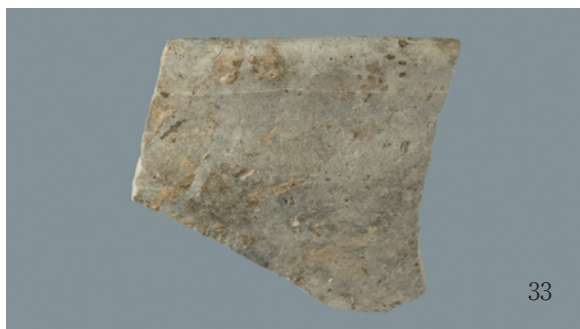
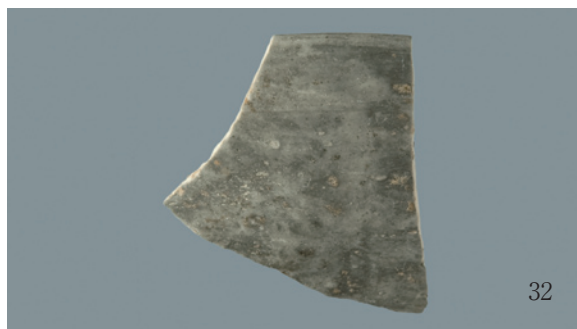
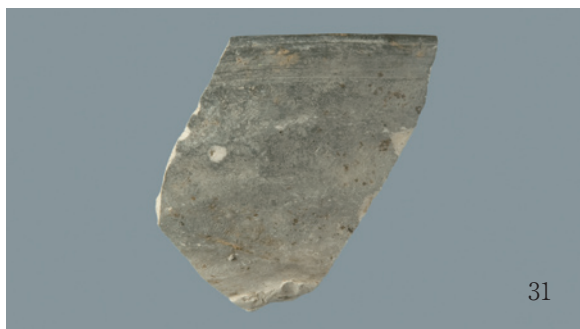


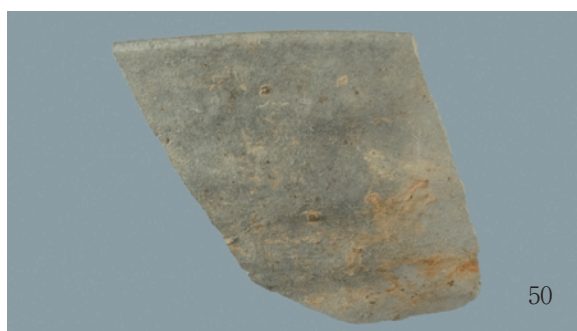
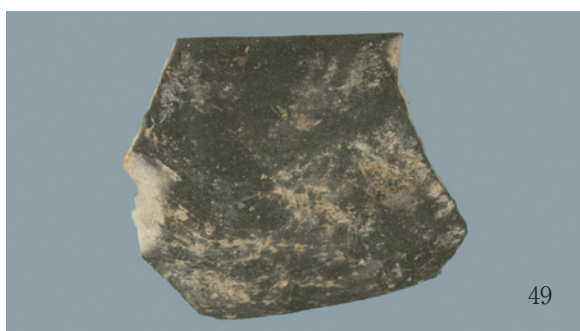
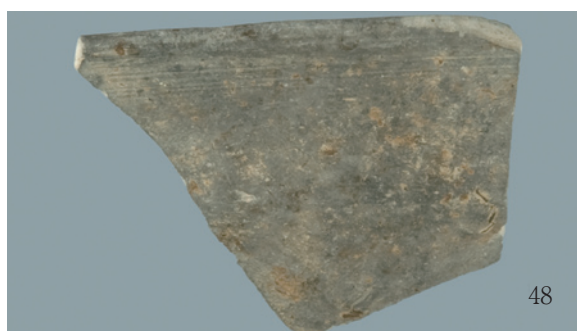
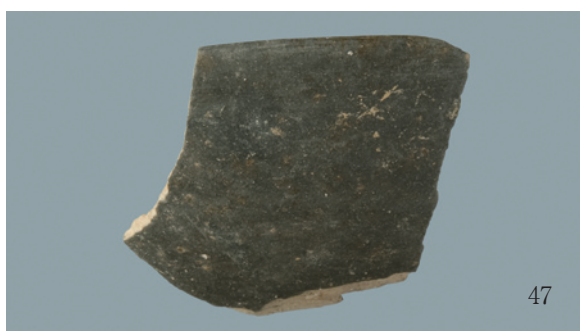
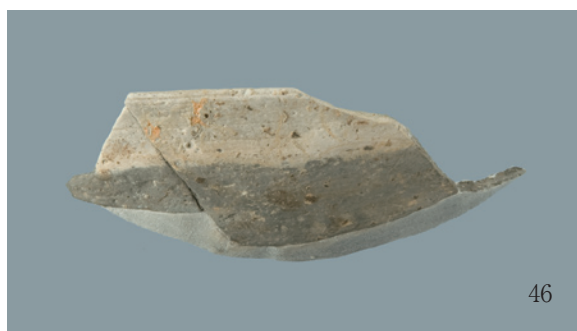
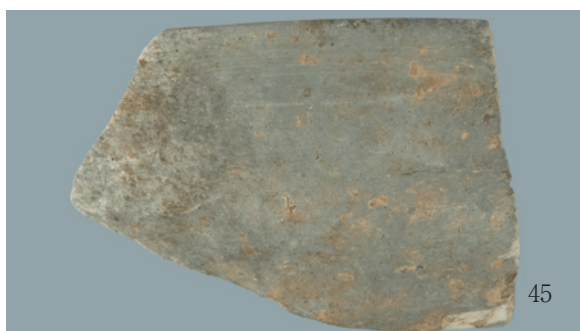
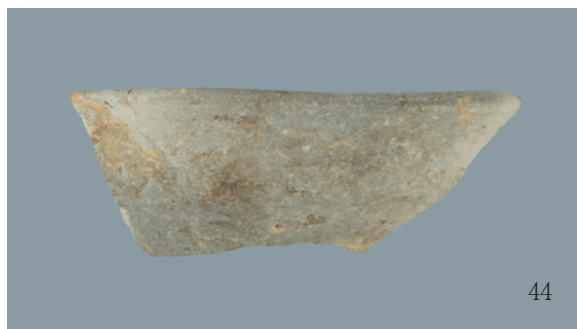
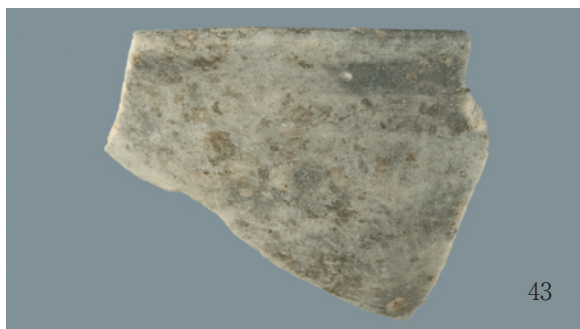
图版 32



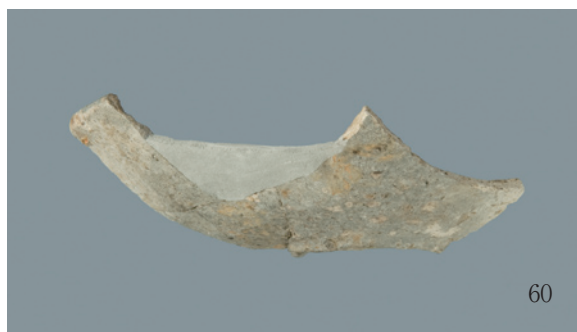
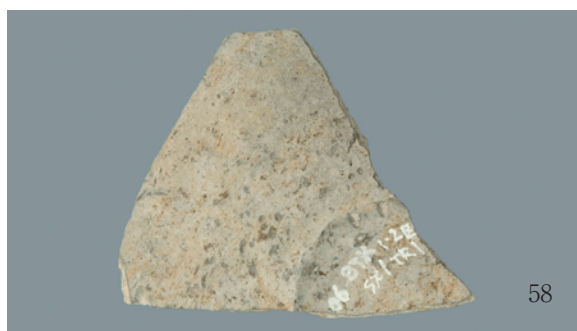
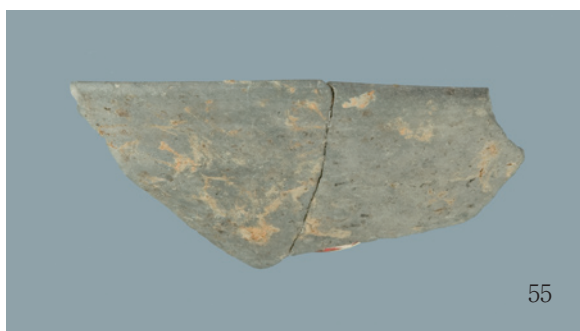
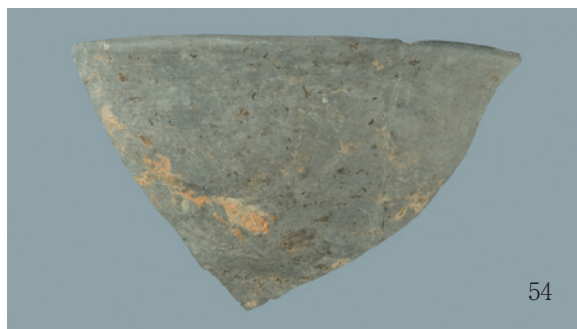


图版 34

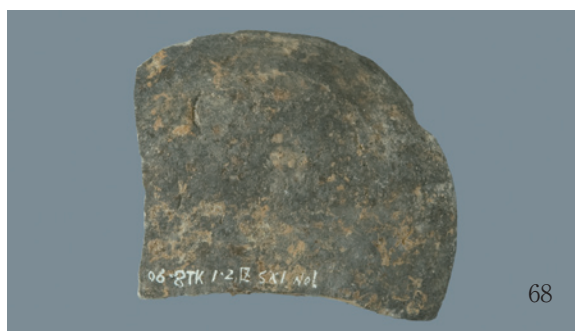




图版 36

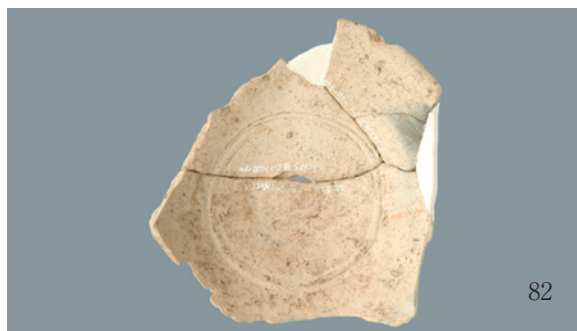






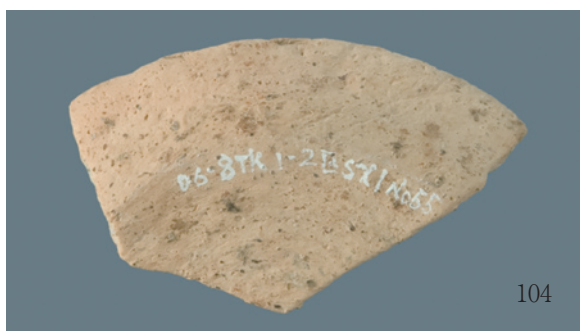
图版 38





图版 40

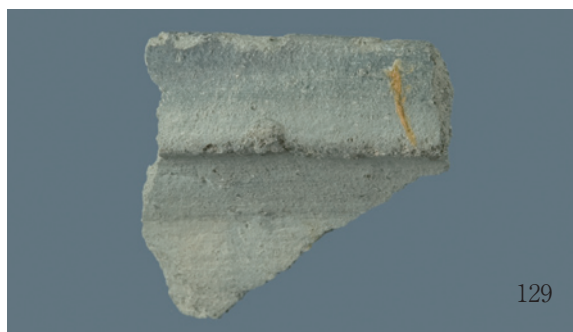
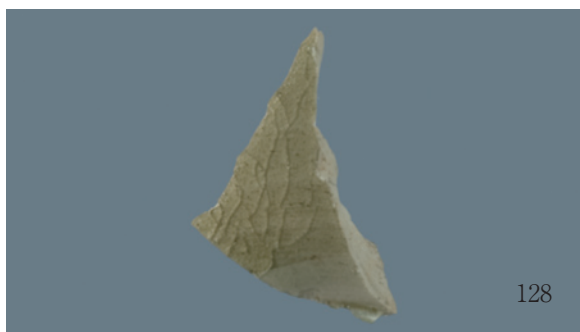
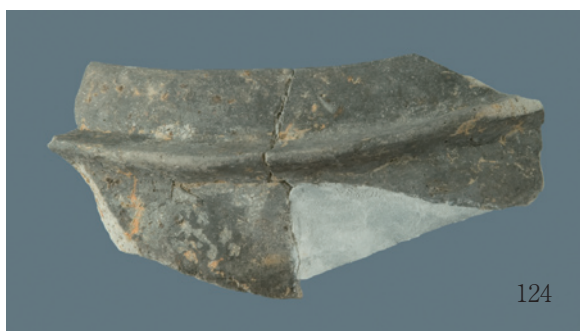
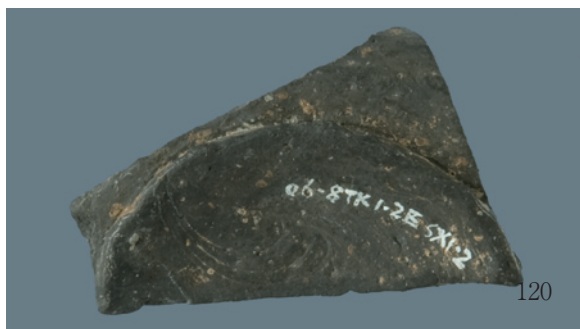




图版 42



SX1



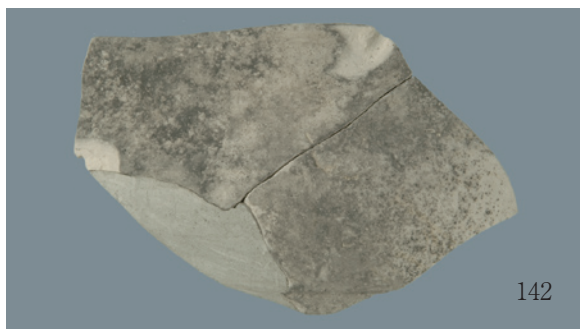
SX1 (120 ~ 127) · SK3 (128) · SK16 (129)

図版 44



SK20 (130) · SD1 (131 ~ 133) · 集中 (134 ~ 139)





SX1 (143) · 集中 (140 ~ 145) · 常滑 (147)

図版 46



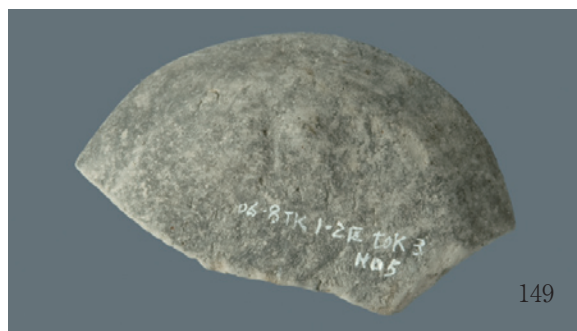
146



148



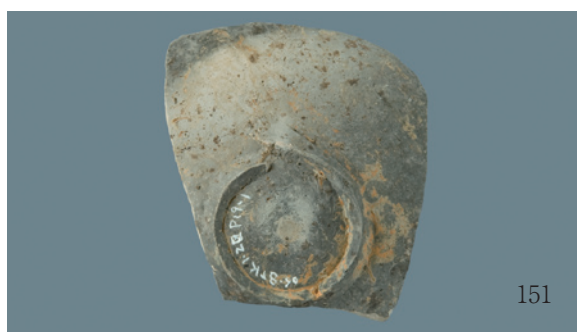
148



149



150

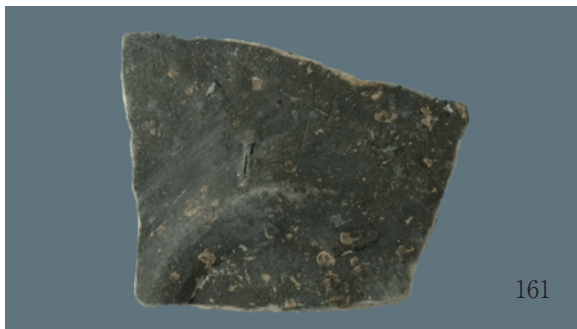
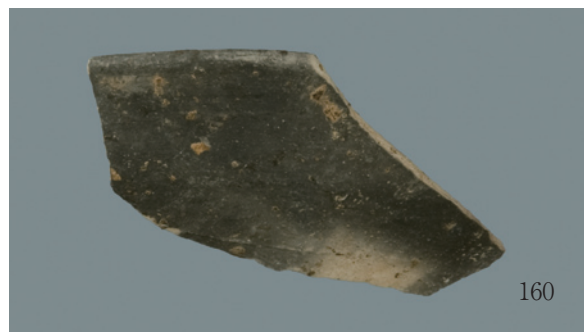
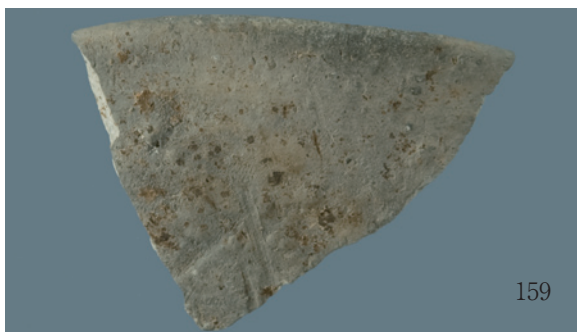
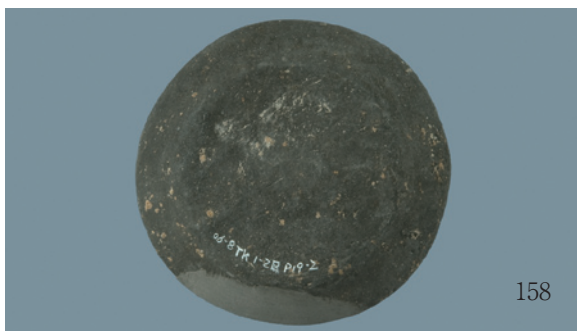
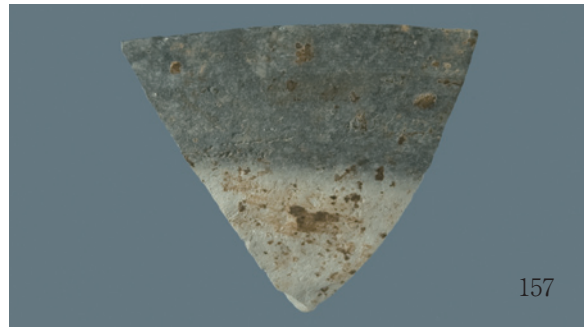
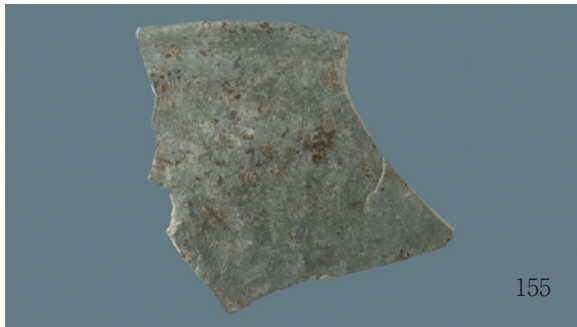
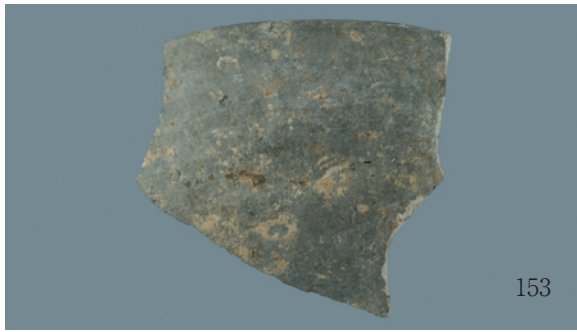


151

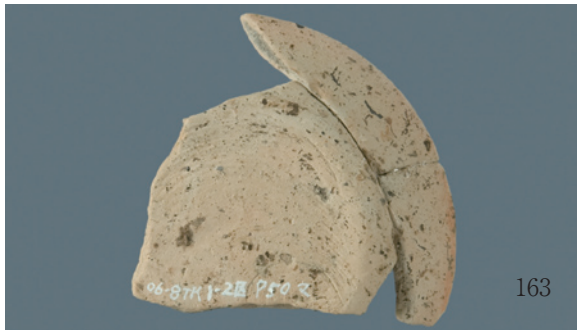


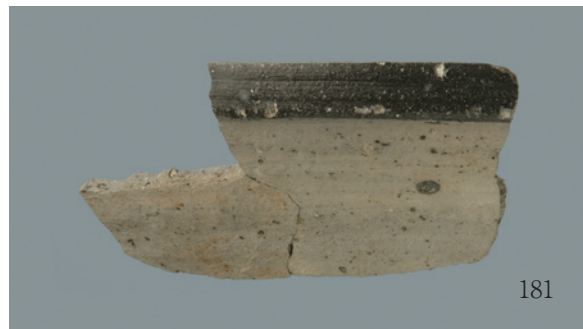
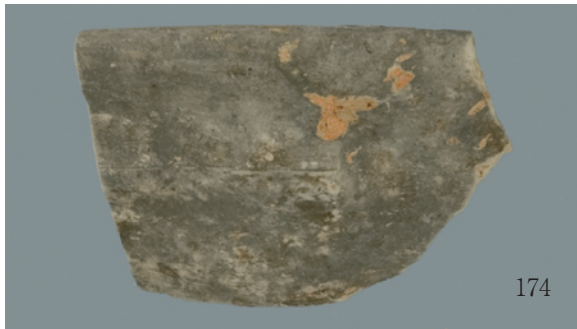
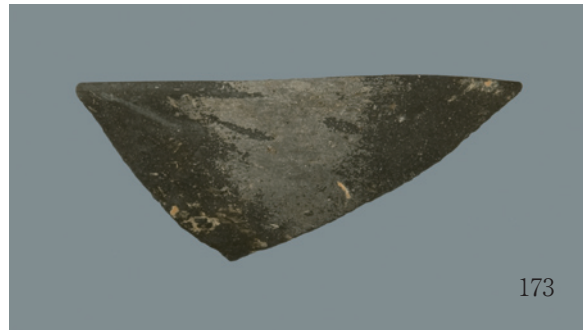
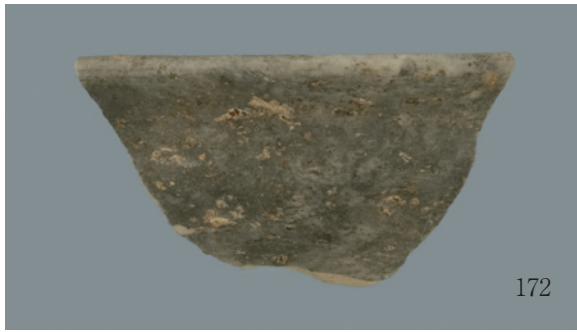
152

SX1 (146)・常滑 (148～150)・ピット (151, 152)

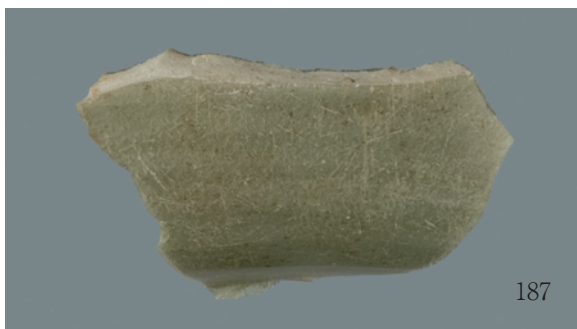
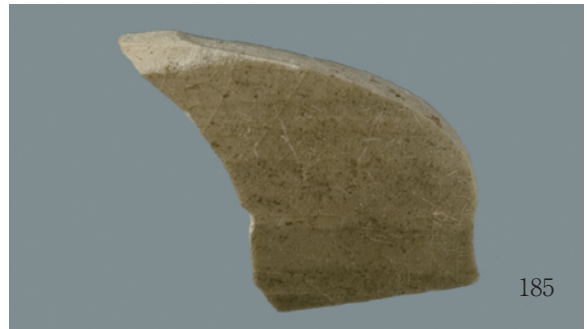
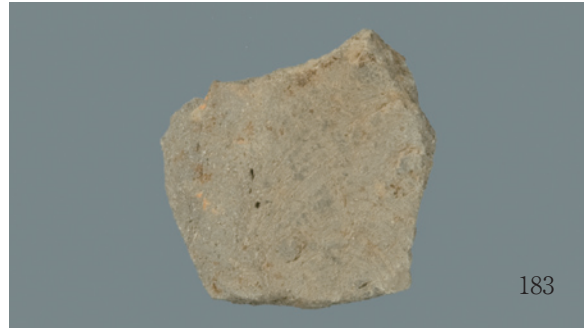
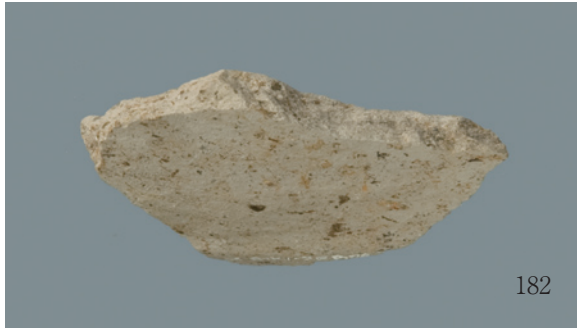


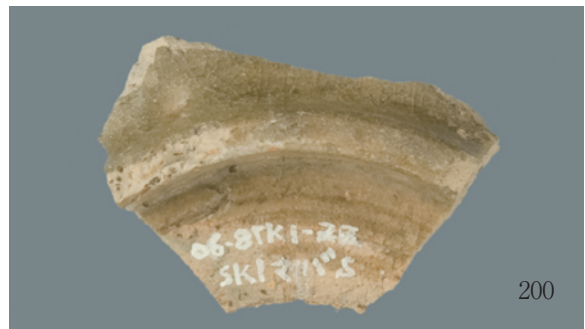
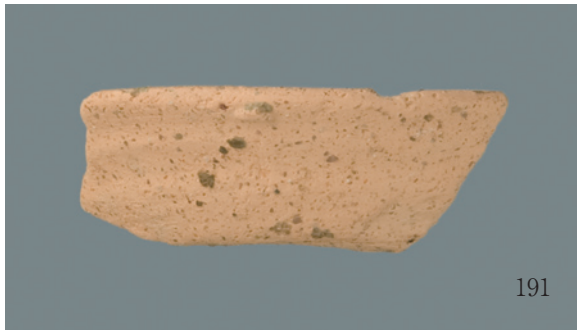
図版 48





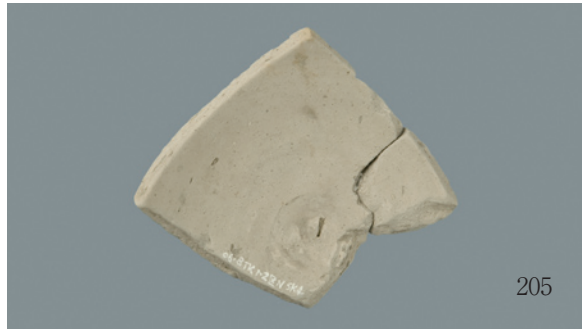
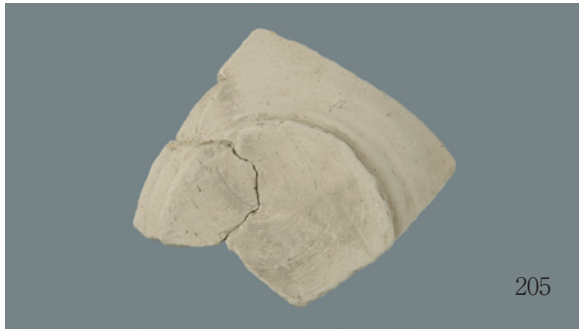
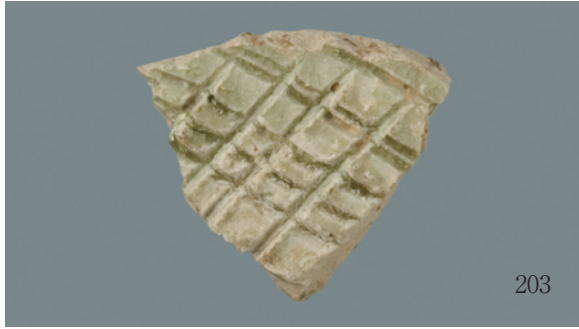
図版 50





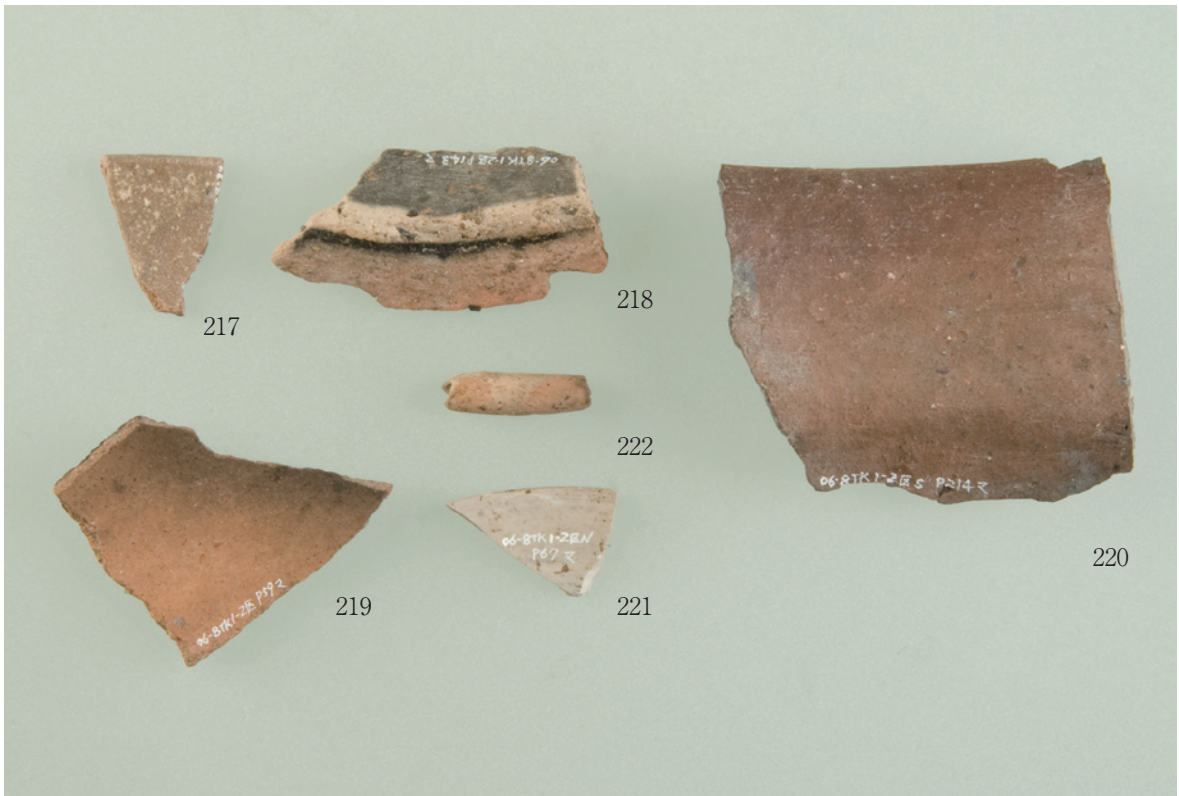
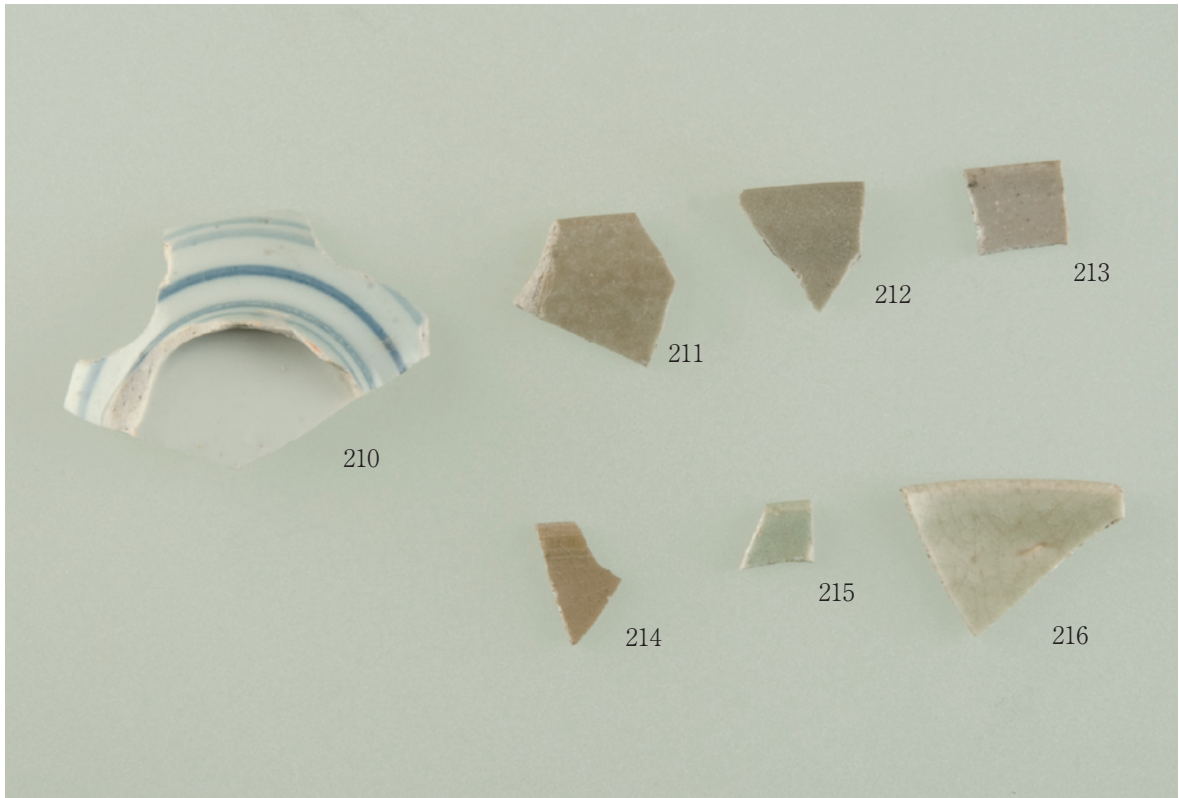
ピット (191 ~ 199) ・ SK1 (200)

图版 52



SK1 (201, 202) · SK4 (203 ~ 207) · SK5 (208, 209)





图版 54





SK13



SK14

图版 56



SK8 · 10 · 11



SD11 · 12 · 14



SD28

图版 58







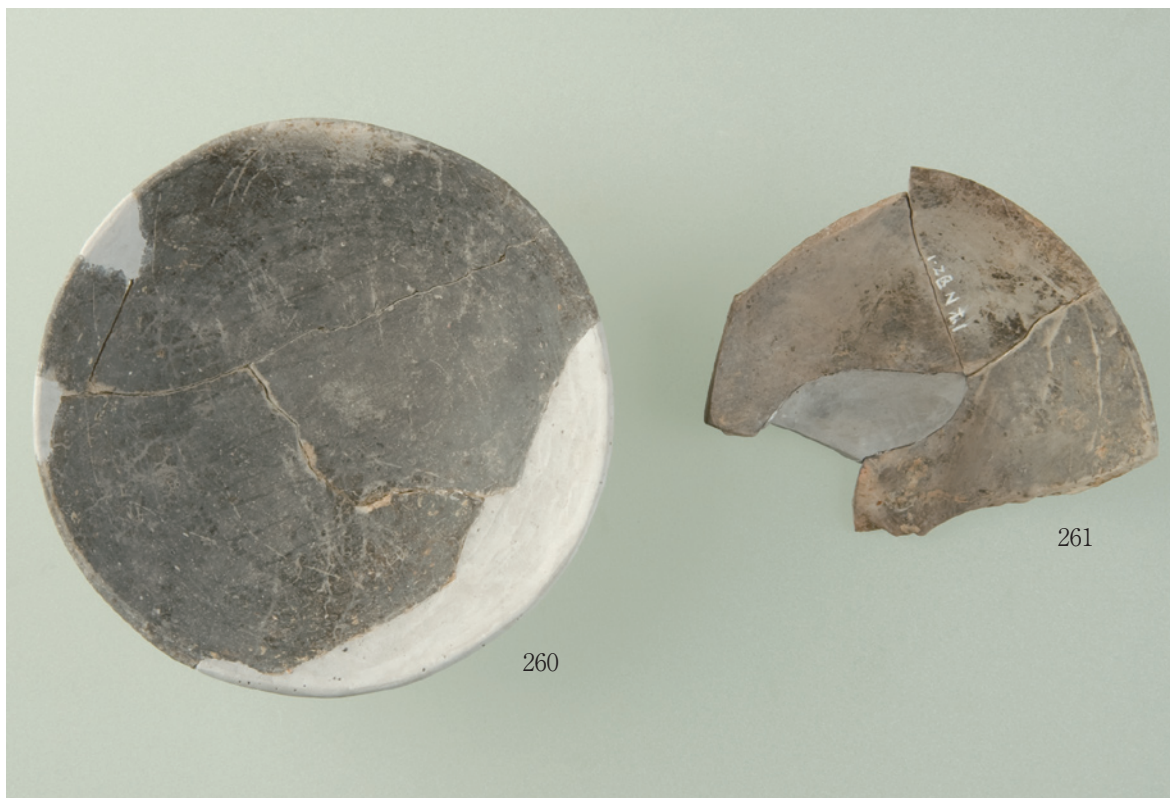




SD28 集中



ピット (古代)





包含層

图版 64



包含層



包含層·西壁

图版 66



包含層



包含層



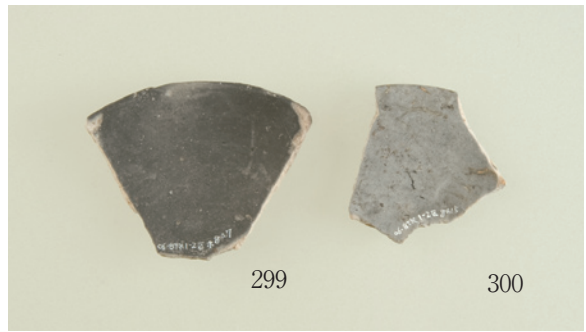
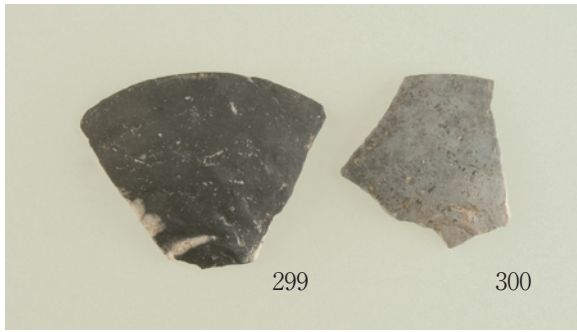
包含層



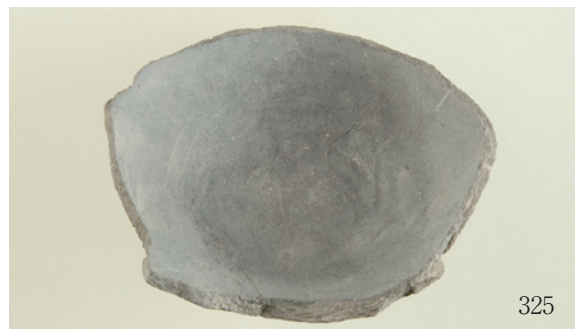


包含層

図版 70

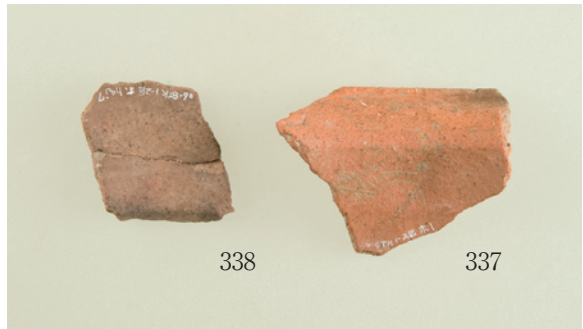


包含層

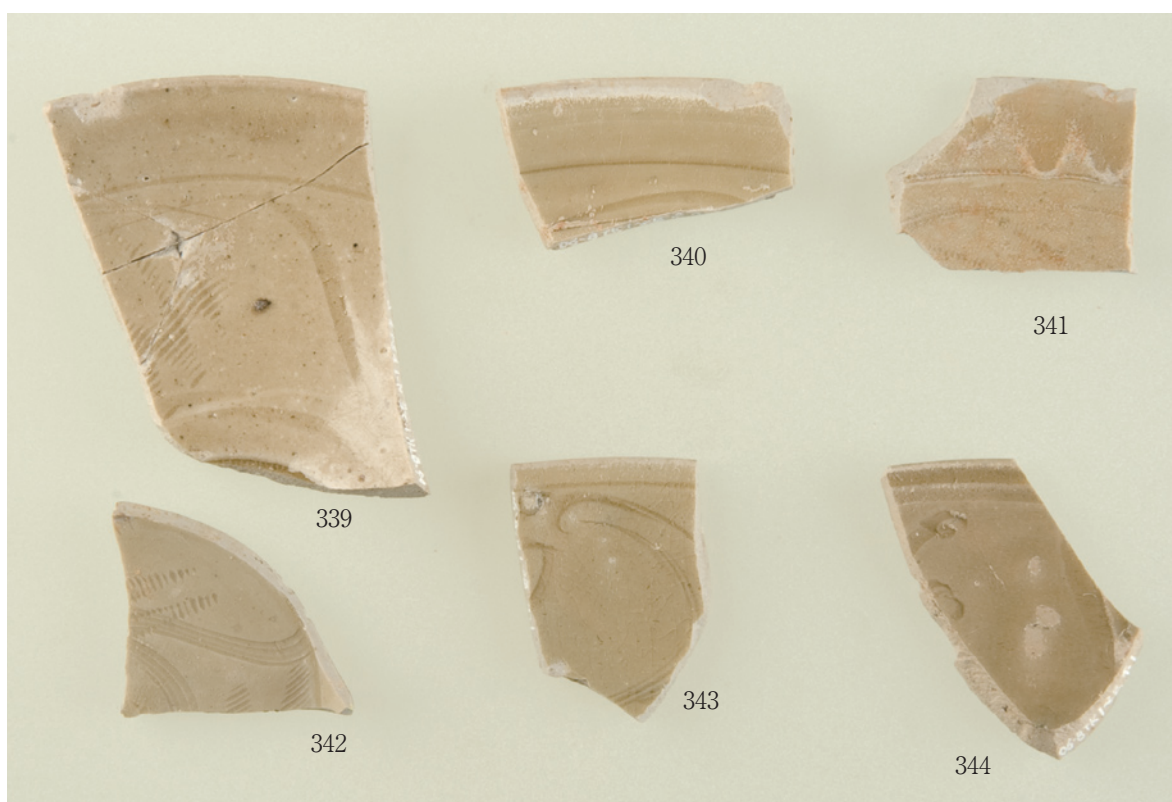


包含層

图版 72

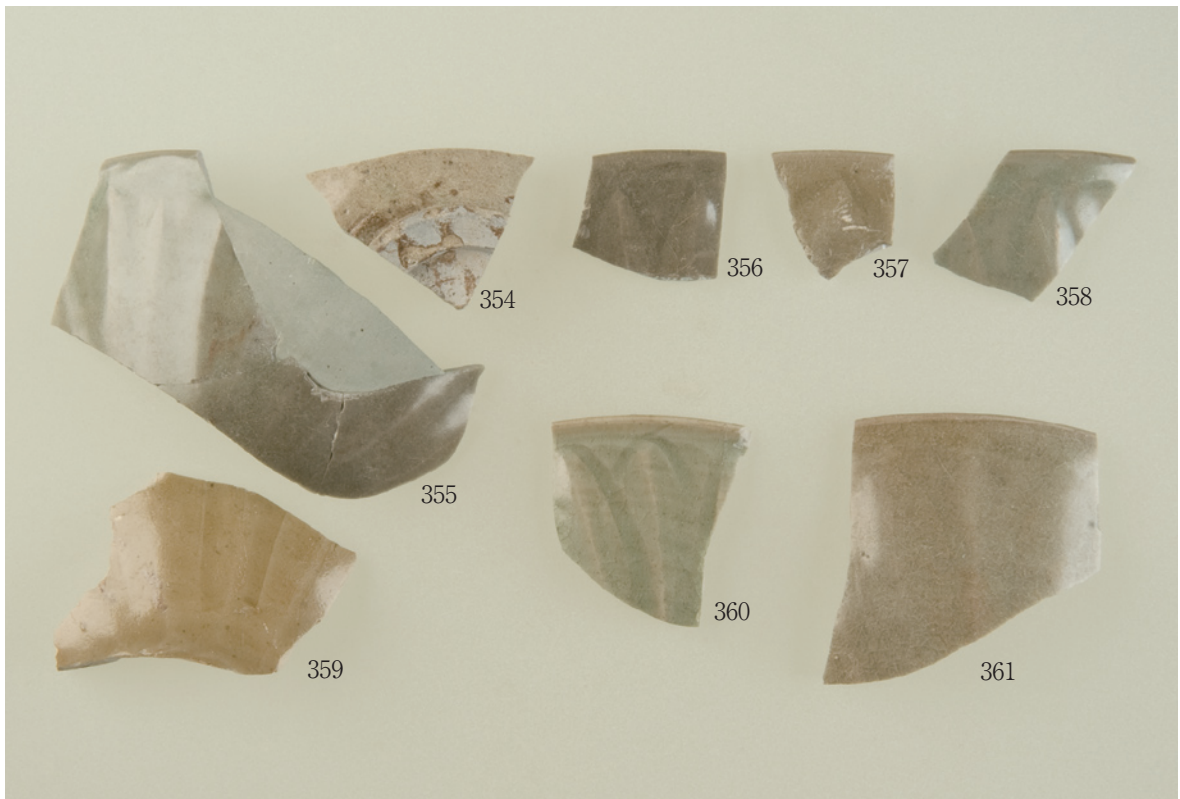


包含層

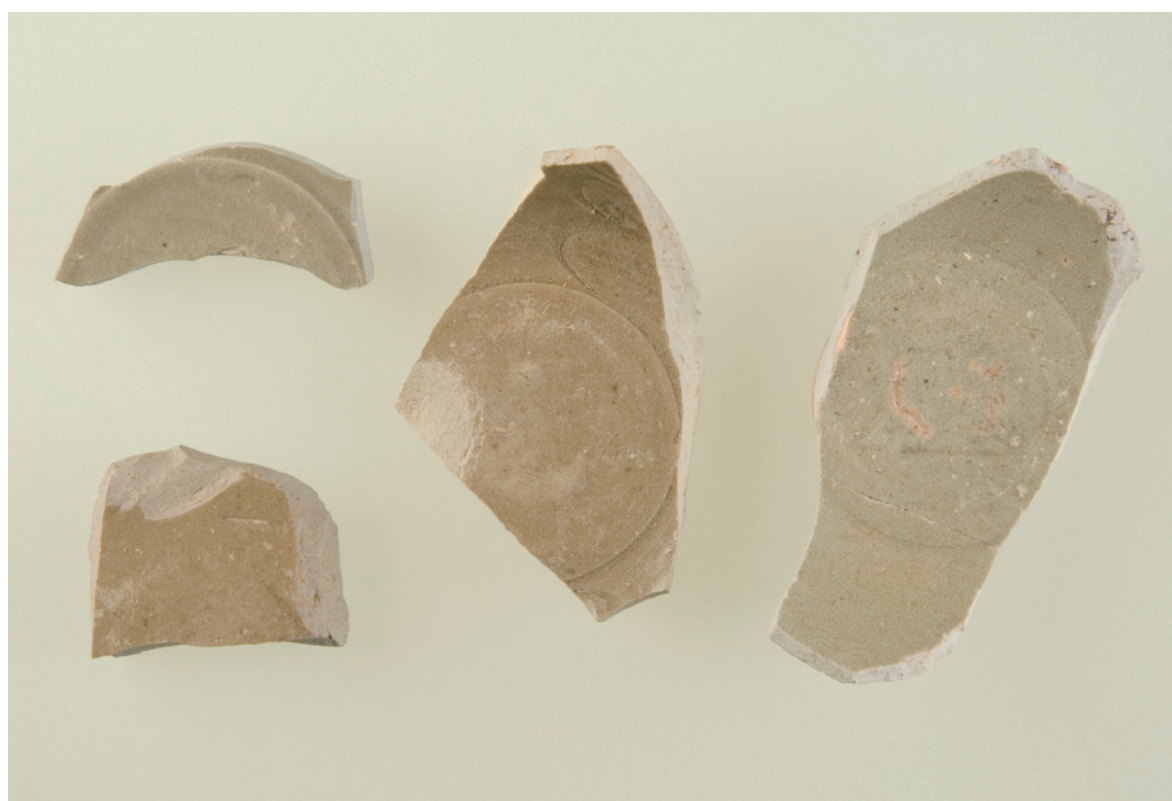


包含層

图版 74

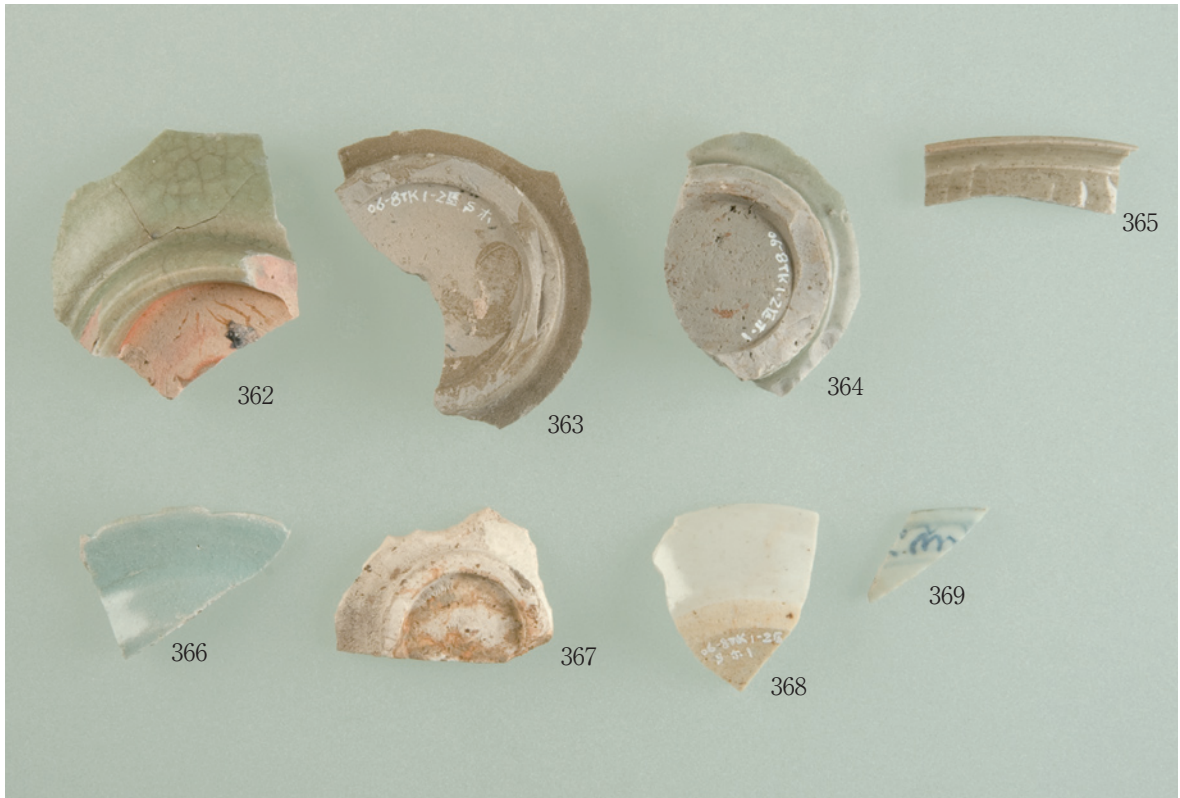


包含層



包含層

图版 76



包含層







379

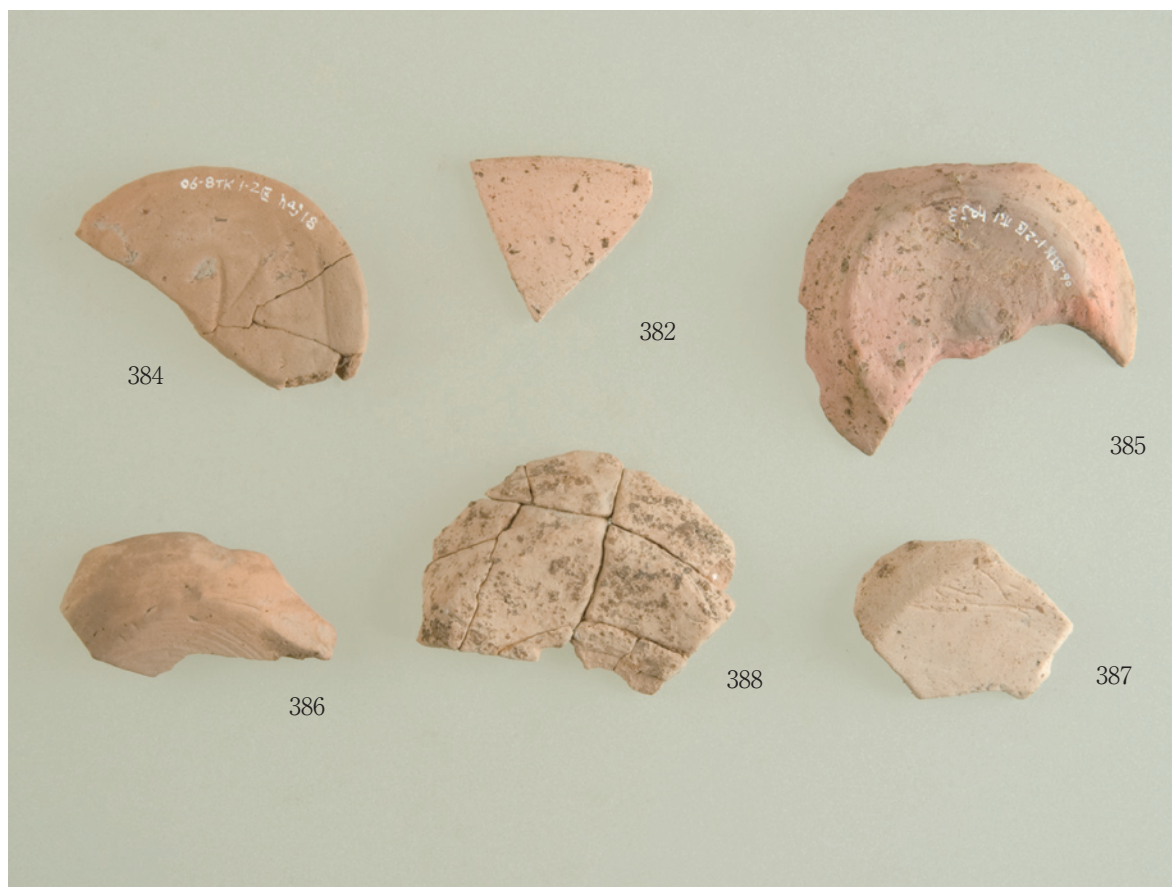
380



381

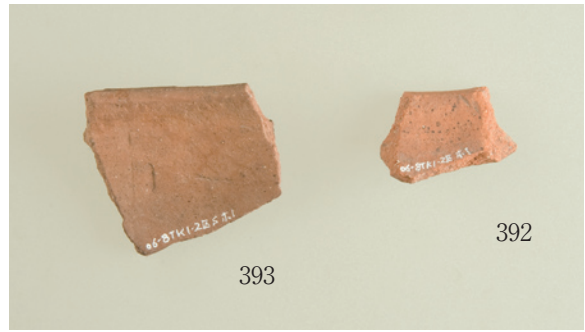
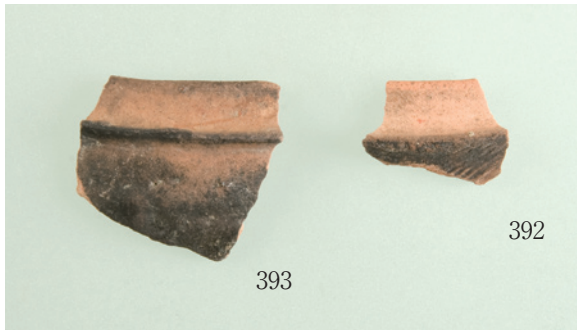
383

包含層

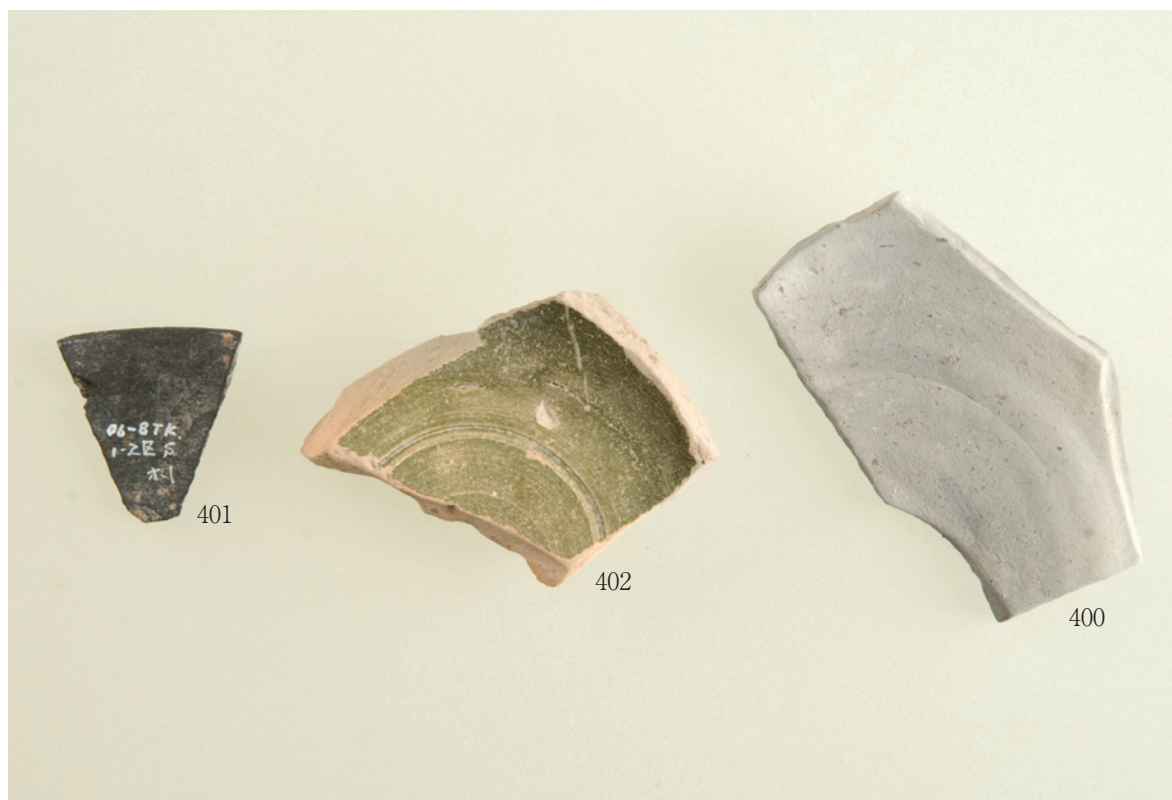


包含層

图版 80

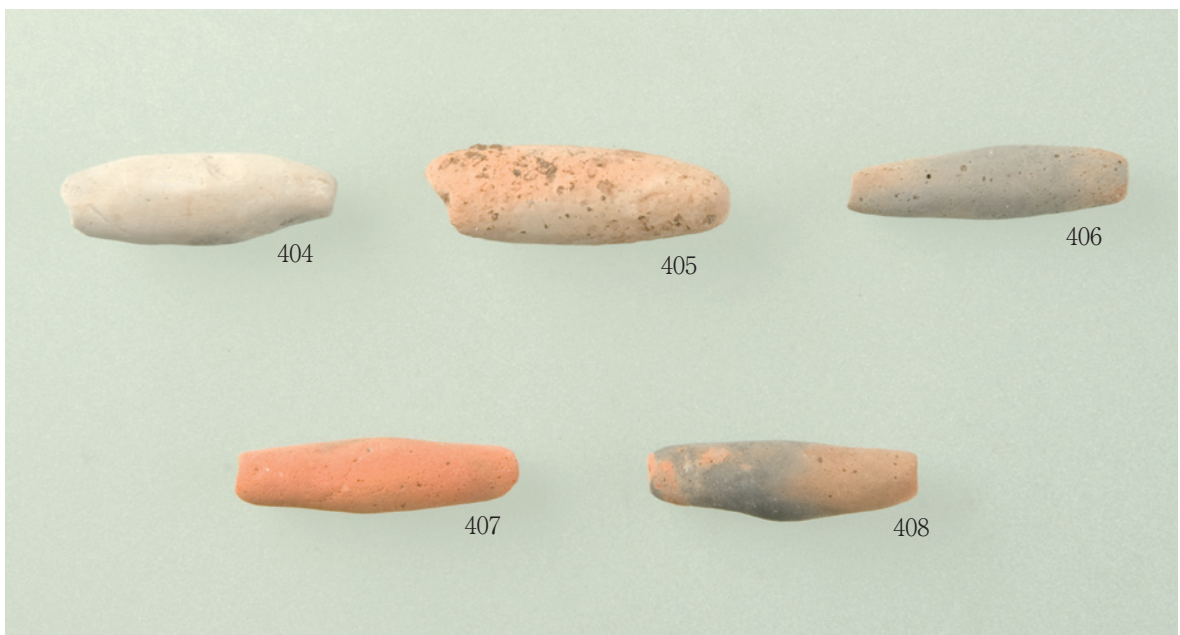
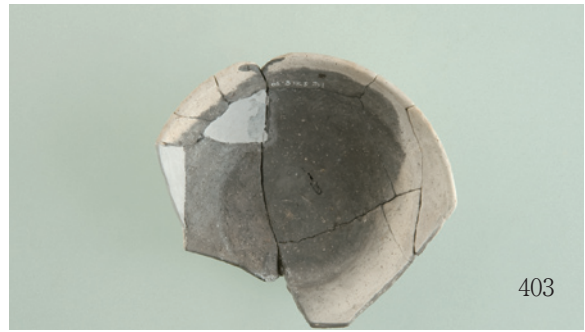


包含層



包含層

图版 82



包含層

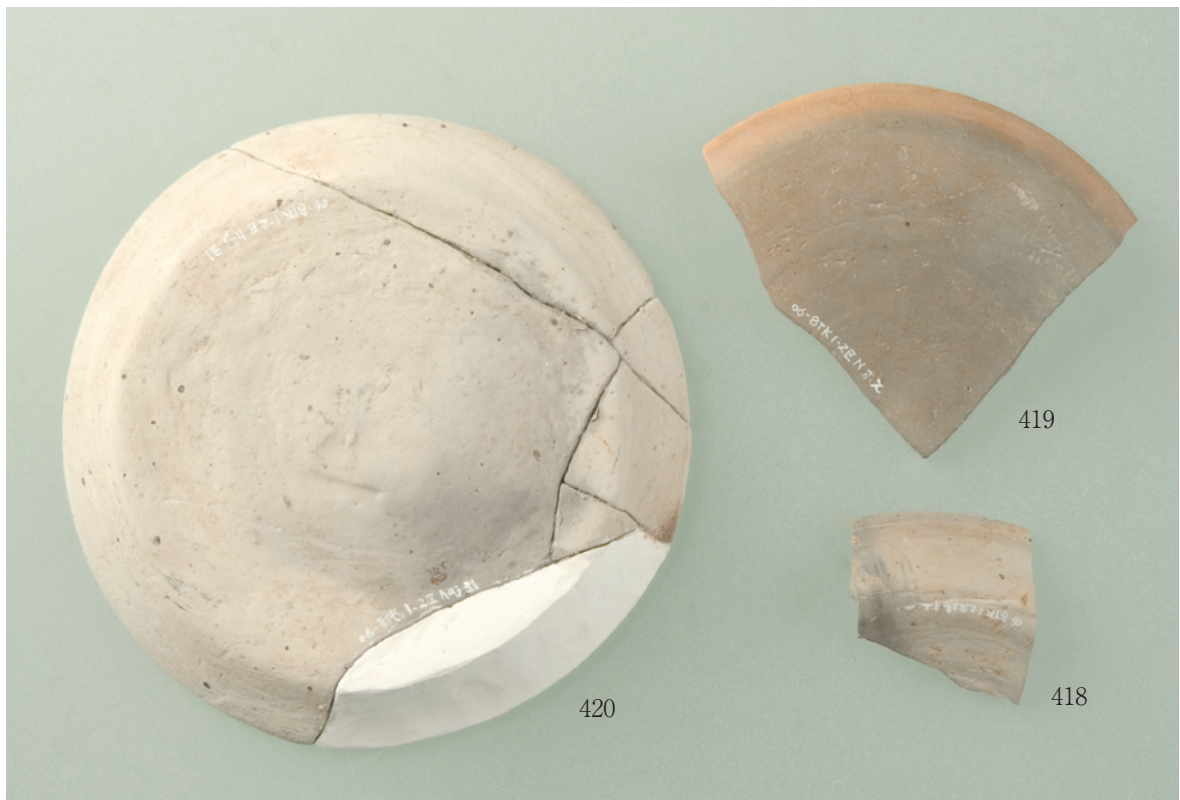


包含層



包含層 2

图版 84



包含層 2





包含層 2



包含層 2



图版 88



包含層 2

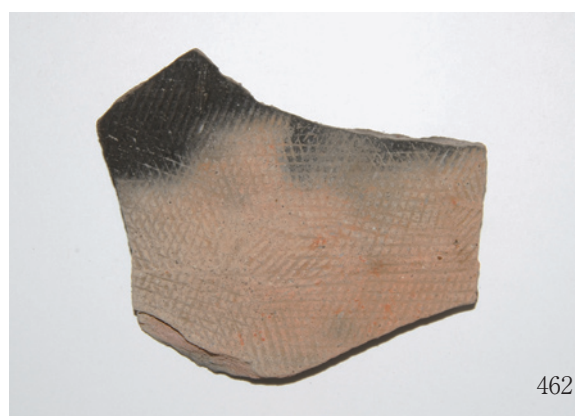
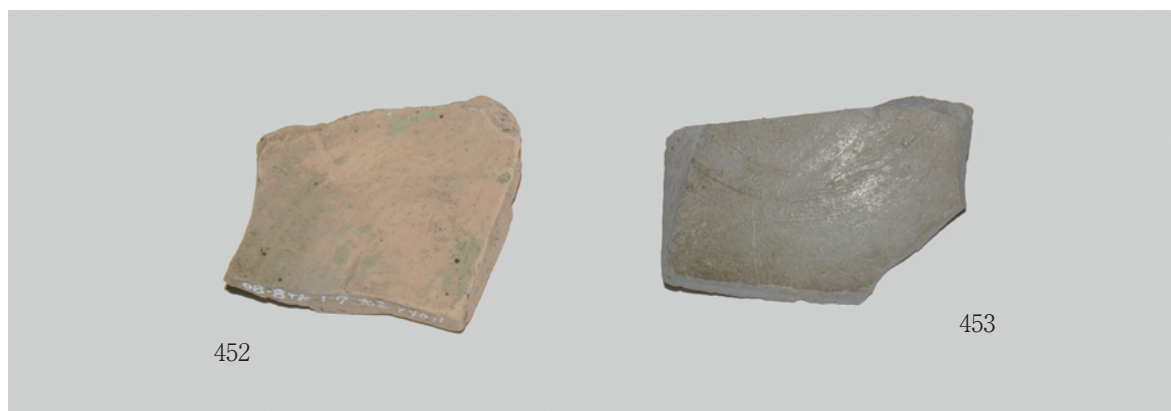


包含層 2

图版 90



包含層 2



1-6·7区出土遗物





## 報告書抄録

ふりがな	かみのむらいせきご							
書名	上ノ村遺跡Ⅴ							
副書名	波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ							
シリーズ名	高知県文化財団埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シリーズ番号	第129集							
編著者名	池澤 俊幸							
編集機関	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所在地	〒783-0006 高知県南国市篠原1437-1				TEL 088-864-0671 FAX 088-864-1423			
発行年月日	2012年3月16日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
かみのむらいせき 上ノ村遺跡	こうちけん と さし 高知県土佐市 にい かみのむら 新居上ノ村	39205	190119	33° 28' 21"	133° 27' 35"	2006.9 ～ 2006.10	2,010㎡	記録 保存
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上ノ村遺跡 第1地点2区	集落跡	古代 中世	堀立柱建物跡 溝跡 土抗 ピット 性格不明遺構	瓦器,常滑焼,東海 産陶器,紀伊型土釜, 東播系須恵器,貿易 陶磁器,畿内系黒色 土器甕・土師器甕, 須恵器大甕		畿内系の瓦器をはじめ, 紀伊や東海産品を含む多様 な遺物が出土。多数の和泉 型瓦器碗を含む一括資料も 検出した。古代では企画的 な溝跡群や柱穴を検出し た。		
要約	<p>現状では、中世の「流通拠点」的な遺物様相が県下で最も顕著な遺跡である。</p> <p>搬入品に関して特記すべき状況は、9世紀後葉に始まる。12世紀末葉以降は、瓦器碗等多量の搬入品の中に東海産の鉢類や紀伊系土釜、吉備系土師器碗といった県下初出或は極めて稀な遺物が含まれ、「非流通」の搬入品と位置付けられる。</p> <p>遺構では、溝で方形に囲まれ、建物が繰返し建てられる区画と、中世後期になって小規模な建物が単発的に営まれる川沿いの地区を認識することができる。</p> <p>古代においても、建物が企画的・継続的に営まれる地区と、梁・桁2間の建物が散在する地区が認められる。8世紀代には搬入品や官衙的な遺物様相が原則的にみられず、このような港津遺跡での活動状況について古代と中世の対比を描くことができる。</p> <p>本書では、古代・中世に中心的な様相を呈する地区の川裏側の一部について報告する。</p>							



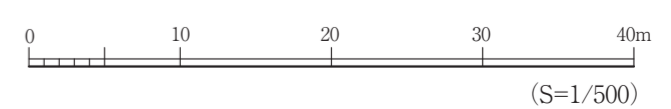
付図1 上ノ村遺跡1-2区上面遺構埋土及び出土遺物



付図2 上ノ村遺跡1-2区下面遺構埋土及び出土遺物



付図3 上ノ村遺跡1・3地点検出遺構図(上面)



(S=1/500)



新居城跡

地点A

3地点

県教委試掘区

旧堀防

1-6区

区画1

1-3区

1-7区

NW区

区画9

区画8

区画11

1-5区

1-1区

区画2a

区画2

区画2b

1-2区

NE区

区画3

S区

区画4

徳永神社跡

区画5

区画6

区画7

付図4 上ノ村遺跡1・3地点検出遺構図(中面)

0 10 20 30 40m  
(S=1/500)



付図5 上ノ村遺跡1・2・3地点検出遺構図(中面)



付図6 上ノ村遺跡1地点検出遺構図(下面・古代)

高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 129 集

## 上ノ村遺跡 V

波介川河口導流事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書VII

発行 (財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原 1437-1

電話 088-864-0671

発行日 2012年3月16日

印刷 川北印刷株式会社